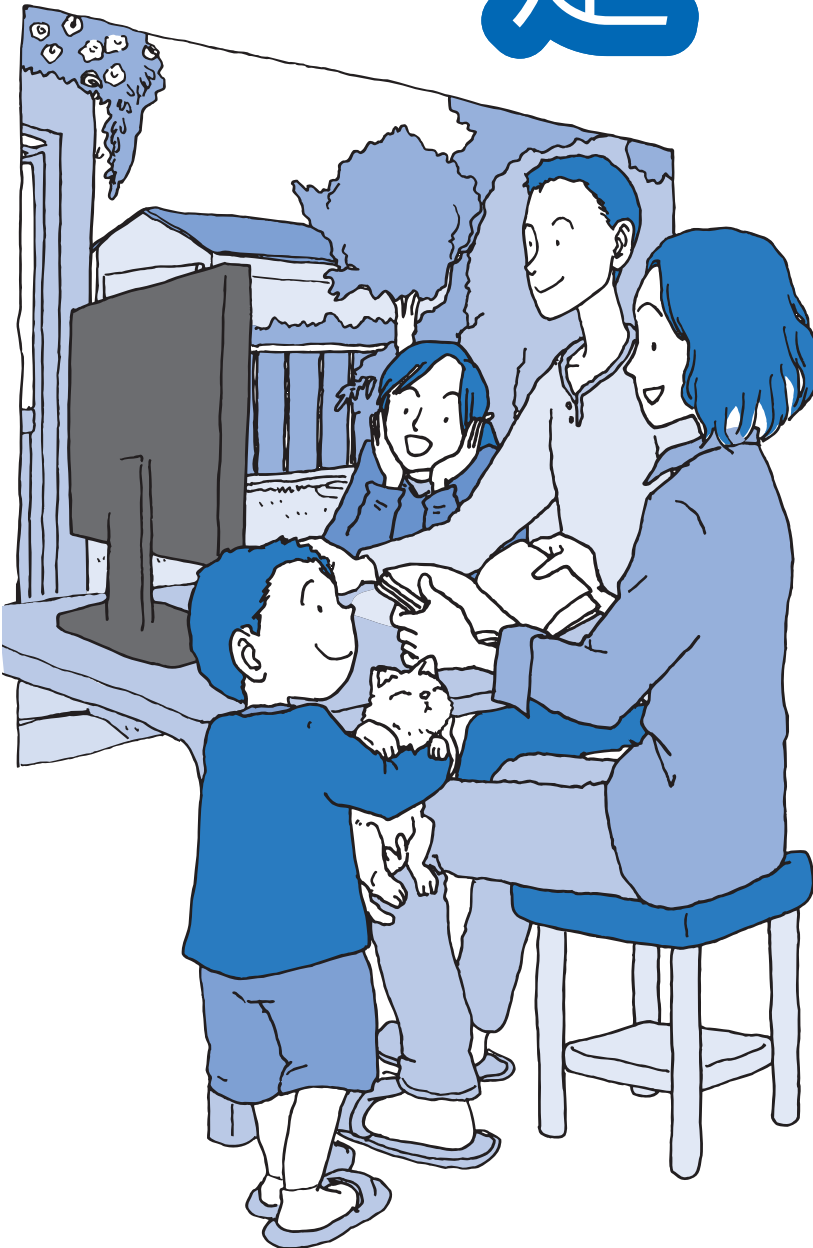
NEC

1 準備と設定

「あなたのパソコン」として使うために

LaVie L

箱を開けて最初にすること

電源を入れる前に接続しよう

セットアップを始める

基本中の基本の操作

これからインターネットを始めるかたへ

パソコンを買い替えたかたへ

前に使っていたパソコンと一緒に使いたいかたへ

パソコン内部に取り付ける

このパソコンのおすすめ機能

付録

●マニュアルガイド●

このパソコンには、次のマニュアルが添付されています。
目的に合わせてご覧ください。

この本

パソコンを使う準備をしよう
『準備と設定』

ケーブルの接続やパソコンのセットアップ／基本中の基本の操作／インターネットに接続する方法／パソコンを買い替えたときは　など

パソコン活用のヒントはこの本
『活用ブック』

マウスやウインドウの使い方／日本語入力をマスターしよう／メールやホームページの楽しみ方／便利なソフトの活用術／セキュリティ対策について　など

トラブルが起きたときは
『パソコンのトラブルを解決する本』

パソコンの電源が入らない、パソコンが急に動かなくなったときは／画面が表示されない／ウイルスに感染してしまったら／再セットアップ方法　など

853-810601-825-A

『準備と設定』の読み方

第1章～第3章まで
「箱を開けて最初にすること」「電源を入れる前に接続しよう」「セットアップを始める」

箱の中の添付品を確認したり、バッテリやACアダプタを接続する手順、はじめて電源を入れたときの設定（Windowsのセットアップ）手順を説明しています。

第4章　「基本中の基本の操作」

パソコンの始め方／終わり方、音量調節、CD-ROMやDVDなどのディスクの扱い方など、基本的な操作について説明しています。

第5章
「これからインターネットを始めるかたへ」

これまでにパソコンを持っていなかったかたは、この章をご覧ください。インターネットに接続する方法について説明しています。

第6章
「パソコンを買い替えたかたへ」

パソコンを買い替えたかたは、この章をご覧ください。インターネットに接続する方法や、以前のパソコンの設定やデータを新しいパソコンに移す方法について説明しています。

第7章　「前に使っていたパソコンと一緒に使いたいかたへ」

複数のパソコンをネットワーク接続して利用したいかたは、この章をご覧ください。

第8章　「パソコン内部に取り付ける」

このパソコンにメモリを取り付ける方法を説明しています。

第9章　「このパソコンのおすすめ機能」

このパソコン特有の機能を設定するには、この章をご覧ください。

付　録

パソコンのお手入れの方法、仕様一覧など、さまざまな情報を記載しています。

853-810601-825-A
2009年4月　初版

このマニュアルの表記について

◆このマニュアルで使用している記号や表記には、次のような意味があります

⚠注意	人が傷害を負う可能性が想定される内容、および、物的損害の発生が想定される内容を示します。

障害や事故の発生を防止するための指示事項は、次のマークで表しています。

	使用者に対して指示に基づく行為を強制するものです。

その他の指示事項は、次のマークで表しています。

	そのページで説明している手順で、特に大切なことです。
	してはいけないことや、注意していただきたいことです。よく読んで注意を守ってください。場合によっては、作ったデータの消失、使用しているソフトの破壊、パソコンの破損などの可能性があります。

◆このマニュアルの表記では、次のようなルールを使っています

【　】	【　】で囲んである文字は、キーボードのキーを指します。
DVD/CDドライブ	ブルーレイディスクドライブ（DVDスーパーマルチドライブ機能付き）、BD-ROMドライブ（DVDスーパーマルチドライブ機能付き）またはDVDスーパーマルチドライブを指します。
「ソフト&サポートナビゲーター」	「ソフト＆サポートナビゲーター」を起動して、各項目を参照することを示します。 「ソフト＆サポートナビゲーター」は、デスクトップの（ソフト＆サポートナビゲーター）をダブルクリックして起動します。

◆このマニュアルでは、各モデル(機種)を次のような呼び方で区別しています

ご購入された製品の型名とマニュアルで表記されるモデル名について詳しくは、添付の『本製品の仕様について』をご覧ください。

このパソコン、本機	このマニュアルで説明している各モデル(機種)を指します。
DVDスーパーマルチドライブモデル	DVDスーパーマルチドライブ(DVD-R/RW with DVD+R/RWドライブ(DVD-R/+R 2層書込み))を搭載しているモデルのことです。
ブルーレイディスクドライブモデル	ブルーレイディスクドライブ(DVDスーパーマルチドライブ機能付き)を搭載しているモデルのことです。
BD-ROMドライブモデル	BD-ROMドライブ(DVDスーパーマルチドライブ機能付き)を搭載しているモデルのことです。
Draft 11n対応ワイヤレスLAN(bgn)モデル	IEEE802.11b/g(2.4GHz)およびDraft IEEE802.11n(2.4GHz)の規格に対応したワイヤレスLANインターフェイスを内蔵しているモデルのことです。
FeliCa対応モデル	「FeliCaポート」を搭載、または添付したモデルのことです。
Windows Vista Home Premiumモデル	Windows Vista® Home Premiumがあらかじめインストールされているモデルのことです。
Office 2007モデル	Office Personal 2007またはOffice Personal 2007とPowerPoint 2007が添付されているモデルのことです。
Office Personal 2007モデル	Office Personal 2007が添付されているモデルのことです。

◆LaVie Gシリーズについて

LaVie Gシリーズの各モデルについては、添付の『LaVie Gシリーズをご購入いただいたお客様へ』をご覧ください。

◆本文中の記載について

- 本文中の画面やイラスト、ホームページは、モデルによって異なることがあります。また、実際の画面と異なることがあります。
- 記載している内容は、このマニュアルの制作時点のものです。お問い合わせ先の窓口、住所、電話番号、ホームページの内容やアドレスなどが変更されている場合があります。あらかじめご了承ください。

◆周辺機器について

- 接続する周辺機器および利用するソフトウェアが、各種インターフェイスに対応している必要があります。
- 他社製増設機器、および増設機器に添付のソフトウェアにつきましては、動作を保証するものではありません。他社製品との接続は、各メーカにご確認の上、お客様の責任においておこなってくださるようお願いいたします。

◆このマニュアルで使用しているソフトウェア名などの正式名称

(本文中の表記)	(正式名称)
Windows、Windows Vista	Windows Vista® Home Basic with Service Pack 1 (SP1) Windows Vista® Home Premium with Service Pack 1 (SP1) Windows Vista® Business with Service Pack 1 (SP1) Windows Vista® Ultimate with Service Pack 1 (SP1)
Windows XP、Windows XP Home Edition	Microsoft® Windows® XP Home Edition operating system 日本語版Service Pack 3
Windows XP、Windows XP Professional	Microsoft® Windows® XP Professional operating system 日本語版Service Pack 3
Windows XP、Windows XP Media Center Edition	Microsoft® Windows® XP Media Center Edition 2005 operating system 日本語版
Windows 2000 Professional	Microsoft® Windows® 2000 Professional operating system 日本語版
Office Personal 2007	Microsoft® Office Personal 2007 (Microsoft® Office Word 2007、Microsoft® Office Excel® 2007、Microsoft® Office Outlook® 2007 (Microsoft® Office ナビ 2007)) ※Microsoft® Office 2007 Service Pack 1をインストール済み
Office Personal 2007 with PowerPoint 2007	Microsoft® Office Personal 2007 with Microsoft® Office PowerPoint® 2007 ※Microsoft® Office 2007 Service Pack 1をインストール済み
Outlook、Outlook 2007	Microsoft® Office Outlook® 2007
インターネットエクスプローラ、Internet Explorer	Windows® Internet Explorer®
Windows転送ツール	Windows® 転送ツール
Windows Media Center	Windows® Media Center
「スタート」、「スタート」ボタン	Windows Vista® スタート ボタン
ウイルスバスター	ウイルスバスター™ 2009
パーソナルシェルター	パーソナルシェルター for NEC PC109NBG (Webカメラを搭載したモデルは、パーソナルシェルター for NEC PC109NBGN)
スクリーンセーバーロック2	スクリーンセーバーロック2 for NEC PC109NBG (Webカメラを搭載したモデルは、スクリーンセーバーロック2 for NEC PC109NBGN)
EdyViewer	EdyViewer 2.1.2.2
かざしてナビ	かざしてナビ for NEC PC109NBG (Webカメラを搭載したモデルは、かざしてナビ for NEC PC109NBGN)
シンプルログオン	シンプルログオン for NEC PC109NBG (Webカメラを搭載したモデルは、シンプルログオン for NEC PC109NBGN)
Windows LiveMessenger	Windows Live™ Messenger

WinDVD for NEC	InterVideo® WinDVD® for NEC
WinDVD AVC for NEC	InterVideo® WinDVD® AVC for NEC
WinDVD BD for NEC	InterVideo WinDVD BD® for NEC
Roxio BackOnTrack	Roxio BackOnTrack Suite

ご注意

(1) 本書の内容の一部または全部を無断転載することは禁じられています。
(2) 本書の内容に関しては将来予告なしに変更することがあります。
(3) 本書の内容については万全を期して作成いたしましたが、万一ご不審な点や誤り、記載もれなどお気づきのことがありましたら、NEC 121コンタクトセンターへご連絡ください。落丁、乱丁本はお取り替えいたします。
(4) 当社では、本装置の運用を理由とする損失、逸失利益等の請求につきましては、(3)項にかかわらずいかなる責任も負いかねますので、予めご了承ください。
(5) 本装置は、医療機器、原子力設備や機器、航空宇宙機器、輸送設備や機器など、人命に関わる設備や機器、および高度な信頼性を必要とする設備や機器などへの組み込みや制御等の使用は意図されておりません。これら設備や機器、制御システムなどに本装置を使用され、人身事故、財産損害などが生じても、当社はいかなる責任も負いかねます。
(6) 海外NECでは、本製品の保守・修理対応をしておりませんので、ご承知ください。
(7) 本機の内蔵ハードディスクにインストールされているWindows Vista® Home Basic、Windows Vista® Home Premium、Windows Vista® BusinessまたはWindows Vista® Ultimateおよび本機に添付のCD-ROM、DVD-ROMは、本機のみでご使用ください。
(8) ソフトウェアの全部または一部を著作権の許可なく複製したり、複製物を頒布したりすると、著作権の侵害となります。

商標について

Microsoft、Windows、Windows Vista、Internet Explorer、Office ロゴ、Excel、Outlook、PowerPoint、Windows Liveは、米国Microsoft Corporation の米国およびその他の国における商標または登録商標です。
インテル、Intel、Pentium、Celeron、Intel Coreはアメリカ合衆国およびその他の国におけるIntel Corporationまたはその子会社の商標または登録商標です。
TRENDMICROおよびウイルスバスターは、トレンドマイクロ株式会社の登録商標です。
InterVideo、WinDVD、InterVideo WinDVD BD、DVD MovieWriterはCorel Corporation およびその関連会社の商標または登録商標です。
SDおよびminiSDロゴ、およびロゴは商標です。
"MagicGate Memory Stick"("マジックゲートメモリースティック")および"Memory Stick"("メモリースティック")、MEMORY STICK、、、MEMORY STICK PRO、MEMORY STICK Duo、"MagicGate"("マジックゲート")、MAGICGATE、OpenMGはソニー株式会社の商標です。
、「xD-ピクチャーカード™」は富士フイルム株式会社の商標です。
ExpressCardならびにそのロゴはPCMCIA(Personal Computer Memory Card International Association)の商標です。
Bluetoothワードマークとロゴは Bluetooth SIG, Inc.の所有であり、NECはライセンスに基づきこのマークを使用しています。
"Blu-ray Disc"は、商標です。
HDMI、HDMIロゴ、High-Definition Multimedia Interfaceは、HDMI Licensing LLCの商標または登録商標です。
DLNAおよびDLNA CERTIFIEDは、デジタルリビングネットワークアライアンス(Digital Living Network Alliance)の商標です。
121 ポップリンクは、日本電気株式会社の登録商標です。
BIGLOBEはＮＥＣビッグローブ株式会社の登録商標です。
「FeliCa」は、ソニー株式会社が開発した非接触ICカードの技術方式で、ソニーの登録商標です。

「Edy」は、ビットワレット株式会社が管理するプリペイド型電子マネーサービスのブランドです。
「Kitaca」は、北海道旅客鉄道株式会社の登録商標です。
「Suica」は、東日本旅客鉄道株式会社の登録商標です。

「TOICA」は東海旅客鉄道株式会社の登録商標です。
「ICOCA」は西日本旅客鉄道株式会社の登録商標です。
「nimoca」は西日本鉄道株式会社の登録商標です。
「PiTaPa」は株式会社スルッとKANSAIの登録商標です。
「おサイフケータイ」はNTTドコモの登録商標です。
は、フェリカネットワークス株式会社の登録商標です。
「かざしてポン！」および「かざポン」はフェリカネットワークス株式会社の商標です。
(株)パスモ商標利用許諾済　第18号

PASMOマーク mo 及び PASMO は(株)パスモが本商品・サービスの内容・品質を保証するものではありません。

(株)パスモの都合により予告なくPASMOカードが交換されることがあります。
「PASMO」は、株式会社パスモの登録商標です。
「Yahoo!」は、Yahoo!Inc.の登録商標です。
ヤフー株式会社は、これに関する権利を有しています。
DigiOn、DiXiMは株式会社デジオンの登録商標です。
Logitech, Logitechロゴ, QuickCamは、米国及び他国でのLogitechの商標又は登録商標です。
Logicool, Logicoolロゴ, その他Logicoolマークは、日本及び他国でのLogicoolの商標又は登録商標です
「ホットスポット」はNTTコミュニケーションズの登録商標です。
「Near Field Rights Management」および「NFRM」は、日本国内における株式会社フェイスの商標または登録商標です。
SmartPhotoはNECパーソナルプロダクツ株式会社の商標です。
「Image Intelligence」、「イメージ・インテリジェンス」、「フェイスサーチナビ」は、富士フイルム株式会社の商標です。
Roxio BackOnTrackは米国 Sonic Solutions社の登録商標です。

その他、本マニュアルに記載されている会社名、商品名は、各社の商標または登録商標です。

目次

■輸出に関する注意事項

本製品（ソフトウェアを含む）は日本国内仕様であり、外国の規格等には準拠していません。
本製品を日本国外で使用された場合、当社は一切責任を負いかねます。
従いまして、当社は本製品に関し海外での保守サービスおよび技術サポート等は行っていません。

本製品の輸出（個人による携行を含む）については、外国為替及び外国貿易法に基づいて経済産業省の許可が必要となる場合があります。
必要な許可を取得せずに輸出すると同法により罰せられます。
輸出に際しての許可の要否については、ご購入頂いた販売店または当社営業拠点にお問い合わせください。

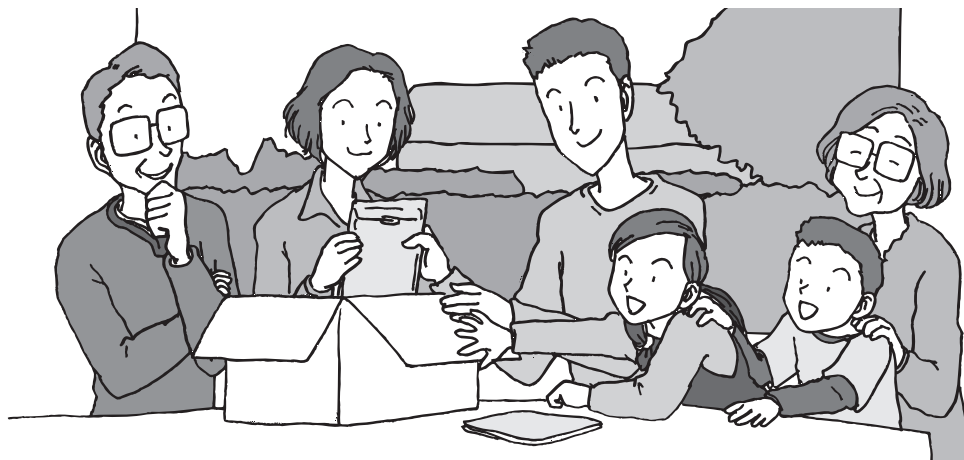
■Notes on export

This product (including software) is designed under Japanese domestic specifications and does not conform to overseas standards. NEC*1 will not be held responsible for any consequences resulting from use of this product outside Japan. NEC*1 does not provide maintenance service nor technical support for this product outside Japan.

Export of this product (including carrying it as personal baggage) may require a permit from the Ministry of Economy, Trade and Industry under an export control law. Export without necessary permit is punishable under the said law.
Customer shall inquire of NEC sales office whether a permit is required for export or not.

*1: NEC Corporation, NEC Personal Products, Ltd.

第1章

箱を開けて最初にすること

この章には、パソコンの箱を開けて最初にすることが書いてあります。添付品が全部そろっているか、型番や製造番号が合っているか確認しましょう。

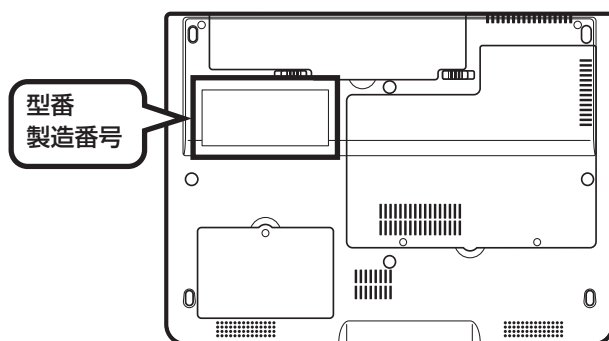
この章の所要時間：10〜15分程度

型番と製造番号を確認する

ポイント

- 保証書と本体のラベルの記載が一致していることを確認する

1 パソコン本体の保証書を見る

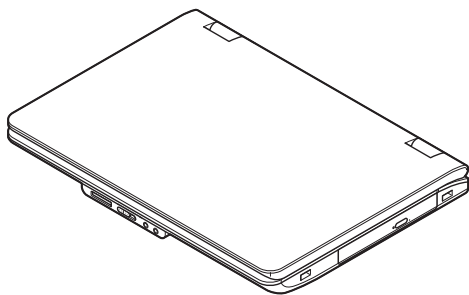
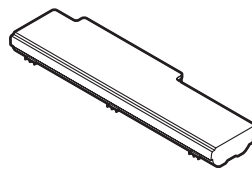
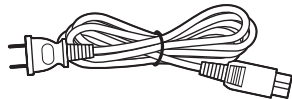
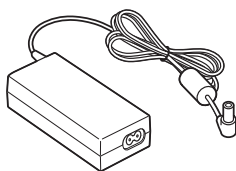
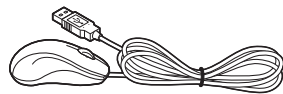
2 パソコン底面のラベルと一致しているか確認する

- 機器に記載された番号が保証書と異なっている場合、NEC 121コンタクトセンターにお問い合わせください。
- 保証書は、所定事項(販売店名、お買い上げ日など)が記入されていることを確認して、保管しておいてください。保証期間中に万一故障した場合は、保証書記載内容に基づいて修理いたします。保証期間終了後の修理についてはNEC 121コンタクトセンターにお問い合わせください。

添付品はそろっていますか？

ポイント
- 添付品がそろっているかチェックリストで確認する

1 添付品を確認する

次のチェックリストを見ながら、添付品がそろっているかを確認してください。

LaVie Gシリーズをご購入の場合は、『LaVie Gシリーズをご購入いただいたお客様へ』をご覧になり、添付品を確認してください。

□ パソコン本体

□ バッテリパック

□ 電源コード

□ ACアダプタ

□ マウス

マニュアルなど

- □ ソフトウェアのご使用条件(お客様へのお願い)／ソフトウェア使用条件適用一覧
  ※1枚になっています。
  箱の中身を確認後必ずお読みください
- □ 安全にお使いいただくために
  ※箱の中身を確認後必ずお読みください
- □ デジタル放送録画番組配信機能をお使いのお客様へ
- □ PC修理チェックシート
- □ 本製品の仕様について
- □ 準備と設定(このマニュアル)
- □ 活用ブック
- □ パソコンのトラブルを解決する本
- □ 121wareガイドブック
- □ インターネット活用ブック

Microsoft® Office Personal 2007の添付品

- □ Microsoft® Office Personal 2007 パッケージ

添付品が足りないときは

万一、足りないものがあったり、添付品の一部が破損していたときは、すぐに下記までお問い合わせください。

困ったときには…
NEC 121(ワントゥワン)コンタクトセンター

0120-977-121

※電話番号をよくお確かめになり、おかけください。
※携帯電話やPHS、もしくはIP電話など、上記電話番号をご利用いただけないお客様は次の電話番号へおかけください。
03-6670-6000(通話料お客様負担)

第2章

電源を入れる前に接続しよう

添付品と保証書の内容を確認したら接続です。バッテリとACアダプタを取り付けましょう。電源を扱うことになるので、慎重に作業しましょう。次ページから順番に作業を進めてください。

この章の所要時間：5〜10分程度

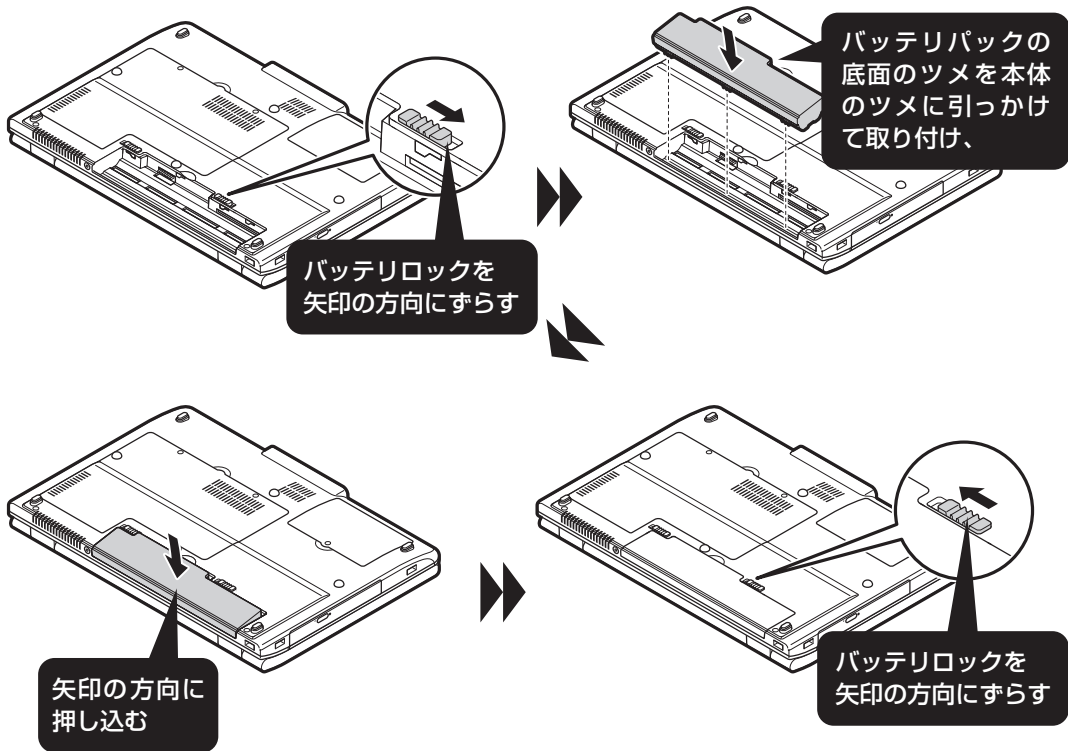
インターネットや周辺機器は後から接続

ここではまだ、インターネットには接続しません。また、プリンタなどの周辺機器があるときも、まだ接続しないでください。「第3章　セットアップを始める」で説明している作業が終わってから、インターネットや周辺機器の接続をおこないます。

バッテリパックを取り付ける

ポイント
- バッテリパックの向きに注意

1 バッテリパックを取り付ける

パソコンを裏返し、バッテリパックの向きに注意して、矢印の方向にカチッと音がするまでしっかり取り付けてください。

バッテリパックの取り外し方

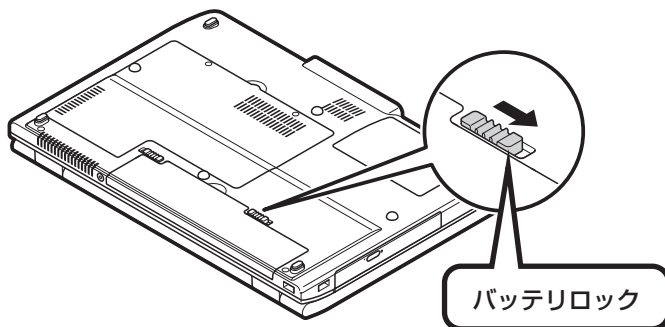
1 パソコンの電源を切る

通常、パソコンを使っていないときも、パソコンはスリープ状態になっています。一度、Windowsを起動してから、「電源を切る（シャットダウンする）」（42ページ）の手順で電源を切ってください。

2 電源コードのプラグをコンセントから抜いて、ACアダプタをパソコンから取り外す

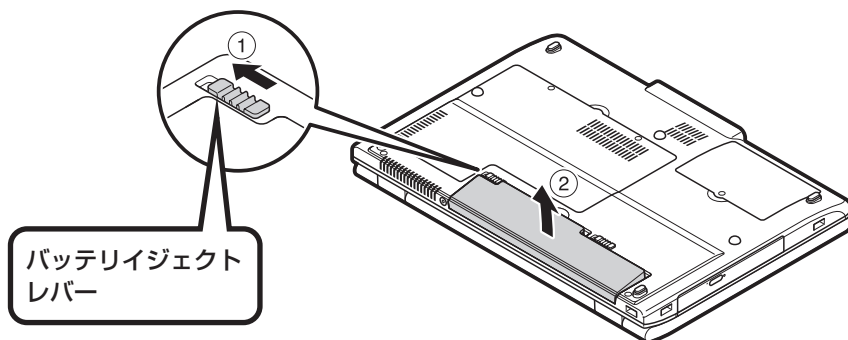
3 液晶ディスプレイを閉じて、パソコンを裏返す

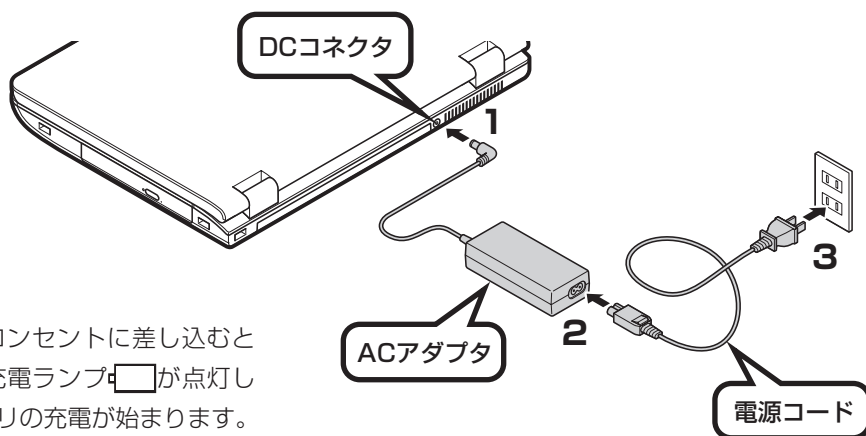
4 バッテリパックを取り外す

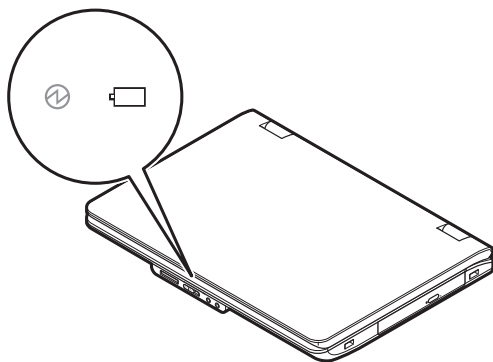
バッテリロックを矢印の方向にスライドさせ、ロックを解除します。

バッテリイジェクトレバー（ ）を図の矢印の方向にスライドさせたまま（①）、バッテリパックを持ち上げて取り外します（②）。

電源を入れる前に接続しよう

ACアダプタを接続する

ポイント
● 接続する順番を守る

1 ACアダプタを接続する

1 ACアダプタ(PC-VP-BP48)をDCコネクタ(⎓)に接続する
2 電源コードをACアダプタに接続する
3 電源コードのプラグをコンセントに差し込む

プラグをコンセントに差し込むとバッテリ充電ランプが点灯して、バッテリの充電が始まります。バッテリがフル充電されるとバッテリ充電ランプが消灯します。
今はフル充電されるまで待つ必要はありませんので、ACアダプタを接続したまま次へ進んでください。
バッテリ充電ランプについて詳しくは巻末の「各ランプの状態」をご覧ください。

- セットアップ作業が終わるまで、ACアダプタを抜かないでください。
- ご購入直後は、バッテリ駆動ができなかったり動作時間が短くなることがあります。またバッテリ残量が正しく表示されない場合もあります。バッテリがフル充電されるまでACアダプタを抜かないでください。
- バッテリ容量が95%以上の場合、バッテリが十分に充電され、改めて充電する必要がないため、ランプが点灯せず、充電状態にならない場合があります。

インターネット、周辺機器などの接続は後から

ここまでの接続が終わったら、続けて「第3章　セットアップを始める」に進んでください。第3章で説明している作業が終わってからインターネット、周辺機器などの接続をおこないます。

電源コードなどが人の通る場所にないことを確認してください。ケーブルを足に引っかけたりするとパソコンの故障の原因になるだけでなく、思わぬけがをすることもあります。

続けてセットアップ作業に進んでください。

第3章

セットアップを始める

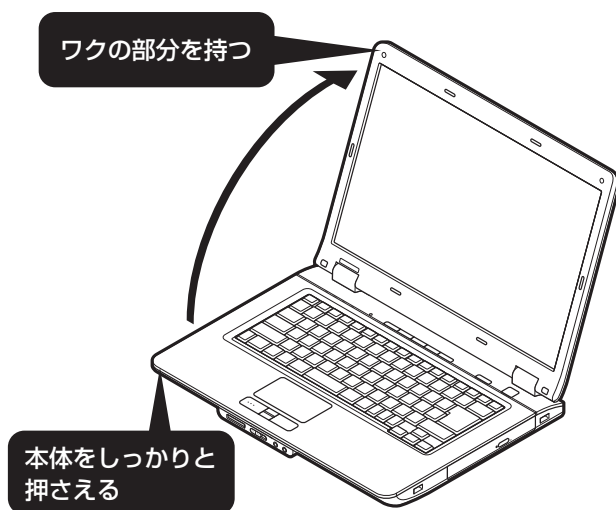
今度は、いよいよパソコンの電源を入れます。最初に電源を入れるときは、「セットアップ作業」といって、自分の名前を登録したりする操作が必要です。この後の説明をよく読んで、ゆっくり確実に操作してください。

この章の所要時間：30〜60分程度

電源を入れる

● 電源スイッチの場所を確認しておく

1 パソコンのふたを開ける

本体をしっかりと押さえて、ふたを持ち上げます。ふたの裏がディスプレイになっています。

ふたの開閉をするときは、下の本体をしっかりと押さえてください。また、液晶画面に力を加えないように、ワクの部分を持つようにしてください。

2 電源を入れる

電源スイッチ⏻を1秒程度押すと電源が入り、電源ランプ⏻が点灯します。
電源ランプについて詳しくは巻末の「各ランプの状態」をご覧ください。

液晶ディスプレイのドット抜けについて

液晶ディスプレイは、非常に高精度な技術で作られていますが、画面の一部にドット抜け※(ごくわずかな黒い点や、常時点灯する赤、青、緑の点)が見えることがあります。
また、見る角度によっては、色むらや明るさのむらが見えることがあります。
これらは、液晶ディスプレイの特性によるものであり、故障ではありません。交換・返品はお受けいたしかねますので、あらかじめご了承ください。

※社団法人 電子情報技術産業協会(JEITA)のガイドラインにしたがい、ドット抜けの割合を『本製品の仕様について』または『LaVie Gシリーズをご購入いただいたお客様へ』の「仕様一覧」に記載しています。ガイドラインの詳細については、以下のホームページをご覧ください。

「パソコン用液晶ディスプレイのドット抜けに関する定量的表記ガイドライン」
http://it.jeita.or.jp/perinfo/committee/pc/0503dot/index.html

パソコンから出る音について

電源を入れたときに音(起動音)がします。音量を調節したい場合は第4章の「音量を調節する」(51ページ)をご覧ください。

画面が表示されるまで数分かかることもある

電源スイッチを押してから、次ページの画面が表示されるまでに数分かかることがあります。その間、NECのロゴ(社名のマーク)などが表示されたり、画面が真っ暗になったりしますが、故障ではありません。あわてて電源を切ったりせずに、そのままお待ちください。

操作の途中では、絶対に電源を切らない！

セットアップ作業がすべて終わるまでに、30 ～ 60分程度かかります。「ここで一段落」(29ページ)までの手順が完了する前には、絶対に電源を切らないでください。電源コードをいきなり抜いたりするのも、絶対ダメです。セットアップ作業が終わらないうちに電源を切ると、故障の原因になります。

停電などのときは

万一、停電などの理由で電源が切れてしまったときは、一度電源コードをコンセントから抜いて1分ほど待ち、再度コンセントに差しなおしてから、電源スイッチを押してください。セットアップの画面が表示されるときは、その画面からセットアップ作業を続けてください。セットアップの画面が表示されないときは、NEC 121コンタクトセンターにお問い合わせください。

セットアップに関係ないボタン類は操作しない

セットアップ作業がすべて終わるまでは、ワイヤレススイッチなど、セットアップ作業に関係ないボタン類を操作しないでください。

パソコンの設定を始める

ポイント

- 画面の矢印を動かしてみる
- 「クリック」という操作を覚える

1 セットアップの最初の画面を確認する

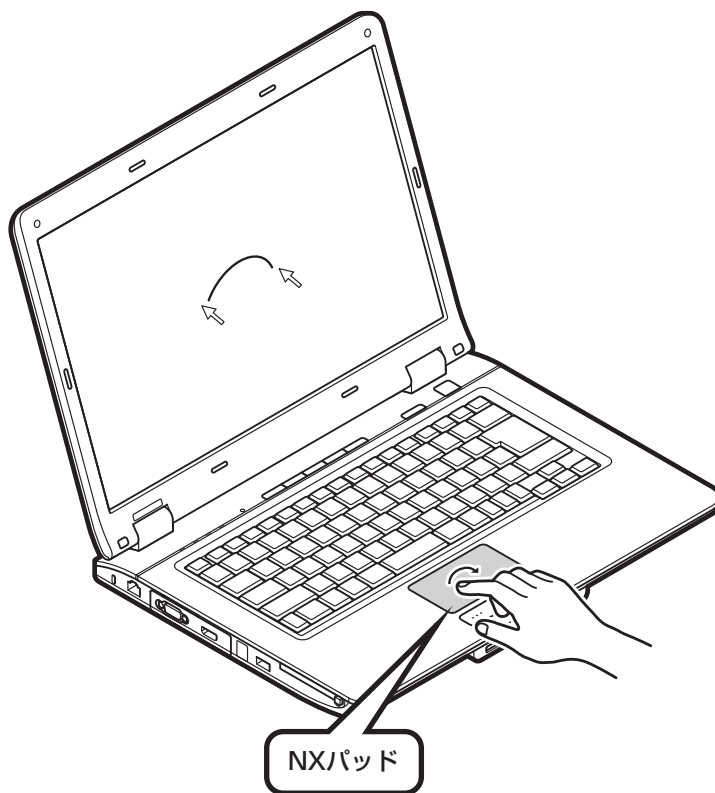
「Windows のセットアップ」という画面が表示されていますね。これがセットアップ作業の出発点です。

◎は、「何もしないで待ってて」の合図

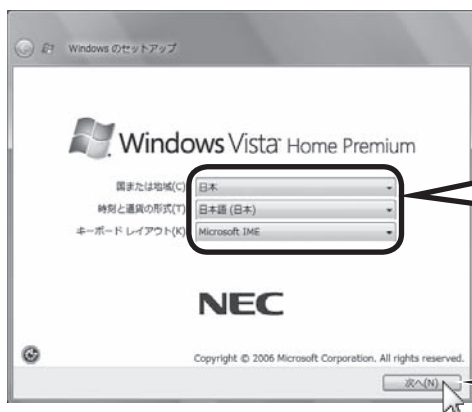
パソコンの内部で何かの処理が進んでいて、操作できないときには、画面に◎のマークが出ることがあります。このマークが表示されているときや、「しばらくお待ちください」などと文字が表示されているときは、キーを押したり、ボタンを押したりせずに、待っていてください。

パソコン内部での処理の進み具合を示すグラフが表示されることもあります。その場合も、何も操作せずに待ってください。

2 画面の矢印を動かす

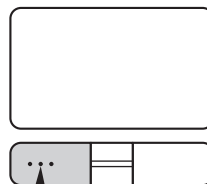
NX(エヌエックス)パッドの上で指をすべらせます。

指を動かすと、その動きに合わせて画面の矢印が動きます。指がNXパッドの端で止まって、それ以上動かせなくなったときは、一度指を離してNXパッドの中央に戻して操作すると続けて矢印を動かすことができます。

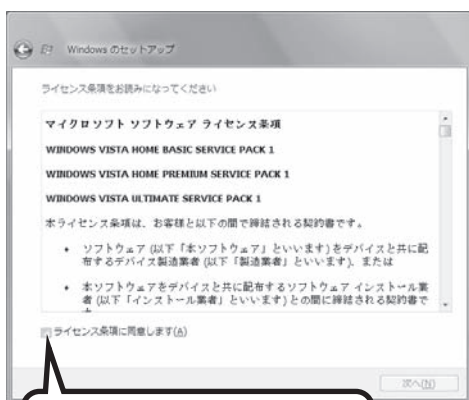
まだ、NXパッドのボタンを押さないでください。

3 画面内の右下に矢印を動かす

何も設定を変えず、「次へ」に画面の矢印 (マウスポインタ)を合わせて左のクリックボタンを押すと、画面の表示が切り換わって「ライセンス条項をお読みになってください」と書かれた画面になります。

この画面では、設定を変えないでください。設定を変えると、画面表示が日本語にならないなどの問題が起こる場合があります。

クリック

このような操作で、手順を次に進めたり、次ページを表示したりすることができます。
画面の絵や文字などに矢印を合わせて左ボタンを1回押す操作を「クリック」と呼びます。パソコンを使うときの一番基本的な操作なので、覚えてくださいね。

4 ライセンス条項に同意する

ライセンス条項に同意していただけない場合は、パソコンを使うことができません。

これで、ライセンス条項に同意することになります。「ライセンス条項に同意します」の左がからに変わらないときは、矢印がうまく合っていなかったので、やりなおしてください。

「ライセンス条項」とは、このパソコンに入っているソフトを違法にコピーして他人に渡したりしないという約束をしていただくことです。画面に表示されている契約文の続きを読むには、文書表示欄の右下にあるをクリックします。

キーボードを使って名前を入れる

ポイント
- ユーザー名とユーザーアイコンを選ぶ

1 自分の名前を入れる

ここに小さな縦棒(｜)が点滅しているのを見てから、キーボードで自分の名前を入力する

【例】「mita」と入力する場合なら

点滅していないときは、「ユーザー名を入力してください」の下の欄をクリックしてください。

- キーボードでの入力に慣れていないかたはアルファベットでの入力をおすすめします。
- 日本語で名前を入れることもできますが、環境依存文字(日本語変換で一覧に「環境依存文字」と表示される文字)は利用できません。ソフトによっては、正しく動作しなくなります。
- 日本語で名前を入れると、コンピュータ名が「ユーザー名-PC」となり、日本語がまざります。利用するネットワークによっては不具合の原因になりますので、ネットワークの設定をする前にコントロールパネルを利用してコンピュータ名を入れなおしてください。
- ユーザー名の追加や変更は、セットアップ作業が終わった後でできます。
- 次の文字列は、パソコンのシステムで使われているため、入力しないでください。
CON、PRN、AUX、CLOCK$、NUL、COM1 ～ COM9、LPT1 ～ LPT9

入力を間違えたら

キーボードの【BackSpace】(バックスペース)を押してください。

ローマ字で入力したいのにひらがなが表示されるときは

キーボードの【半角/全角】を押すと、日本語とアルファベットが切り換わります。

入力した名前を控えておく

ユーザー名:

パソコンのトラブルを解決するために、後でセットアップ作業をやりなおす(再セットアップする)とき、この名前が必要です。上の欄に控えておいてください。

この中から、ユーザーアイコン(スタートメニューなどで表示される画像)を選んでクリックする

※どの画像を選んでもかまいません。このマニュアルでは、一番左の画像を選んだ場合を例に説明します。
何も選ばずに「次へ」をクリックすると、自動的に一番左の画像が選ばれます。

「次へ」をクリックする

- パスワードは、ここでは設定しません。セットアップ作業が終わってから設定します。
- もしここでパスワードを設定する場合は、必ずパスワードのヒントも入力してください。

画面を見ながら手順を進める

● 画面に書かれたことを読みながら、指示にしたがってクリック

1 次の画面に進む

この中から、デスクトップの背景(壁紙)にする画像を選べる
※画像をクリックして選びます。どの画像を選んでもかまいません。
何も選ばずに「次へ」をクリックすると、自動的に右から3番目の画像が選ばれます。
このマニュアルでは、何も選ばずに「次へ」をクリックした場合を例に説明します。

「次へ」をクリックする

・デスクトップの背景を選んでクリックすると、画面が選んだ背景に変わります。

・キーボードの操作に慣れていないかたは、表示された名前のまま次に進んでかまいません。

・キーボードを使った文字入力に慣れている場合、半角英数文字でコンピュータの名前を自由に入力してください。名前を思いつかない場合は「LaVie」(ラヴィ)とするとよいでしょう。すでに何台かパソコンをお持ちの場合、「PC1」、「PC2」のように数字で区別してもかまいません。

・**次の文字列は、パソコンのシステムで使われているため、入力しないでください。CON、PRN、AUX、CLOCK$、NUL、COM1～COM9、LPT1～LPT9**

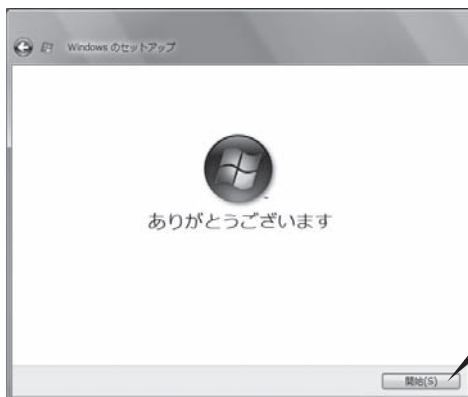
・**すでに何台かパソコンをお使いの場合は、同じ名前を付けないでください。ネットワークで接続したときにエラーが表示されます。**

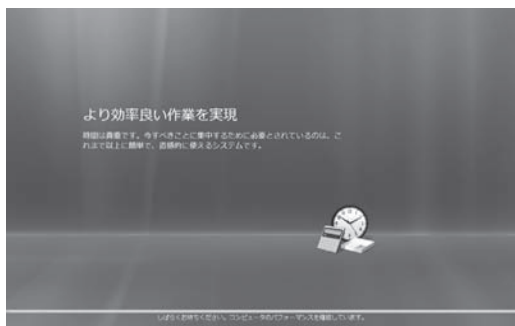
・**19ページで入力した自分の名前と同じ名前は入力しないでください。**

2 コンピュータを保護する設定をする

「推奨設定を使用します」をクリックする

Windowsがいつも最新の状態になるように、インターネット経由で定期的に更新情報が確認され、自動的にインストールされるようになります。Windowsの更新について詳しくは、『活用ブック』の「しっかりセキュリティであんしんインターネット」をご覧ください。

3 さらにセットアップ作業を進める

「開始」をクリックする

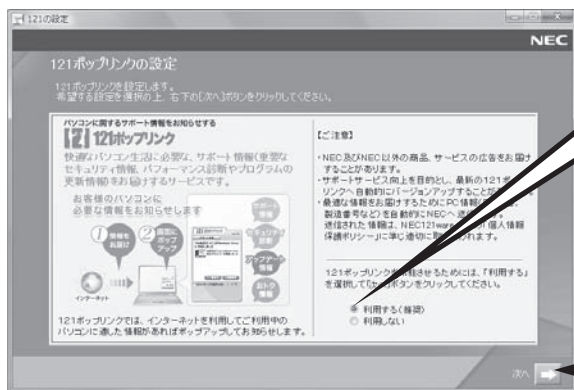
「開始」をクリックすると、次の画面が表示されます。

次ページの画面が表示されるまで何も操作せずに
待っていてください。

続けて次ページ以降の作業を進めてください。

121ポップリンクを設定する

ポイント

● NECから新しい情報が届くように、「利用する」を選ぶ

1 ➡ をクリックする

「利用する（推奨）」の左が◉になっていることを確認して、

➡ をクリックする

121（ワントゥワン）ポップリンクは、お使いのパソコンに適したサービスサポート情報（危険度の高いウイルスに対するセキュリティパッチ（修正プログラム）やアップデートプログラム）を、NECからインターネット経由でお知らせするサービスです。このパソコンでインターネット接続できるようになってから、新しい情報が発表されるたびに自動的に届くようになります。

121ポップリンクの設定は、後から利用しないように変更することもできます。

画面右下に次のようなメッセージが表示されることがあります。

ユーザー アカウント制御の設定を確認してください
ユーザー アカウント制御は無効になっています。
問題を解決するには、この通知をクリックしてください。

コンピュータのセキュリティを確認してください
お使いのコンピュータには、セキュリティの問題がいくつかあります。
問題を解決するには、この通知をクリックしてください。

ここでこの画面が表示されても問題ありません。今はこのメッセージをクリックせずに、セットアップ作業を進めてください。

ソフトを使えるようにする

ポイント

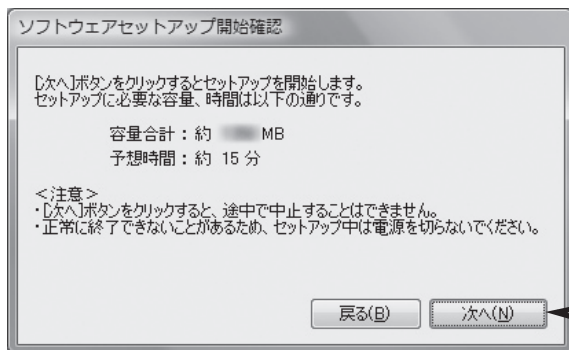
- 目的に合わせて、パソコンに入れるソフトを選べる

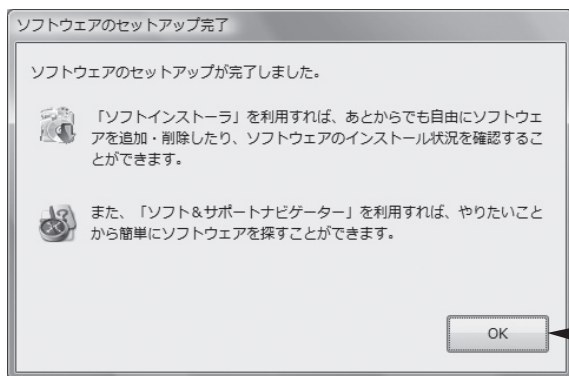
1 次の画面に進む

「標準セットアップ（推奨）」が◉になっていることを確認して、

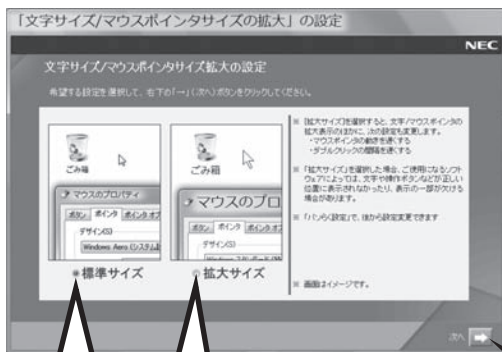
「次へ」をクリックする

- 通常は、「標準セットアップ（推奨）」を選んでください。
- 「ソフトウェア一覧から選択」の左にある□をクリックして☑にすると、一覧から使いたいソフトを選んでインストールできます。この方法を選んだ場合は、画面の説明を読んで操作してください。
- 「最小セットアップ」を選ぶと、ソフトを追加せず、必要最小限のソフトだけでパソコンを使い始められます。この方法を選んだ場合は、画面の説明を読んで操作してください。
- ミニマムソフトウェアパックをご購入された場合、「ソフトウェアのセットアップ」の画面は表示されません。自動的に再起動します。28ページの画面が表示されるまで、そのままお待ちください。

2 ソフトを追加する

画面に表示される予想時間は目安です。「ソフトウェアのセットアップ完了」の画面が表示されれば、ソフトが正しく追加されています。

「インストール中」画面が表示され、ソフトの追加が始まります。ソフトの追加が終わると、次の画面が表示されます。

その後、しばらくしてからパソコンの電源が切れ、自動的に再度電源が入ります(これを「再起動」といいます)。
次の画面が表示されるまで、そのままお待ちください。

3 文字サイズなどを設定する

再起動後、「復元ポイントを作成しています。しばらくお待ちください。」と表示されます。
しばらくすると、次の画面が表示されます。

Windows Vistaの初期設定のまま利用する場合は「標準サイズ」の左が◉になっていることを確認する。文字サイズなどを拡大したい場合は「拡大サイズ」左の◎をクリックして◉にする
※画面に表示される文字を大きくしたい、マウスポインタ( )の動きを遅くしたい場合は、「拡大サイズ」を選んでください。

・「拡大サイズ」を選択すると、「パソらく設定」で「簡単おまかせ設定」を選択して設定した場合と同じになります。「パソらく設定」について詳しくは、第4章の「文字サイズを変更する」(55ページ)をご覧ください。

・この画面は、ミニマムソフトウェアパックを選択した場合は表示されません。

➡をクリックする

「拡大サイズ」を選んだ場合は、画面の文字とマウスポインタが大きく表示され、マウスポインタがゆっくり動くようになります。

・左の画面は「標準サイズ」を選んだ場合のサイズです。

・文字とマウスポインタのサイズやマウスポインタの動作速度は、初回セットアップの終了後に「パソらく設定」で変更できます。詳しくは、第4章の「文字サイズを変更する」(55ページ)をご覧ください。

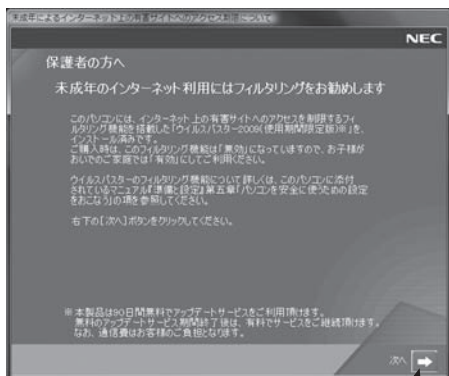
4 インターネットで最初に表示するホームページを選ぶ

インターネットを見るときに最初に表示されるホームページを選びます。BIGLOBEホームページまたはYahoo!JAPANホームページのいずれかを選びます。

・ホームページの設定は、セットアップ完了後に変更できます。変更方法について詳しくは、「ソフト&サポートナビゲーター」-「使う」-「使いやすい設定に変更」-「Internet Explorerを使いやすくする」をご覧ください。

・「ソフト&サポートナビゲーター」は、初回セットアップが終了してからご覧ください。使い方について詳しくは、第4章の「パソコンの画面で解説、検索「ソフト&サポートナビゲーター」」(71ページ)をご覧ください。

5 注意文を読む

その後、「未成年によるインターネット上の有害サイトへのアクセス制限について」画面が表示されます。

フィルタリングについて詳しくは、第5章の「お子様を有害ホームページから守るために」(109ページ)および「ソフト&サポートナビゲーター」-「使う」-「安全に使うためのポイント」-「お子様を有害ホームページから守るために」をご覧ください。

ここで一段落

● パソコンを使い始めるときの画面を見ておこう

しばらくすると、「ウェルカムセンター」が表示されます。今は、[×]をクリックして画面を閉じてください。次に起動したときからは、ウェルカムセンターの画面に「起動時に実行します」のチェックが追加されます。

ウェルカムセンター

ウェルカムセンターの画面からは、簡単にソフトをインストールすることができたり、ガジェットの登録をすることができます。パソコンを起動するたびに表示する必要がないかたは、「起動時に実行します」の左の☑をクリックして☐にすると、次回からこの画面は表示されなくなります。

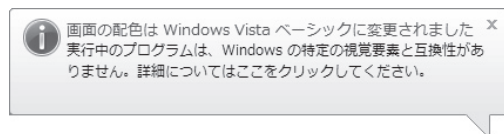
最初のセットアップ作業は一段落です。次回から、パソコンの電源スイッチを押すと、いつもこの画面(デスクトップ画面と呼びます)が表示されるようになります。

デスクトップ画面

- 複数のユーザーを登録している場合、左の画面が表示される前に、使う人の名前を選択する画面が表示されます。
- サイドバーに表示されているガジェットは、左の画面と順序が異なる場合があります。解像度によってはガジェットが隠れていることがありますが、画面右上の▶をクリックすると表示できます。

画面の表示について

ソフトを使っているときに、次のようなメッセージが表示されることがあります。

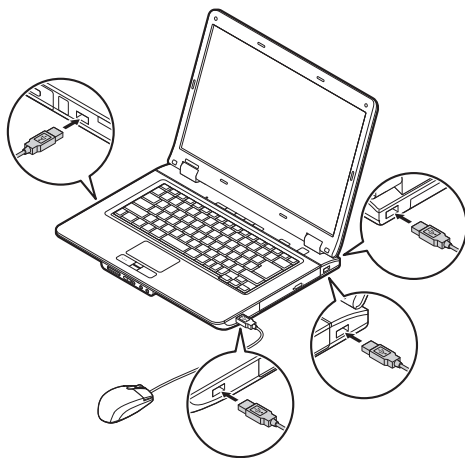
画面の配色は Windows Vista ベーシックに変更されました
実行中のプログラムは、Windows の特定の視覚要素と互換性がありません。詳細についてはここをクリックしてください。

これは、ソフトを利用するために、Windows Vistaの画面表示が変わることをお知らせするものです。このメッセージが表示されたときは、ウィンドウの透明部分など一部の表示が変更されます。

変更された画面表示は、ソフトを終了するともとに戻ります。

マウスを接続する

USB(ユーエスビー)マウスが添付されているモデルは、必要に応じてパソコンにUSBマウスを接続することができます。プラグの向きに注意して取り付けてください。

マウスのプラグをパソコンのUSBコネクタに差し込む

マウスのプラグの⟷の向きに注意して、パソコンのUSBコネクタに差し込んでください。
どのUSBコネクタに差し込んでもかまいません。

このマウスは、底面中央の穴からレーザーが出ていますが、レーザーを目で見て確認することはできません。マウスが正しく動作しているかどうかはマウスを動かして確認してください。

レーザーが出ている穴の部分を見つめると、視力に障害が起こる可能性があるので見つめないように注意してください。

はじめてUSBマウスを差し込んだときは、画面右下に次のメッセージが出ると、画面の矢印を動かせるようになります。

USBマウスを動かすと、画面の矢印が動きます。
うまく動かないときは、一度プラグを抜いて、もう一度差し込んでください。

マウスの設定については、「ソフト＆サポートナビゲーター」-「パソコンの各機能」-「マウス」をご覧ください。

このパソコンのNXパッドは、「光るテンキーパッド」の機能が内蔵されていて、パッド部分をテンキーとして使用することができます。
詳しくは第9章の「NXパッドについて」(154ページ)をご覧ください。

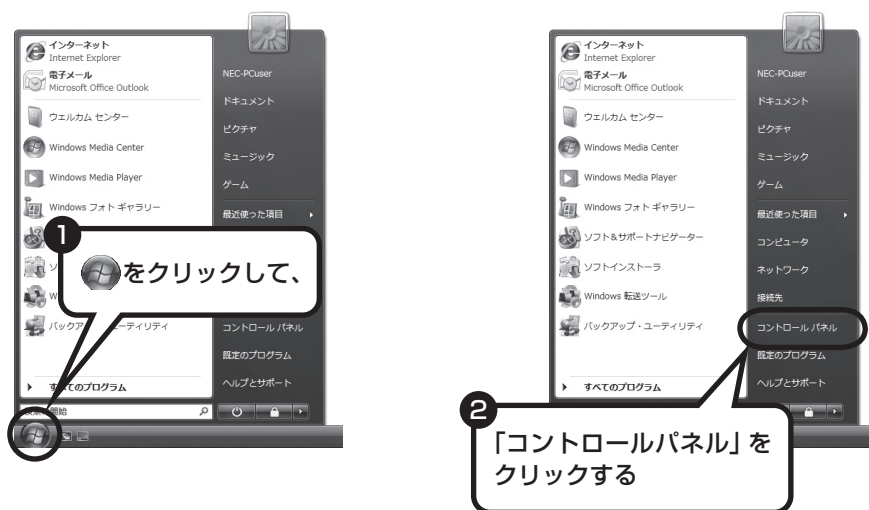
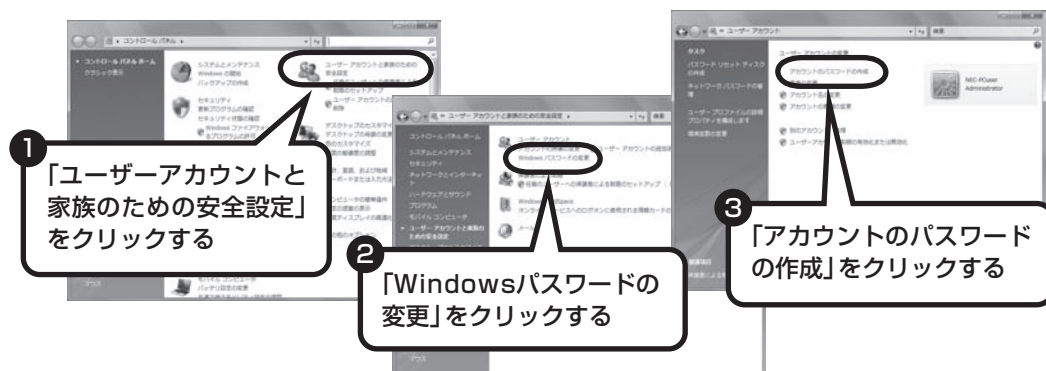
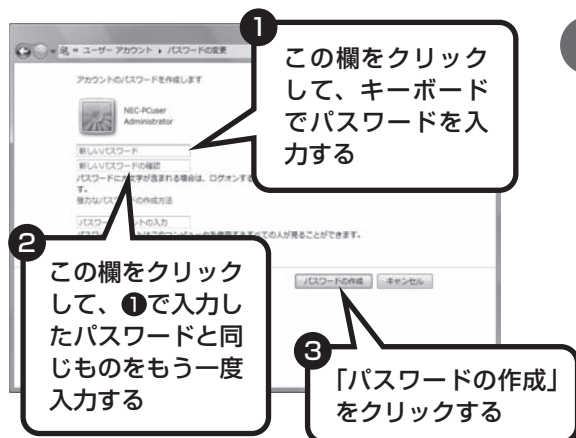
Windowsのパスワードを設定する

ポイント

- パソコンをより安全に使うために、パスワードを設定
- パスワードは覚えやすく、忘れないものを

パスワードの設定

不正アクセス被害防止や情報の保護など、セキュリティ対策のため、次の手順でパソコンを使うときにパスワードを入力する設定をしておくことをおすすめします。

1 コントロールパネルの画面を表示する

2 設定画面を表示する

3 パスワードを設定する

- 入力したパスワードは「●●●」のように表示されます。これは、入力したパスワードが他人に見られてもわからないようにするためです。
- 覚えやすく、忘れにくいパスワードを決めてください。大文字、小文字も入力したとおりに区別されます。
- 「パスワードのヒントの入力」欄に、パスワードを思い出すためのヒントを入力しておくと、パスワード入力を間違えたときにヒントが表示されるようになります。

これで、Windowsのパスワードが設定されました。次回から、パソコンの電源を入れたり、スリープ状態、休止状態から復帰したりするときには、パスワードの入力が必要になります。

その他のログオン方法について

パスワードを入力する代わりに、次のような方法でWindowsにログオンすることもできます。

- FeliCa認証(FeliCa対応モデル)
  FeliCa対応カードや携帯電話をかざして認証をおこないます。FeliCa対応カードでの認証の設定については、「ソフト&サポートナビゲーター」-「ソフトを探す」-「50音／英数字から選ぶ」-「シンプルログオン」をご覧ください。
- 顔認証(Webカメラを搭載したFeliCa対応モデル)
  Webカメラに顔を映して認証をおこないます。Webカメラでの認証の設定については、第9章の「Webカメラを使う」(159ページ)をご覧ください。

Windowsのパスワードを忘れたときのために

ヒントを設定しておくと、パスワード入力の手がかりになります。また、あらかじめ「パスワード リセット ディスク」を作成しておくと、「パスワード リセット ディスク」を使って新しいパスワードを作成することができます。「パスワード リセット ディスク」について詳しくは、「スタート」-「ヘルプとサポート」をご覧ください。

Windowsのパスワードを忘れてしまったときの対処方法について詳しくは、『パソコンのトラブルを解決する本』の第2章「パスワードのトラブルがおきたとき」をご覧ください。

Windowsのパスワードを忘れてしまうと、再セットアップする必要がある場合があります。

お疲れ様でした。
これで、本機を使うための準備は終了です。

お客様登録のお願い

121wareでは「お客様登録」することで、さまざまなメリットを提供しています。あなたのデジタルライフをグッとオトクに、そしてさらに便利でもっと身近に感じる121wareのサービスを是非ご利用ください。

登録するとメリットがたくさん

登録料・会費無料
※法人のお客様としてご使用の場合も、登録をおすすめします。

1　電話での「使い方相談」

無料で1年間、使い方の相談ができる※

121コンタクトセンターからお電話をさしあげる「電話サポート予約サービス」も利用可能になります。インターネットでご予約ください。
保有商品の登録が必要です。

2　あなただけのマイページ

マイページは、あなた専用のページです

登録した商品を元に、あなたのパソコンに合ったサポートやサービスに関する情報が表示されます。

3　NEC Directの優待サービス＆ポイントもGet

NEC Directの優待サービスでお買い物。ポイントももらえる

保有商品を登録されているお客様は、NEC Directの優待サービスが受けられます。

その他の特典

買い取り
不要になったパソコンの買い取りサービスがインターネットからできます。

修理
インターネットで修理を申し込むと、修理料金が割引されます。

メールニュース
商品広告･活用提案･サポート･キャンペーンなどの情報をお届けします。

※パソコン本体以外の商品／ NEC Refreshed PC（再生パソコン）の「使い方相談」の無料期間は、各商品の保証書に記載の保証期間となります。

マイページがあなたをサポート

マイページは、あなた専用のページです。
登録した商品に合わせて、あなたに合ったサポートやサービス(優待販売)に関する情報が表示されます。

「マイページ」はお客様登録をすると使えるようになるページです。

お客様登録の方法

電話サポートや優待サービスなど、各種特典のご利用にはお客様登録が必要です。登録には、インターネットを使ったサービスが便利です。

インターネットによる登録をおすすめします。
「121wareお客様登録番号」と「ログインID」を同時に取得でき、すぐにインターネットサポートが受けられます。
まだインターネットをお使いになれないお客様にはFAX登録をご用意しております。ただし、FAX登録からでは「121wareお客様登録番号」のみの取得になり、インターネットでのさまざまなサービスがご利用いただけません。
インターネットが使えるようになり次第、「ログインID」の取得をおすすめします。

インターネット登録(推奨)

登録の前に、インターネット接続の設定が必要です。設定の方法については、第5章または第6章をご覧ください。

インターネットに接続して、NECパーソナル商品総合情報サイト「121ware.com」のマイページ(http://121ware.com/my/)から登録します。詳しくは、『121wareガイドブック』をご覧ください。

FAX登録

FAX用紙はNECパソコン情報FAXサービスから取り出してください。

お手持ちのFAXから「0120-977-121」(フリーコール)に電話します。ご希望の窓口案内のアナウンスが流れますので、FAX情報サービス窓口番号である「9」を押します。
FAX情報サービスにつながりますので、アナウンスにしたがい、BOX番号3002と#を押し、お客様登録用紙を取り出してください。必要事項をご記入の上、FAXでお送りください。

※番号をよくお確かめになり、おかけください。

※すでにお客様登録がお済みのお客様は、保有商品の追加登録をお願いいたします。「121ware.com」のマイページ(http://121ware.com/my/)内の「保有商品情報」で、ご購入いただいた商品を追加することができます。

第4章

基本中の基本の操作

電源の入れ方／切り方、メモリーカードやCD-ROM、DVDのディスクをセットする方法など、このパソコンを使うときのもっとも基本的な操作を説明します。インターネットの接続や設定に進む前に、この章に目をとおしておくとよいでしょう。

パソコンを終了する

パソコンを終了するときは、NXパッドやマウスで操作します。本体のスイッチやボタンを押すのではありません。

1 画面を見ながら矢印を動かして、パソコンを終了する

Windows Updateなどが自動的におこなわれ、パソコンをいったん終了する必要があるときに、が のように変わることがあります。その場合も、そのままクリックしてください。この場合は、次回パソコンを使うときに、通常よりも時間がかかります。

2 電源ランプを確認する

画面が暗くなり、スリープ状態になります。

スリープ状態について

スリープ状態では、わずかに電力を消費しながら、それまでの作業をメモリなどに保持します。電源を完全に切ってしまう場合に比べ、次回パソコンを使い始めるときに速く再開できます。通常、パソコンを終了するときは、電源を完全に切らずにスリープ状態にしておくことをおすすめします。

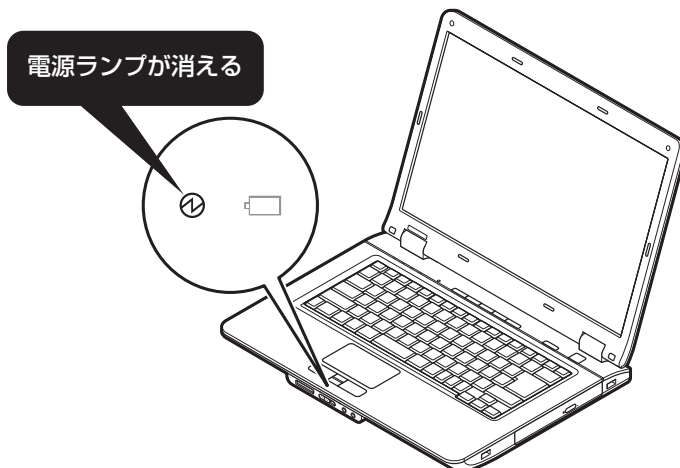
スリープ状態になってから約30時間経ったとき、またはバッテリの電力だけでスリープ状態になり、バッテリの残量が少なくなったときは、自動的にパソコンが休止状態になり、電源ランプが消灯します。
詳しくは「省電力機能について」(46ページ)をご覧ください。

電源を切る（シャットダウンする）

長期間パソコンを使わないときや、パソコン内部に機器を取り付けるときは、電源を切ります。電源を切ることを、「シャットダウン」と呼びます。

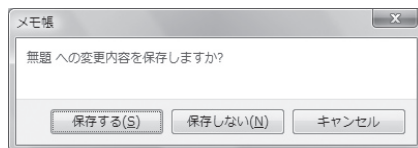
1 画面を見ながら操作して、「シャットダウン」をクリックする

2 電源が切れたことを確認する

数秒後に、画面が暗くなり、自動的に電源が切れます。

電源が切れるまでに少し時間がかかることも

パソコンの状態によっては、「シャットダウン」をクリックした後、電源が切れるまでに数秒以上の時間がかかることもあります。あわてずにお待ちください。

保存していない文書があるとき

ソフトを使って文書などを作成している場合、文書を保存しないで電源を切ろうとすると、画面にメッセージが表示されることがあります。
そのままにしていると、数秒後、画面が暗くなり、メッセージが表示されます。
作成した文書などを保存したい場合、「次のプログラムが実行中です」の画面が表示されたら「キャンセル」をクリックしてください。使用中のソフトで文書などを保存してから電源を切るようにしましょう。

続けて電源を入れるときは

いったん電源を切ってから電源を入れなおすときは、電源が切れてから5秒以上待って電源スイッチを押してください。

画面の操作で電源が切れないとき

画面の表示が動かなくなったり、操作の途中でNXパッドやマウス、キーボードが反応しなくなったりして、パソコンの電源が切れなくなってしまうことがあります。その場合、パソコン本体の電源スイッチを4秒以上押し続けると、強制的に電源を切ることができます。強制的に電源を切ったときは、電源が切れてから5秒以上待ち、もう一度電源スイッチを押してパソコンの電源を入れなおしてください。パソコンの電源が入ったら、改めて画面の操作で電源を切ってください。

- 強制的に電源を切る場合は、CD/ハードディスクアクセスランプやトリプルメモリースロットアクセスランプなどが点灯していないことを確認してください。また、各種メディアは取り出しておいてください。
- パソコン本体の電源スイッチを押し続けて強制的に電源を切ると、パソコンに負担がかかります。何度も繰り返すと、パソコンが起動しなくなってしまうこともあるため、この方法で電源を切ることは、できるだけ避けてください。

パソコンを使い始める

電源スイッチを1秒程度押して
使い始めます。

電源スイッチを押す

周辺機器によっては、パソコンの電源を入れる前に電源を入れないと認識されないものもありますのでご注意ください。

使う人の名前が画面に表示されるので、名前の上のアイコンをクリックしてください。Windowsのパスワードを設定している場合は、パスワードを入力してください。

デスクトップ画面が表示されます。

モデルによって、表示される画面の絵柄が異なる場合があります。

- 電源スイッチを押した後、デスクトップ画面が表示されて、CD/ハードディスクアクセスランプが点滅しなくなるまで、電源スイッチを押さないでください。無理に電源を切ると、故障の原因になります。
- 電源を切った(シャットダウンした)状態で電源スイッチを押し電源を入れた場合は、使う人の名前とアイコンは画面に表示されずにデスクトップ画面が表示されます。しかし、複数のユーザーを登録している場合、デスクトップ画面が表示される前に、使う人の名前を選択する画面が表示されます。
- パソコンの電源を切ったときや、パソコンが休止状態になっていたときは、デスクトップ画面が出て、CD/ハードディスクアクセスランプが点滅しなくなるまでに少し時間がかかります(長い場合5分、通常は1 ～ 2分程度)。

省電力機能について

パソコンを使わないと、自動的に省電力状態になるようになっています。また、ECOボタンを使って電力を節約することもできます。

10分以上使わないと自動的に画面が消える(ご購入時)

ご購入時には、パソコンを操作していない時間が続くと、自動的にパソコンが省電力状態になるように設定されています。パソコンを使っていない時間によって、「ディスプレイの電源を切る」、「スリープ状態」、「休止状態」の3つの段階があります。

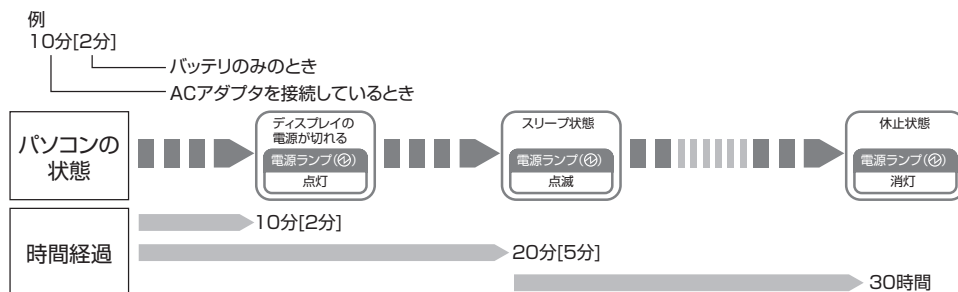
省電力状態について

それぞれの省電力状態は、次のように電力を節約します。

・ディスプレイの電源を切る
パソコンは起動したまま、ディスプレイの電源だけを切ります。通常よりも少し消費電力が下がります。

・スリープ状態
ハードディスクなどの電源を切り、消費電力を節約している状態です。パソコンの電源は完全には切れていません。作業中のデータがメモリに保存されているため、わずかに電力を消費しますが、スリープ状態を解除すると、すぐに作業の続きを始めることができます。

・休止状態
パソコンの状態や作業中のデータをハードディスクに保存して、Windowsを終了せずにパソコンの電源を切っている状態です。消費電力は、シャットダウンしたときとほとんど同じです。普通に電源を切るのとは異なり、Windowsを終了せずに電源を切るため、休止状態からもとの状態に戻すときにWindowsが起動する時間は省かれます。ただしスリープ状態からもとの状態に戻すよりも時間がかかります。

パソコンを使っていない時間と省電力状態

ハイブリッドスリープについて

このパソコンでは、ご購入時の状態で「ハイブリッドスリープ」をおこなうように設定されています。「ハイブリッドスリープ」は、スリープ状態になるのと同時に、ハードディスクにも作業中のデータを保存します。これによって、スリープ状態のときに電源コードが抜けるなどしても、作業内容を失わずに再開できます。

ハイブリッドスリープは、使用しないように設定することもできます。設定方法については、「ソフト&サポートナビゲーター」-「パソコンの各機能」-「省電力機能」をご覧ください。

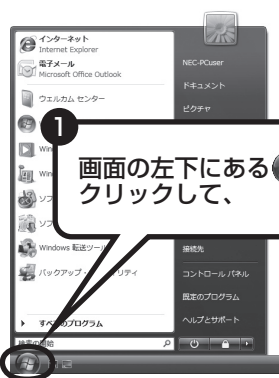
暗くなった画面をもとに戻すには

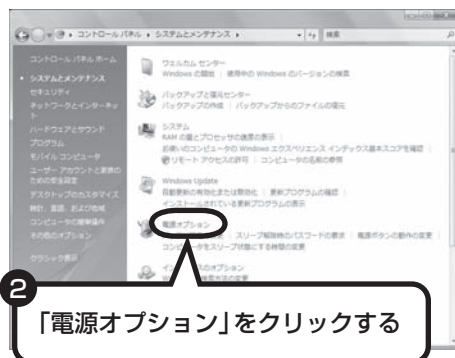
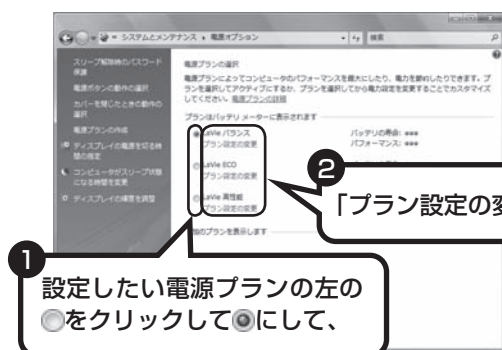
まず、キーボードのキー（【Shift】など）を押してください。キーボードのキーを押しても画面が暗いままのときは、電源スイッチを軽く1回押してください。

電源スイッチを押し続けないでください。4秒以上押し続けると、パソコンの電源が切れてしまいます。

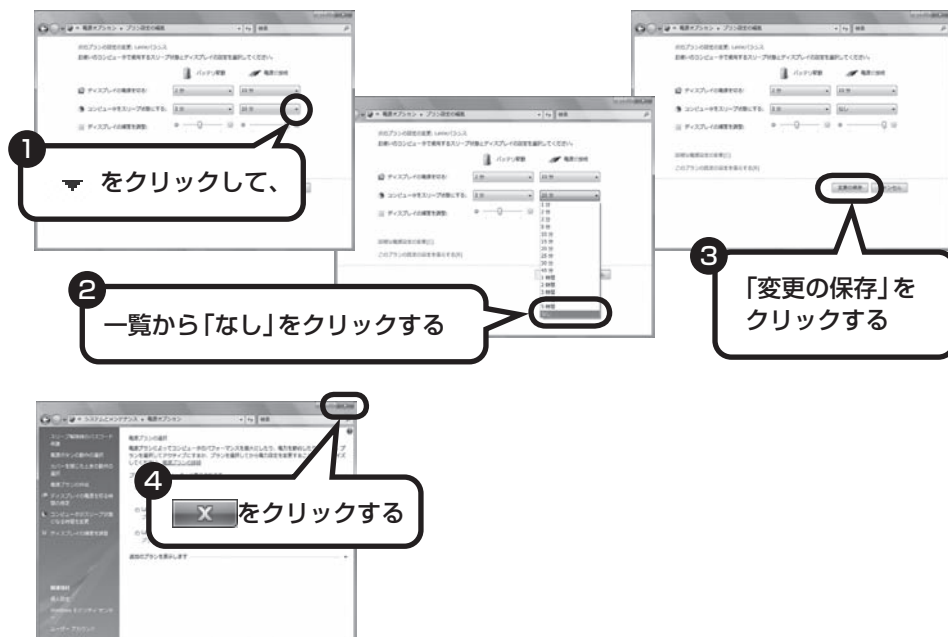
自動的にスリープ状態にならないようにするには

次の手順で、自動的にスリープ状態にならないように設定を変えることができます。

1 コントロールパネルの画面を表示する

2 「システムとメンテナンス」、「電源オプション」の順にクリックする

基本中の基本の操作

3 設定したい電源プランをクリックし、電源プランの下の「プラン設定の変更」をクリックする

画面左側の「コンピュータがスリープ状態になる時間を変更」をクリックして、現在選択されている電源プランの設定を変更することもできます。

4 「コンピュータをスリープ状態にする」で「なし」に変更する

この画面で「ディスプレイの電源を切る」までの時間も設定できます。

これで、設定の変更は終わりです。

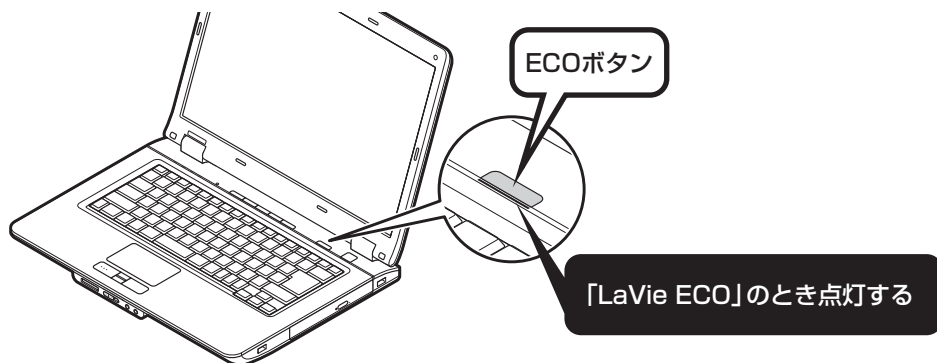
省電力機能の詳しい説明は、「ソフト＆サポートナビゲーター」で

スリープ機能は、このパソコンが備えている「省電力機能」のひとつです。詳しくは、「ソフト＆サポートナビゲーター」-「パソコンの各機能」-「省電力機能」に説明があります。

ECOボタンを使う

ECOボタンは、押すだけでパソコンの消費電力のモード(Windows Vistaでは電源プランと呼びます)を切り換えることができる機能です。ECOボタンを上手に活用することで、バッテリの消耗を抑えたり、必要なときに機能を最大限に引き出すことができるようになります。
ECOボタンには、電力の節約とパフォーマンスのバランスによって、次の2つのプランが用意されています。

電源プラン	パソコンの状態
LaVie バランス	パフォーマンスと電力の節約のバランスをとった設定です。
LaVie ECO	パフォーマンスよりも電力の節約を優先した設定です。「LaVie ECO」にすると、ECOボタンのランプが点灯します。

※ご購入時の状態では、「LaVie バランス」に設定されています。「LaVie ECO」にプランを切り換えると、輝度の自動調節が有効になります。

たとえば、外出先でバッテリのみで使用するときは、「LaVie ECO」に設定しておくとバッテリが長持ちします。
また、表中の2つの電源プランのほかにも、使用状況や目的に応じた電源プランが用意されていて、「LaVie バランス」の代わりに「ECOモード設定ツール」を使って別の電源プランを設定することもできます。DVDやゲームでパソコンを使うことが多い人は、「DVD/ゲーム」という電源プランをECOボタンに設定しておくと、DVDを見る前に、ボタン操作ひとつで、DVD視聴に適した状態に変更できます。

- **ワンタッチスタートボタンを無効にしている場合は、ECOボタンを利用できません。**
- **ECOモード設定ツールについて詳しくは、「ソフト&サポートナビゲーター」-「ソフトを探す」-「50音/英数字から選ぶ」-「ECOモード設定ツール」をご覧ください。**
- **電源プランを「LaVie ECO」や「省電力」にすると、映像を扱うソフトは、正常に動作しない可能性があります。それ以外の電源プランに設定してください。**

基本中の基本の操作

よく使うボタンなど

ここでは、基本的なボタンなどにかぎって説明します。そのほかのボタンなどについて知りたいときは、巻末の「各部の名称」をご覧ください。

パソコン本体

※はじめて押したときは、メールソフトを選択する画面が表示されます。

音量を調節する

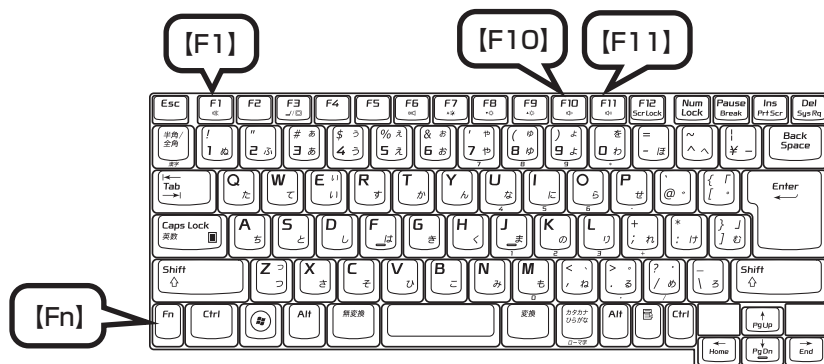
パソコンの音が大きすぎる、小さすぎると感じたときは、音量を調節できます。

音量を調節する方法

キーボードのキーを使って、内蔵スピーカの音量を調節します。

【Fn】を押しながら【F10】を押すと、音が小さくなります。

【Fn】を押しながら【F11】を押すと、音が大きくなります。

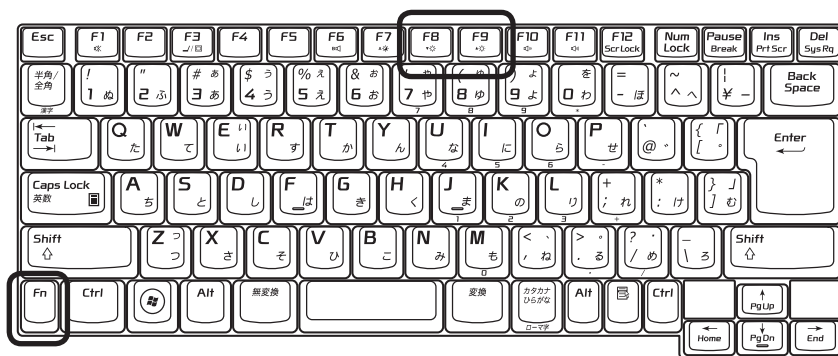
【Fn】を押しながら【F1】を押すと、音声のオン/オフが切り換えられます。画面右下の通知領域に が表示されているときは音声が消え、 が表示されているときは音声が聞こえます。

キーボードから音量を変更するとき、起動しているソフトによっては、音量の表示が変わらない場合があります。

画面の輝度を調節する

画面が明るすぎる、暗すぎると感じたときは、ディスプレイの輝度を調節できます。

輝度を調節する方法

輝度は、キーボードから調節できます。

【Fn】を押しながら【F9】を押すと、輝度が上がります。
【Fn】を押しながら【F8】を押すと、輝度が下がります。

キーボードで輝度を調節した場合、省電力状態から復帰したり、パソコンを再起動するともとの輝度に戻ります。いつも同じ輝度で使用したいときは、次の「起動時の輝度を設定するときは」をご覧ください。

起動時の輝度を設定するときは

いつも同じ輝度で使用する場合は、次の手順で起動時の輝度を設定してください。

1 「スタート」-「コントロールパネル」-「システムとメンテナンス」-「電源オプション」をクリックする

2 画面左の「ディスプレイの輝度を調整」をクリックする

3 ディスプレイの輝度を設定する

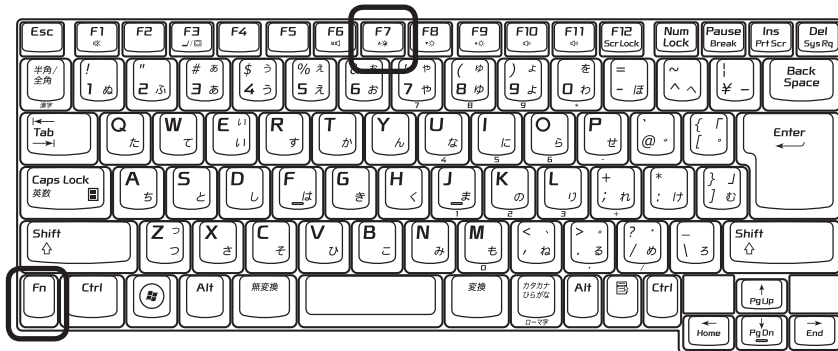
輝度が変更され、「電源オプション」画面に戻ります。

をドラッグしただけでは輝度は変更されません。「変更の保存」をクリックすると、輝度が変更されます。

4 をクリックする

これで、起動時の輝度が設定されました。次回から、設定した輝度でパソコンが起動します。

輝度の自動調節について

このパソコンは、キーボードの【Fn】を押しながら【F7】を押すと、一時的に輝度の自動調節機能のオン/オフを切り換えることができます(ご購入時はオフになっています)。

輝度の自動調節機能をオンにすると、周囲の明るさに合わせて輝度が自動的に変化し、周囲が暗いとディスプレイが暗くなり、周囲が明るいとディスプレイも明るくなります。
明/暗の上限/下限は電源プランの設定により異なります(たとえば「LaVie ECO」の場合は下限まで暗くなります)。
電源プランの変更について詳しくは、「ソフト&サポートナビゲーター」-「ソフトを探す」-「50音/英数字から選ぶ」-「ECOモード設定ツール」をご覧ください。
また、ECOモード設定ツールでは、自動輝度のオン/オフだけでなく、暗くなりすぎたり明るくなりすぎたりしないよう、輝度の範囲を調整することもできます。

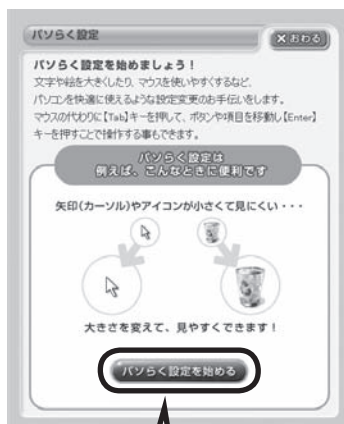
- **省電力状態から復帰したりパソコンを再起動すると、輝度の設定は、キーボードで輝度を変更する前の状態に戻ります。常に自動輝度をオンにしたい場合は、ECOボタンやECOモード設定ツールから、電源プランを「DVD/ゲーム」など、自動輝度がオンの設定に変更してください。**
- **ECOボタンや「ECOモード設定ツール」から電源プランの変更をおこなうと、輝度の自動調節機能のオン/オフはそれぞれの電源プランに合わせて変更されます。**
- **輝度を変更すると、輝度の自動調節機能はオフになります。**
- **ワンタッチスタートボタンを無効に設定している場合は、輝度の自動調節機能は有効になりません。また、オンスクリーン表示は表示されません。**

文字サイズを変更する

画面の文字が小さいときなどに、文字サイズを変更する方法について説明しています。

パソらく設定で設定を変更する

パソらく設定では、画面上のアイコンや文字サイズを変更できます。

1 「ソフト&サポートナビゲーター」-「ソフトを探す」-「50音／英数字から選ぶ」-「パソらく設定」-「ソフトを起動」をクリックする

❶「パソらく設定を始める」をクリックする

❷設定方法を選んでクリックする

文字サイズやマウスの設定について

セットアップの文字サイズを設定する画面(27ページ)で、「拡大サイズ」を選択した場合、Windows Vistaの初期設定に比べ、画面上の文字は大きく表示されます。また、マウスポインタ はゆっくりと動き、ダブルクリックの間隔が遅くなります。

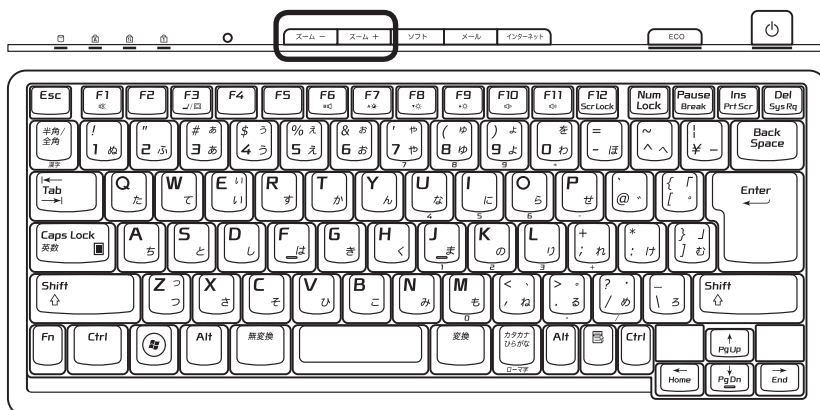
Windows Vistaの初期設定に変更したい場合は、次の手順で設定してください。

1. 「スタート」-「すべてのプログラム」-「パソらく設定」-「パソらく設定」をクリックする
2. 説明画面が表示された場合は、「パソらく設定を始める」をクリックする
3. 「自分で設定」をクリックする
4. 「次の画面へ」をクリックする
5. 「次の画面へ」をクリックする
6. 「すべての設定を元に戻す」をクリックする

以降の作業は、画面に表示される内容にしたがって、操作してください。

「拡大サイズ」を選択した場合、画面の一部が切れて表示されないことがあります。画面の大きさ(ウィンドウサイズ)の変更や操作ができなくなった場合は、上記の操作で文字サイズをWindows Vistaの初期設定に戻してください。

ズームボタンで文字サイズを変更する

キーボード上部のズームボタンでも、Internet ExplorerやOutlook 2007など、お使いのソフトによって文字サイズを変更できます。

ズームボタンについて詳しくは、「ソフト＆サポートナビゲーター」-「困った」-「ハードウェア・システム設定」-「ディスプレイ」-「Q:画面上の小さな文字やアイコンを拡大して見やすくしたい」をご覧ください。

- 【Ctrl】を押したままマウスのスクロールボタンを上下に動かしても、画面の内容を拡大または縮小表示できます。このズーム機能に対応しているソフトは、ズームボタンでも拡大／縮小表示できます。次のようなソフトが、ズーム機能に対応しています。

  - Internet Explorer
  - Adobe Reader
  - Word 2007
  - Excel 2007
  - Outlook 2007

- ズーム機能に対応していないソフトでは、何も起こらなかったり、スクロールしたり、ほかの動作が起こることがあります。
- ソフトによっては、マウスポインタの位置で動作が異なることがあります。
- ワンタッチスタートボタンを無効にしている場合は、ズームボタンを押してもズーム機能は使用できません。

メモリーカードの扱い方

ここでは、メモリーカードを使うときの注意事項や、使用方法について説明します。

使用できるメモリーカードについて

このパソコンでは「SDメモリーカード」、「SDHCメモリーカード」、「メモリースティック」、「メモリースティック PRO」、および「xD-ピクチャーカード」を使うことができます。「miniSDカード」、「microSDカード」、「メモリースティック デュオ」、「メモリースティック PRO デュオ」、「メモリースティック PRO-HG デュオ」も使用できます。ただし、市販のアダプタが必要になります。

- メモリーカードやアダプタの形状、注意事項など、詳しくは「ソフト&サポートナビゲーター」-「使う」-「パソコンにつなげる」-「トリプルメモリースロット」をご覧ください。
- すべてのメモリーカードの動作を保証するものではありません。メモリーカードの説明書をよく読んでから使用してください。
- 大切なデータはハードディスクなどにコピーして、バックアップを取っておくことをおすすめします。
- メモリーカードを読み込めない場合は、メモリーカード内のファイルに対応するソフトがパソコンにあるかを確認してください。携帯電話の機種やダウンロードサービスの種類によっては、専用のソフトをパソコンにインストールする必要があります。
- 携帯電話からメモリーカードにダウンロードした音楽データなどは、エクスプローラなどからパソコンにコピーしても利用できないことがあります。携帯電話の機種によって異なりますので、詳しくは携帯電話の説明書をご覧ください。
- 誤った操作による故障やメディアの取り出しは有償となりますのでご注意ください。

取り扱い上の注意

メモリーカードを取り扱う際は、次のことに気を付けてください。

使用について

・ 静電気による故障を防ぐため、静電気を放電してからメモリーカードを取り扱ってください。
・ 小型のメモリーカードなど、アダプタが必要なカードは、必ずアダプタを装着してください。
・ メモリーカードは、方向を確認して取り付けてください。
・ トリプルメモリースロットには、対応以外のメモリーカードを挿入しないでください。
・ メモリーカードの読み込み／書き込み中は、トリプルメモリースロットからメモリーカードを取り出さないでください。
・ メモリーカードやトリプルメモリースロットの金属端子部分を触らないでください。
・ 裏面に通電性（電気を通す性質）がある金属が使用されているSDメモリーカード、SDHCメモリーカードや変換アダプタは使用しないでください。
・ 汚れたメモリーカードは、汚れをとってからトリプルメモリースロットに取り付けてください。

取り扱いについて

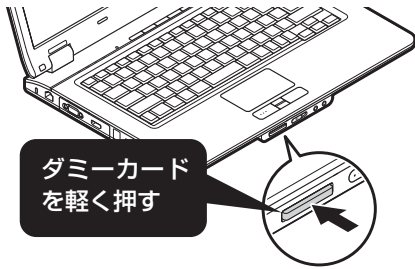
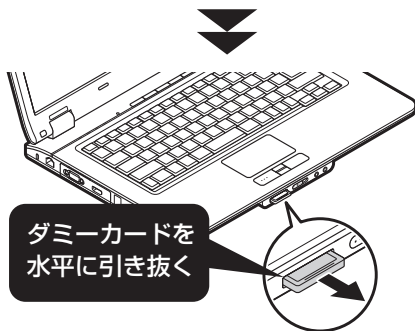
・ 分解しないでください。
・ 上に重いものを載せたり、曲げたりしないでください。
・ 溶剤類、飲み物などを近づけないでください。
・ クリップなどではさんだり、投げたり、落としたりしないでください。
・ ゴミやホコリが多い場所での使用は避けてください。

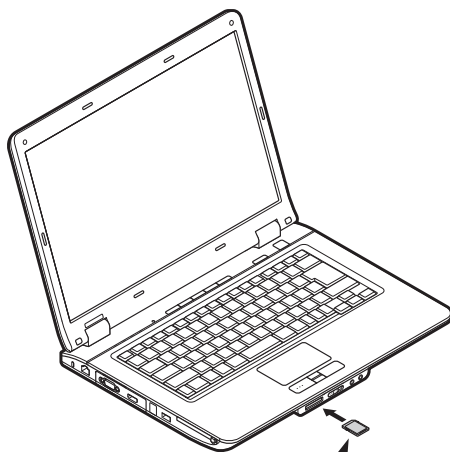
保管について

・ 使わないときは収納箱に入れて保管してください。
・ 直射日光の当たる場所、暖房器具の近くなど温度が高くなる所、ゴミやホコリが多い所に置かないでください。
・ 長期間使用しないときは、メモリーカードやアダプタを、トリプルメモリースロットに取り付けたままにしないでください。
・ メモリーカードには、添付の指定ラベル以外を貼らないでください。
・ メモリーカードには、指定の貼付箇所以外にラベルを貼らないでください。

・ Windows上でメモリーカードのフォーマットやディスクデフラグをおこなわないでください。
・ メモリーカードにデータを保存中または読み込み中に周辺機器を接続しないでください。また、データの保存中はスリープ状態にしないでください。メモリーカード内のデータが破損したり誤動作の原因になります。

1 ダミーカードを取り外す

はじめてご使用になるときは、トリプルメモリースロットにダミーカードが取り付けられています。取り出してから使用してください。

ダミーカードが少し出てきます。

2 メモリーカードを差し込む

- 「miniSDカード」、「microSDカード」、「メモリースティック デュオ」、「メモリースティック PRO デュオ」、「メモリースティック PRO-HG デュオ」を使う場合は、アダプタに差し込んでおいてください。アダプタの装着方法について詳しくは、メモリーカードまたはアダプタの説明書をご覧ください。
- メモリーカードには表面と裏面があります。またスロットへ差し込む方向が決まっています。間違った向きで無理に差し込むと、カードやスロットが破損することがあります。詳しくは、メモリーカードの説明書をご覧ください。
- メモリーカードやアダプタの形状、注意事項など、詳しくは「ソフト&サポートナビゲーター」-「使う」-「パソコンにつなげる」-「トリプルメモリースロット」をご覧ください。

メモリーカードの表面を上にして向きに注意し、トリプルメモリースロットに奥までしっかり差し込む

メモリーカードをセットしたとき、「自動再生」の画面が表示されることがあります。表示された項目を選ぶと、フォルダを開いてファイルを表示したり、ソフトを使って画像を表示することができます。

画像データが入ったメモリーカードをセットしたとき、SmartPhotoが起動してスライドショーが始まることがあります。

3 メモリーカードを取り外す準備をする

画面右下の通知領域にある をクリックすると表示される「××××を安全に取り外します」で、取り外す機器名をクリックします。

「このデバイスはコンピュータから安全に取り外すことができます。」というメッセージが表示されたら「OK」をクリックしてください。

- **画面右下の通知領域に が表示されていないときは、 をクリックしてください。**
- **トリプルメモリースロットアクセスランプ点灯中は、メモリーカードを絶対に取り出さないでください。ドライブの故障やデータの不具合の原因になります。**

4 メモリーカードを取り外す

手順1でダミーカードを取り外したのと同じ方法で、メモリーカードを取り外します。
メモリーカードを取り外した後は、手順2と同じ方法で、ダミーカードをトリプルメモリースロットに差し込んでください。

CD-ROMやDVDの扱い方

CD-ROMやDVDなどをパソコンで楽しむときの取り扱い上の注意、入れ方と出し方を説明します。

・ブルーレイディスクドライブモデル、BD-ROMドライブモデルで使用できるブルーレイディスクも、CDやDVDと同じように扱います。

・このパソコンで使えるディスクについて詳しくは、「ソフト＆サポートナビゲーター」-「パソコンの各機能」-「ブルーレイディスク/DVD/CDドライブ」をご覧ください。

ディスクを取り扱うときの注意

次の注意事項を守ってください。

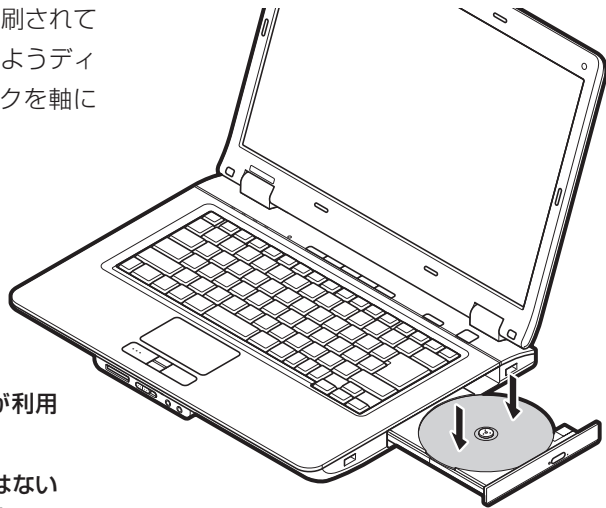
・データ面（文字などが印刷されていない面）に手を触れない。
・ディスクにラベルを貼ったり、傷つけたりしない。
・ラベル面に文字を書くときは、フェルトペンなどペン先のやわらかいものを使う。
・ディスクの上に重い物を載せない。ディスクを曲げたり落としたりしない。
・汚れたときは、やわらかい布で内側から外側に向けてふく。
・汚れが落ちにくいときは、CD専用のスプレーを使う。
・ベンジン、シンナーなどは使わない。
・ゴミやホコリの多い場所で使わない。
・直射日光の当たる場所や湿度の高い場所に保管しない。
・ラベルやテープが貼られているなど、重心バランスの悪いディスクを使用すると、使用時の振動や故障の原因になります。
・このパソコンにインストールされているOS以外のOSに対応したCDやDVDは、使えないものがあるため、ご購入前に確認してください。
・使用するディスクによっては、最高速度で書き込み、読み込みができない場合があります。

1 イジェクトボタンを押してディスクトレイを出す

ディスクトレイが少し飛び出したら、手で静かに引き出します。

- ディスクトレイは、パソコンの電源が入っているときのみ出すことができます。
- DVD/CDドライブ内のレンズには触れないでください。

2 ディスクを入れる

ディスクのデータ面(文字などが印刷されていない面)を下にして、傷つけないようディスクトレイの中央に置き、ディスクを軸にしっかりはめ込みます。

- **8cmと12cmのディスクが利用できます。**
- **星型や名刺型などの円形ではない異形ディスクや、規格外に容量の大きな書き込みディスクなどは利用できません。**

DVD/CDドライブのイジェクトボタンに触れないようにディスクトレイ前面を押して、ディスクトレイをもとの位置に戻します。

画像データが入ったディスクをセットしたとき、SmartPhotoが起動してスライドショーが始まることがあります。

目的に応じて使うディスクを選ぶ

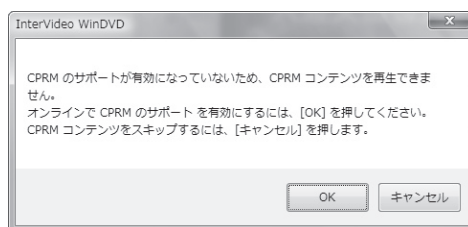
ディスクには、さまざまな種類があります。目的に応じたディスクを利用してください。
利用できるディスクはパソコンにより異なります。詳しくは「ソフト&サポートナビゲーター」-「パソコンの各機能」-「ブルーレイディスク/DVD/CDドライブ」をご覧ください。

目的	利用できる主なディスク
音楽CDを作る	CD-R、CD-RW
デジタルビデオカメラの映像をディスクに保存する※	DVD-R、DVD-RW
市販のDVD-Videoをコピーする	著作権保護のためコピーできません

※ お使いのデジタルビデオカメラによって、映像の取り込み方法は異なります。詳しくはデジタルビデオカメラのマニュアルをご覧ください。

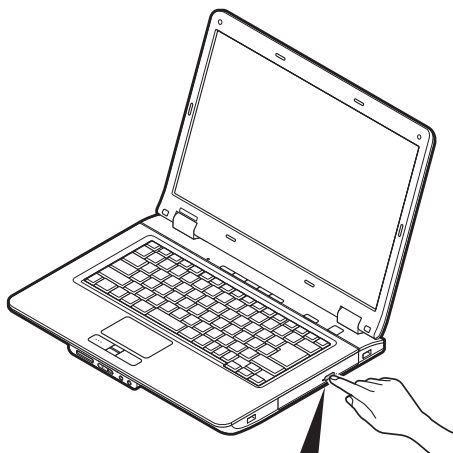
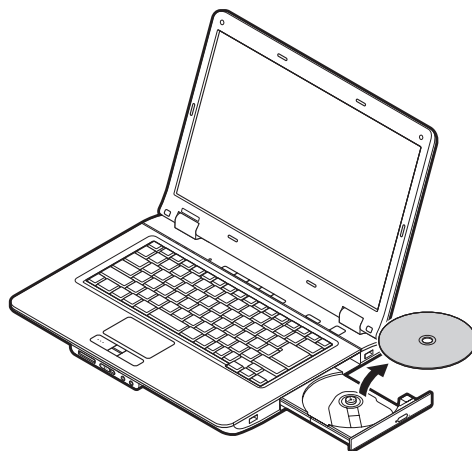
こんな画面が表示されたら

CPRMのサポートに関する画面が表示されたら

DVD/CDドライブにディスクを入れた直後に右の画面が表示された場合は、「OK」をクリックして「WinDVD for NEC」、「WinDVD AVC for NEC」または「WinDVD BD for NEC」でCPRMコンテンツを再生するためのデバイス鍵をダウンロードしてください。
CPRM Packのアップデート手順について詳しくは、付録の「CPRMのアップデート」(168ページ)をご覧ください。

CPRM Packのアップデートをするには、インターネットに接続する必要があります。

自動再生の画面が表示されたら

DVD/CDドライブにディスクを入れた直後に右の画面が表示された場合は、表示された項目を選ぶと、フォルダを開いてファイルを表示したり、ソフトを使って映像などを再生することができます。

3 ディスクを取り出す

イジェクトボタンを押し、ディスクトレイを出す

ディスクを取り出したら、ディスクトレイを押して、収納してください。

パソコンの基本的な使い方を学ぶ「パソコンのいろは3」

「パソコンのいろは3」を使って、パソコン、Windows Vistaや「Office 2007」の基本操作を学んでみましょう。パソコンを使うのがはじめてというかたは、インターネットを始める前にキーボードで文字を入力する練習をしておくことをおすすめします。

「パソコンのいろは3」で操作を学ぶ

このパソコンには、基本的なことからパソコンの操作が学べる「パソコンのいろは3」が入っています。「パソコンのいろは3」では、文字の入力、電子メールのやりとり、ホームページを見る方法などを学ぶことができます。パソコンやWindows Vistaの基本操作を覚えたいかたは、次の手順にしたがって「パソコンのいろは3」で学習を始めてみましょう。

ほかのソフトが起動しているときは、「パソコンのいろは3」を始める前にすべて終了させてください。

1 ランプを確認する

1 のランプが消えていること

【NumLock】(ニューメリックロック)を押すと、ランプの点灯/消灯が切り換わります。

A のランプが消えていること

【Shift】(シフト)を押したまま【CapsLock】(キャップスロック)を押すと、ランプの点灯/消灯が切り換わります。
【Shift】はキーボードに2つありますが、どちらか1つを押すだけでかまいません。

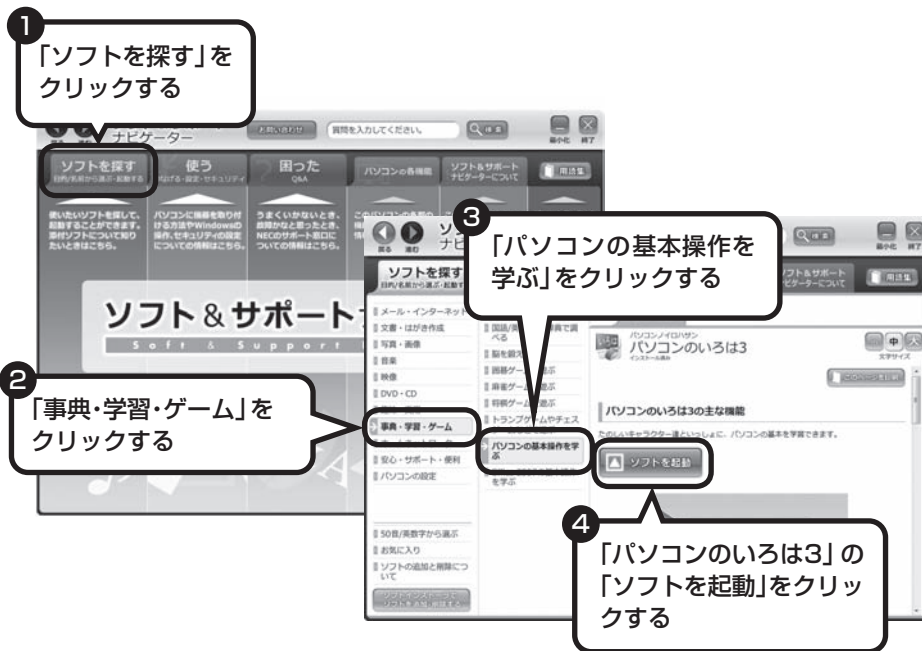
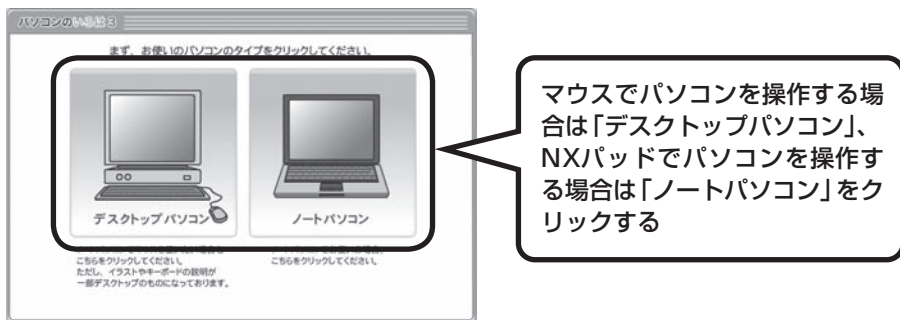
2 ソフト＆サポートナビゲーターを起動する

ソフト＆サポートナビゲーターの最初の画面が表示されます。

ご購入時の状態では、キーボード上側の【ソフト】ボタンを押すと、「ソフト＆サポートナビゲーター」の、ソフトを起動するためのページが表示されます。

ソフト＆サポートナビゲーターとは

「ソフトを探す」から目的に合ったソフトを探したり、見つけたソフトを起動するときに使います。
「ソフト＆サポートナビゲーター」には、「ソフトを探す」のほかにも、「使う」「困った」「パソコンの各機能」「検索」「用語集」などの項目があって、目的に応じてソフトの使い方やパソコンの使い方をサポートします。
「ソフト＆サポートナビゲーター」について詳しくは、「パソコンの画面で解説、検索「ソフト＆サポートナビゲーター」」（71ページ）をご覧ください。

3 「パソコンのいろは3」を始める

自動的に「パソコンのいろは3」が始まります。

パソコンを使うのがはじめてのかたは、1章から順番に始めてください。章や項目のどこからでも始められ、1～2時間で文字の入力まで練習することができます。練習の途中で「パソコンのいろは3」を終了させることもできます。その場合、画面右下に表示されている「終了」をクリックしてください。画面中央に確認の画面が表示されるので、「終了します」をクリックすると「お疲れさまでした。」と表示され、終了します。

途中から練習するときは

次回から、「パソコンのいろは3」を起動すると、目次が表示されるようになります。やりたい章や項目をクリックすると、練習を始められます。

はじめてWindows Vistaを使うときは

Windows Vistaを使うのがはじめてのかたは、12章の「Windows Vistaを使う」に目をとおしておくとよいでしょう。サイドバーの使い方や、電源の切り方など、今までのOSとは違ったWindows Vistaの機能を学ぶことができます。
12章を表示するには、「パソコンのいろは3」の目次で、画面右側にある後編の「表示する」をクリックしてください。

はじめてOffice 2007を使うときは（Office 2007モデルのみ）

Office 2007を使うのがはじめてのかたは、「パソコンのいろは3 Office 2007編」で練習するとよいでしょう。ワープロソフトのWord（ワード）、表計算ソフトのExcel（エクセル）などの使い方を勉強できます。
「パソコンのいろは3 Office 2007編」は、「ソフト＆サポートナビゲーター」-「ソフトを探す」-「50音／英数字から選ぶ」-「パソコンのいろは3 Office 2007編」の「ソフトを起動」をクリックして起動してください。

パソコンの画面で解説、検索「ソフト&サポートナビゲーター」

「ソフト＆サポートナビゲーター」は、ソフトを起動するだけでなく、パソコンの詳しい使い方を知りたいときや困ったときに役立つ、画面で見るマニュアルとしての機能も持っています。

ソフト&サポートナビゲーターについて

デスクトップの（ソフト＆サポートナビゲーター）に矢印を合わせてダブルクリックすると「ソフト＆サポートナビゲーター」の最初の画面が表示されます。

これから知りたいこと、やろうとしていることに合わせて、項目を選んでください。

- ソフトを探す…目的に合ったソフトを3ステップで選んだり、見つけたソフトを起動するときに使います。ソフトの説明も表示されるので、ソフトを探すときに便利です。
- 使う…このパソコンに周辺機器を取り付けて使う方法や、Windowsの便利な使い方など、知っていると便利な使い方について説明しています。
- 困った…うまくいかないときや、故障かな？と思ったときに利用してください。サポート窓口への問い合わせ方なども説明しています。
- パソコンの各機能…パソコンの省電力機能や表示機能など、パソコンの機能について説明しています。パソコンを使いこなすときに利用してください。
- ソフト＆サポートナビゲーターについて…ソフト＆サポートナビゲーターの使い方に困ったら、ここをご覧ください。
- 用語集…わからない単語があったらクリックしてみてください。50音でよく使うパソコン用語を調べることができます。

「ソフト＆サポートナビゲーター」の詳しい内容については、付録の「「ソフト&サポートナビゲーター」詳細目次」(184ページ)をご覧ください。

知りたい項目を検索しよう

「ソフト＆サポートナビゲーター」で知りたい項目が見つからないときは、キーワードを入力して「検索」を押してみてください。

選んだ検索範囲の中から、入力したキーワードが含まれる項目が検索されます。

はじめて検索するときは、CyberSupport for NECの「使用許諾契約書」が表示されます。内容をよく読み、「同意する」をクリックしてください。その後、パソコンが検索するための設定をおこないますので、結果が出るまで少しお待ちください。
次回起動時はすぐに結果が出るようになります。

もしものときに備えて

ポイント

● バックアップ、再セットアップディスク、パスワードでもしもに備える

大切なデータはバックアップを取る

バックアップとは

パソコンに内蔵されているハードディスクには、大切なデータが保存されています。このハードディスクは、ちょっとした衝撃によって壊れたり、長期間使用するうちに突然動かなくなったりすることがあります。このような場合、ハードディスクを交換したり再セットアップすることでパソコンをご購入時の状態に戻すことはできますが、大切なデータが失われてしまいます。万一のアクシデントに備えて、データの控えを残しておきましょう。このデータの控えのことを「バックアップ」と呼びます。

DVD-RやCD-Rなどにもバックアップを取っておく

このパソコンに搭載されている「バックアップ･ユーティリティ」というソフトを使って、バックアップを取ることができます。「バックアップ･ユーティリティ」の使い方について詳しくは、『パソコンのトラブルを解決する本』の「もしものときに備えて(バックアップ)」-「バックアップ･ユーティリティでバックアップ/復元する」をご覧ください。
ただし、ハードディスクのDドライブという場所にバックアップを取っておいても、ハードディスク自体が故障したときは、データをもとに戻すことができません。別売のDVD-RやCD-Rなどにもバックアップを取っておくことをおすすめします。

・セキュリティ機能を使用してデータのバックアップを取る場合、パスワードを控えておいてください。パスワードを忘れると復元できなくなります。

・セキュリティ機能を使用してDVDやCDにデータのバックアップを取る場合や、バックアップを取ったデータを参照･復元する場合、ハードディスクに一時的にデータをコピーする必要があります。そのため、バックアップを取ったデータのサイズに応じて、ハードディスクのいずれかのドライブにバックアップを取ろうとするデータのサイズと同等(最大約50Gバイト)の空き容量が必要です。

・著作権を持つデータ(購入した音楽データなど)は、「バックアップ･ユーティリティ」を使ってバックアップを取ることができません。また、多くはエクスプローラなどでコピーしても利用できません。著作権を持つデータのバックアップは、そのデータを扱えるソフト(音楽データであれば、そのデータの購入に使用したソフト)でおこなってください。

ハードディスク全体のバックアップを取る

「Roxio BackOnTrack」というソフトを使うと、ハードディスク全体をDVDなどのディスクにバックアップを取ることができ、ドライブ全体を復元することができます。
またCドライブ全体をDドライブやDVDなどのディスクにバックアップすると、Dドライブのデータをそのままにして、Cドライブのみ復元することができるようになります(Cドライブのバックアップデータは Dドライブに取ることもできます)。
インターネットやメールの設定や、ソフトの設定など、すべておこなった状態をバックアップ/復元できるので便利です。
まずは、第5章または第6章の作業が終わり、インターネットの設定が完了した直後にハードディスクのバックアップを取っておくことをおすすめします。
そのほか、トラブルが起きたときのために、いろいろな設定が終わった状態のバックアップを取っておくとよいでしょう。
「Roxio BackOnTrack」は、「ソフト&サポートナビゲーター」-「ソフトを探す」-「50音/英数字から選ぶ」-「Roxio BackOnTrack」の「ソフトを起動」をクリックして起動してください。
「Roxio BackOnTrack」の使い方については『パソコンのトラブルを解決する本』の「もしものときに備えて(バックアップ)」-「Roxio BackOnTrackでバックアップ/復元する」をご覧ください。

特定のフォルダ内のデータをバックアップ

「FlyFolder」というソフトを使うと、ドキュメントフォルダやピクチャフォルダなど、特定のフォルダ内のデータを、自動バックアップします。バックアップ先には、ハードディスクやメモリーカードのほかに、ネットワーク上の別のパソコンを選ぶこともできます。
特定のフォルダに作成したデータを保存したり、そのデータを更新したりするたびに、バックアップ先のハードディスクなどに自動的にバックアップデータが作成されます。

「FlyFolder」は、「ソフト&サポートナビゲーター」-「ソフトを探す」-「50音/英数字から選ぶ」-「FlyFolder」の「ソフトを起動」をクリックして起動してください。
「FlyFolder」の使い方については『パソコンのトラブルを解決する本』の「もしものときに備えて(バックアップ)」-「FlyFolderでフォルダを指定してバックアップする」をご覧ください。

データを保存しておくだけでもバックアップになる

「バックアップ・ユーティリティ」を利用するほかに、大切なデータを定期的にDVD-RやCD-R、外付けのハードディスクなどに保存しておくだけでもバックアップの効果があります。

再セットアップディスクを作成しておく

トラブルがどうしても解決できないときにおこなう「再セットアップ」は、通常、ハードディスク内にある再セットアップ用データを使います。しかし、ハードディスクが故障した場合は、この方法で再セットアップすることができなくなります。そのような場合に備え、再セットアップディスクを作成しておき、そのディスクから再セットアップすることができるようにしておきましょう。再セットアップディスクを作成する方法については、『パソコンのトラブルを解決する本』の「再セットアップディスクを作成する」をご覧ください。

再セットアップディスクは、ご購入時の製品構成以外では、作成できないことがあります。

Windows起動時のパスワードを設定する

不正アクセス被害防止や情報の保護など、セキュリティ対策のため、Windows起動時にパスワードを入力する設定をしておくことをおすすめします。
手順については、第3章の「Windowsのパスワードを設定する」(32ページ)をご覧ください。

インターネットに接続できるようになったら

インターネットに接続できるようになったら、パソコンを安全に利用するために、次のようなセキュリティ対策をおこなってください。

・ Windowsを最新の状態にする
・ ウイルス対策ソフトを利用する。またソフトは常に最新の状態に(アップデート)する
・ ファイアウォール機能を利用する

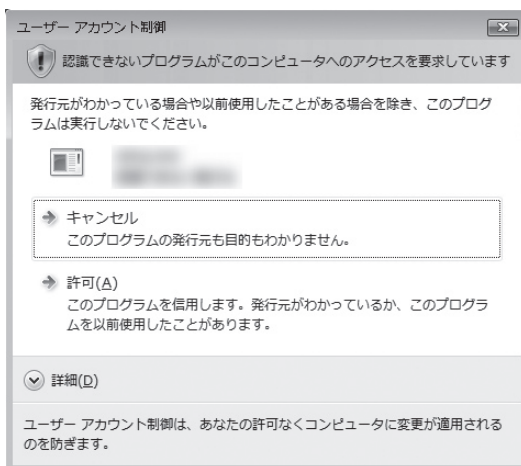
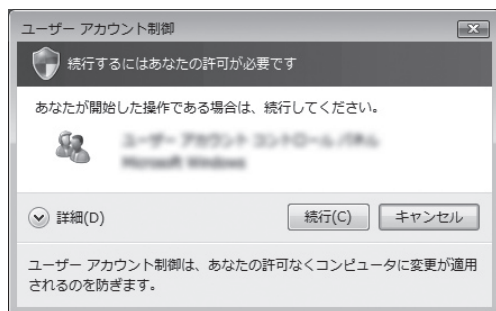
上記のセキュリティ対策について詳しくは、第5章の「パソコンを安全に使うための設定をおこなう」(105ページ)をご覧ください。

ユーザー アカウント制御について

ポイント

- 「ユーザー アカウント制御」でパソコンを守る

内容をよく読んで操作する

ソフトを起動したり、操作しているときに、次のような「ユーザー アカウント制御」画面が表示されることがあります。
「ユーザー アカウント制御」は、パソコンのシステムに影響を及ぼす可能性のある操作がおこなわれたときに、その操作がユーザーの意図したものかどうかを確認するためのものです。コンピュータウイルスなどの「悪意のあるソフトウェア」からパソコンを守るために、「ユーザー アカウント制御」画面で表示された内容をよく読んで操作してください。

※プログラムによっては、メッセージが異なることがあります。

「ユーザー アカウント制御」画面で「管理者」ユーザーのパスワードが必要な場合があります。

第5章

これからインターネットを始めるかたへ

インターネットを利用してホームページを楽しんだり、メールをやりとりするためには、パソコンを通信回線に接続し、インターネット接続業者(プロバイダ)に入会する必要があります。ここでは、はじめて自分のパソコンでインターネットを始めるかたを対象に、接続や設定の手順を説明します。前に持っていたパソコンで、すでにインターネットを利用していたかたは、「第6章　パソコンを買い替えたかたへ」(113ページ)へ進んでください。

インターネットの接続方法

インターネットを利用するための接続方法には、いろいろなものがあります。高速なブロードバンド接続と、それ以外に大きく分けられます。

ブロードバンド接続

FTTH(エフティーティーエイチ)

光ファイバーを使ってインターネット接続をする方法です。回線事業者によってサービスの名前が異なります(Bフレッツなど)。
ほかのブロードバンド接続よりも高速な通信をおこなえます。また、受信だけではなく送信速度も高速なため、大きなデータのやりとりに向いています。
光ファイバーを家の中に引き込むための工事が必要になる場合があります。

ADSL(エーディーエスエル)

家庭にあるアナログ回線(一般の電話回線)を使って、インターネット接続をする方法です。いくつかの回線事業者がサービスを提供していて、回線速度もサービスごとに異なります。
サービスの提供地域が広く、アナログ回線を利用するため、手軽にブロードバンドを利用できます。

CATV(ケーブルテレビ/シーエーティーブイ)

ケーブルテレビ会社の回線を使ってインターネット接続をする方法です。インターネットと同時に、ケーブルテレビ放送なども利用できます。回線速度やサービスは、各CATV業者によって異なります。

そのほかの接続

ダイヤルアップ接続

一般の電話回線を使ってインターネットに接続する方法です。電話回線があれば、電話回線ケーブル(モジュラケーブル)を用意するだけでインターネットに接続できます。
回線速度がほかの接続と比べてきわめて遅いため、動画など、サービスによっては利用できないことがあります。また、インターネット利用中は電話を使用できません(電話をかけてきた相手には、話し中になります)。

このパソコンでは、ダイヤルアップ接続はご利用になれません。

ISDN(アイエスディーエヌ)

NTTのデジタル回線、ISDNでインターネットに接続する方法です。アナログ回線よりも少しだけ高速になります。また、電話とインターネットを同時に利用できます。ダイヤルアップ接続と同じように、動画など、サービスによっては利用できないことがあります。

ブロードバンド接続の流れ

FTTHの場合を例として、インターネットに接続するまでの流れを説明します。

1 プロバイダや申し込みたいコース(料金プラン)を決める

プロバイダとは、インターネット接続業者のことです。特に会社を決めていない場合、BIGLOBEに入会することをおすすめします。
詳しくは、「プロバイダに入会する」(80ページ)をご覧ください。

2 プロバイダに申し込む

入会するプロバイダとコース(料金プラン)を決めたら、電話または書面で入会を申し込みます。
詳しくは、「プロバイダに入会する」(80ページ)をご覧ください。

3 回線の開通を待つ

FTTHは、回線をNTT東日本またはNTT西日本が提供するもの(Bフレッツ)と、別の回線事業者(KDDIなどの会社があります)が提供するものがあります。どこが回線を提供するかや、通信速度などによってコース(料金プラン)が分かれています。FTTHを利用できるか適合チェックをおこなってから、必要に応じて回線終端装置の準備や光ファイバーの導入工事などをおこないます。申し込みから開通までは、通常、数週間かかります。
申し込みから回線の開通までについて詳しくは、各回線事業者にお問い合わせください。

4 回線終端装置を接続して、パソコンの設定を変更する

回線終端装置をパソコンに接続して、パソコンの設定を変更します。
回線や機器によって接続方法や設定が異なります。「入会手続きが完了したら」(82ページ)をご覧ください。

プロバイダに入会する

BIGLOBEに入会する

インターネットプロバイダBIGLOBEでは、お電話で入会申し込みを受け付けております。

BIGLOBE 電話で入会センター(受付時間9:00～21:00　365日)

フリーコール 0120-15-0962

※電話番号はおかけ間違えのないようにご注意願います。

※携帯電話、PHSからもご利用になれます。

そのほかのプロバイダに入会する

BIGLOBE以外にもさまざまなプロバイダがあります。入会方法については、各プロバイダにお問い合わせください。

プロバイダって何をするの？

プロバイダはインターネットに24時間つながっているコンピュータ(「サーバー」といいます)を管理しています。このサーバーが、メールを一時的に預かってくれたり、インターネットにつなげる中継役となってくれるのです。プロバイダは、「ISP(インターネット・サービス・プロバイダの略)」と呼ばれることもあります。

申し込みたいコース(料金プラン)を決めるには

多くのプロバイダは、ブロードバンド方式、回線事業者、通信速度などの種類別に、たくさんのコース(料金プラン)を用意しています。あらかじめ、プロバイダのパンフレット(BIGLOBEの『インターネット活用ブック』など)を見て検討してください。また、お住まいの地域や建物の状況によって利用できないサービスがあります。申し込みたいコースが利用できるかどうか、プロバイダにお問い合わせください。また、集合住宅の場合は、オーナーや管理組合の承認が必要な場合があるので、こちらも確認してください。

このパソコンでは、ダイヤルアップ接続はご利用になれません。

FTTH以外の接続の場合

ADSL

お住まいの地域や建物でADSLの利用が可能か、回線事業者の担当者がコンサルティングをおこないます。詳しくは、プロバイダにお問い合わせください。
申し込む回線事業者や必要な工事によっても異なりますが、申し込みから開通まで、一般に数週間程度の時間がかかります。

CATV

ケーブルテレビ局への申し込みが必要です。申し込み手続きやインターネット接続用機器の設置などについては、ご利用地域のケーブルテレビ局にお問い合わせください。
開通までに必要な時間は、ケーブルテレビ局によって異なります。各ケーブルテレビ局にお問い合わせください。

ISDN

BIGLOBEの場合、ダイヤルアップコースの中にある「使いほーだい」コースが「フレッツ・ISDN」に対応しています。これまでアナログ回線で電話を利用していたかたは、ISDN回線への切り換え工事をおこない、TA(ターミナルアダプタ)などのISDN接続機器を設置する必要があります。

入会手続きが完了したら

通常、入会手続きが完了したら、回線事業者から導入工事や接続に必要な機器に関するご説明の連絡があります。このときに導入工事の希望日をお伝えください。
導入工事の日取りが決まると、回線事業者からインターネット接続に必要なマニュアル、CD-ROM(接続ツール)などを含むご案内の資料が送られてきます。インターネットに接続する際に必要になりますので、プロバイダから送られてきた資料とともに大切に保管してください。
回線事業者の工事担当者が来て、インターネット接続のための導入工事が終了すると、いよいよインターネットへの接続設定をおこないます。「ブロードバンド接続の設定」(97ページ)をご覧になり、設定をおこなってください。

集合住宅型のブロードバンド接続やCATVのブロードバンド接続など、ご利用になるブロードバンド接続の種類により、設定方法や機器の種類が異なります。詳しくは、回線事業者やケーブルテレビ局へお問い合わせください。

ルータは必要？

ルータは、複数のパソコンやインターネット接続可能機器をインターネットに接続するときに必要になります。このパソコンだけをインターネットに接続する場合は、必要ありません。
ルータを使う場合は、パソコンを直接インターネットに接続する場合と接続方法が異なります。「ブロードバンド接続の設定」(97ページ)をご覧になり接続してください。
ルータは、必要に応じて別途ご購入ください。ADSLの場合、ルータタイプのADSLモデムを選択することもできます。

接続設定の進め方

入会手続きが終わったら、回線の種類やワイヤレスLANの有無によって、どのページを見て設定すればよいか、このページで確認してください。

接続機器によっては、このマニュアルに記載の設定方法と異なる場合があります。インターネット接続機器やワイヤレスLAN接続機器などに添付の設定マニュアルやCD-ROMソフトがある場合は、そちらを使って設定するのが確実です。

回線の種類は？

ブロードバンドで接続する

↓

ワイヤレスLANを使う？

- ワイヤレスLANで接続する
- ワイヤレスLANを使わない（ケーブルで接続する）

ワイヤレスLANで接続する場合↓

「ワイヤレスLANを利用したブロードバンド接続の設定」（次ページ）

↓

「ブロードバンド接続の設定」（97ページ）

↓

「インターネットに接続する」（99ページ）

↓

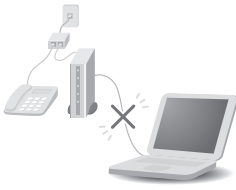
「メールソフトを設定する」（101ページ）

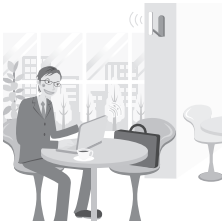
ワイヤレスLANを利用したブロードバンド接続の設定

無線でインターネットに接続するためにワイヤレスLANの設定をおこないます。

ワイヤレスLAN機能について

ワイヤレスLANとは、LANケーブルを無線(ワイヤレス)にしたものです。ワイヤレスLANを活用すれば、たくさんのケーブルが必要だったインターネット接続が変わります。

家の中で

ブロードバンドを利用するときは、パソコンとネットワーク機器をLANケーブルで接続します。ワイヤレスLANを使うと、この部分のケーブル接続が不要になります。
ワイヤレスLANの規格や使用環境にもよりますが、ワイヤレスLANの電波は、建物の壁などもある程度越えて届きます。ワイヤレスLANを導入すれば、パソコンの設置場所や持ち運びがもっと自由になり、使い方が広がります。

外出先で

最近は、「無線LANスポット」と呼ばれる公衆ワイヤレスLANサービスも増えてきました。これは、ワイヤレスLANを用いたネットワークをホテルや飲食店などに設置し、利用客に無料または有料で、インターネット接続環境を提供するものです。
外出先でも自分のノートパソコンを使ってインターネットに接続できるため、頻繁にパソコンを持ち歩くかたに便利なサービスです。

ワイヤレスLANは便利ですが、セキュリティの対策をしっかりしないと、外部からネットワークに入られて無断で利用され、情報を読まれてしまう危険があります。そうならないように、ワイヤレスLANを使うときは暗号化など、セキュリティをしっかり設定してください。

ワイヤレスLANの種類はいろいろある

ワイヤレスLANには現在、IEEE802.11b、IEEE802.11g、IEEE802.11a、およびDraft IEEE802.11nの4種類があり、組み合わせによっては接続できない場合もあるので注意が必要です。
Draft 11n対応ワイヤレスLAN(bgn)モデルは、IEEE802.11b、IEEE802.11g、およびDraft IEEE802.11nに対応しています。
ワイヤレスLANそれぞれの種類には、次のような特徴があります。

	規格上の理論値(通信速度)※	周波数	特　徴
IEEE802.11b	最大11Mbps	2.4GHz	対応機器が多く、互換性が高い規格
IEEE802.11g	最大54Mbps	2.4GHz	・IEEE802.11bよりも高速な通信が可能 ・IEEE802.11b対応機器との通信も可能
IEEE802.11a		5GHz	電波干渉の問題が少ない
Draft IEEE802.11n	最大300Mbps	2.4GHz/5GHz	・現在、もっとも高速な通信が可能 ・IEEE802.11b、IEEE802.11g、IEEE802.11a対応機器との通信も可能 このパソコンでは5GHzには対応していません。

※ 各規格による理論的な通信速度をもとにした通信モード表記です。通信の実効速度はこの通信モードの50%以下になります。通信速度は、パソコンと相手機器との間の電波状態や距離によっても変化します。詳しくは、付録の「仕様一覧」をご覧ください。

お使いの機器やプロバイダにより設定は大きく異なります。お使いの機器に添付されている説明書、プロバイダから入手した説明書、メーカやプロバイダのホームページなどで設定を確認してください。

設定に必要なもの

回線事業者やプロバイダから入手した資料

プロバイダの会員証など、ユーザー名やパスワードがわかる資料を用意してください。また、プロバイダから入手した接続設定用マニュアルやCD-ROMなどがある場合、そのマニュアルやCD-ROMにしたがって設定をおこなってください。

回線終端装置またはモデム

ブロードバンド回線の種類によって次のような機器が必要です。詳しくは、入会申し込みの時点でプロバイダにご確認ください。

・FTTH：回線終端装置(回線工事で設置)
・CATV：ケーブルモデム(CATV開通工事で設置)
・ADSL：ADSLモデム

ワイヤレスLANアクセスポイントまたはワイヤレスLANルータ

お使いのブロードバンド回線の種類やモデムの種類によって次のような機器が必要です。

- ADSLの場合、ADSLモデムにワイヤレスLANアクセスポイント機能が内蔵されているものもあります。
- 機器を購入するときは、このパソコンと通信できるかどうかを確認してください。
- 機器を購入するときは、お使いのモデムや回線終端装置の種類を確認してください。

◆ワイヤレスLANアクセスポイント(ブリッジタイプ)

次のような場合、ワイヤレスLANアクセスポイント（ブリッジタイプ）が必要です。

・ルータ機能のあるモデムをお使いの場合
・ワイヤレスLAN機能のないルータ（有線）を使って、インターネットに接続している場合

ワイヤレスLANルータでルータ機能を無効にして、ワイヤレスLANアクセスポイント（ブリッジタイプ）として利用できる場合もあります。

◆ワイヤレスLANルータ(ルータタイプのワイヤレスLANアクセスポイント)

次のような場合、ワイヤレスLANルータ（ルータタイプのワイヤレスLANアクセスポイント）が必要です。

・ルータ機能のないモデムをお使いで、複数のパソコンでインターネットに接続するなどルータ機能が必要な場合

接続する機器の設定について

ワイヤレスLANの接続では、接続するワイヤレスLANアクセスポイントがネットワーク名(SSID)を通知する設定(ステルス機能が無効)になっているか、通知しない設定(ステルス機能が有効)になっているかでパソコンの設定が異なります。このほかに、セキュリティキーなど設定に必要な情報は機器やメーカにより異なります。あらかじめお使いの機器のマニュアルをご覧になり、設定を確認しておいてください。

- ネットワーク名 (SSID)は、通知しない設定にする方が、不正アクセスなどへのセキュリティが高まります。
- 手順中に出てくるネットワークキーやセキュリティの設定などについて、詳しい内容は 「ソフト&サポートナビゲーター」-「パソコンの各機能」-「ワイヤレスLAN(無線LAN)」に説明があります。そちらも参照してください。
- 機器によっては、パソコンの設定をする前に、ユーザー名やパスワードなどの接続情報を設定する場合もあります。機器に添付されている説明書などの記載にしたがってください。

設定中に出てくるワイヤレスLANの用語について

機器やメーカにより、記載されている用語が異なることがあります。次の説明を参考にしてください。

ネットワーク名、SSID(Service Set IDentifier)

このマニュアルでは「ネットワーク名(SSID)」と記載しています。
ワイヤレスLANを構成するワイヤレスLANアクセスポイントと端末に付けられた識別子のことで、ワイヤレスLANをグループ化するために用いられます。ワイヤレスLANアクセスポイントと端末で同じSSIDが設定されていないと通信することはできません。ワイヤレスLAN接続ツールによっては、ESS-ID(Extended Service Set IDentifier)と記載している場合もあります。

ステルス機能

ワイヤレスLANアクセスポイントのSSIDを隠す機能です。この機能が有効になっていると、パソコン側からワイヤレスLANアクセスポイントを検索することができません(ネットワーク名(SSID)を通知しない)。
セキュリティ機能はステルス機能を無効にする(ネットワーク名(SSID)を通知する)よりも高いのですが、ネットワークプロファイルを手動で設定する必要があります。

セキュリティキー、WEP(Wired Equivalent Privacy)キー

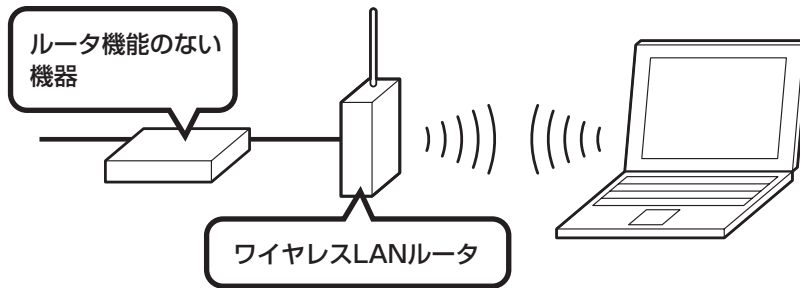
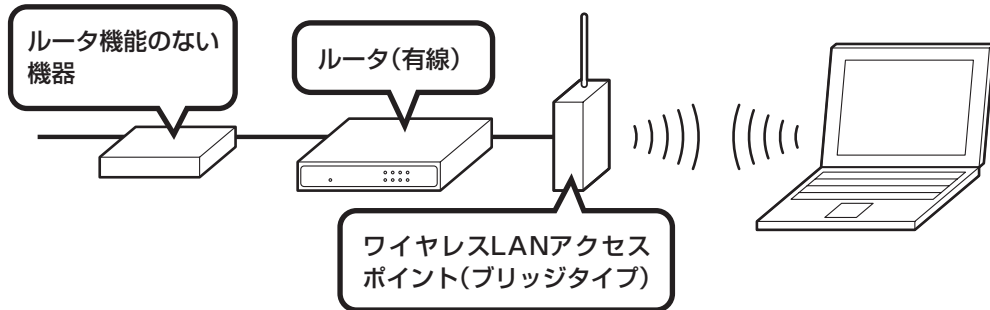
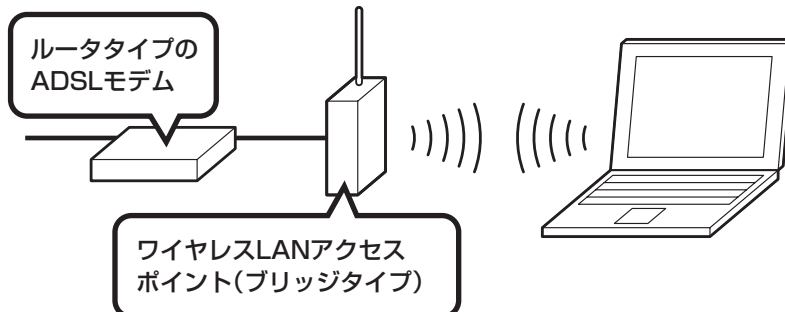
このマニュアルでは「セキュリティキーまたはパスフレーズ」と記載しています。
データを暗号化する鍵のことです。暗号キーまたはネットワークキーと記載される場合もあります。
無線LAN通信時に、第三者からの盗聴を防ぐために使用します。
パスフレーズと記載している場合もあります。

1 機器を接続する

まず、このパソコンとネットワーク機器を接続してください。

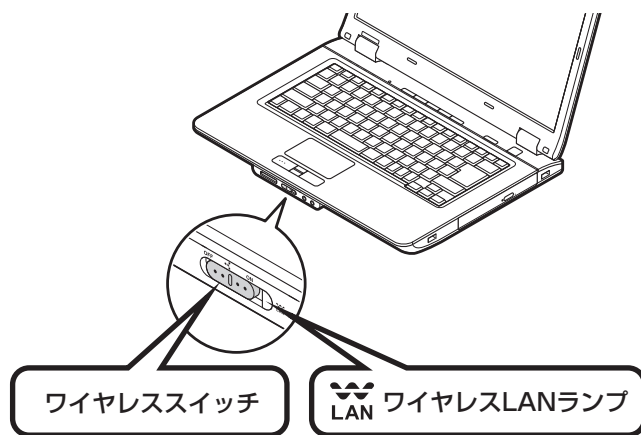
詳しい接続方法については、機器に添付されている説明書、プロバイダから入手した説明書、メーカやプロバイダのホームページなどをご覧ください。

FTTHの回線終端装置やADSLモデムをお使いの場合、次のように接続します。

回線終端装置やルータ機能のないADSLモデムの場合

回線終端装置やルータ機能のないADSLモデムの場合(ルータ(有線)を利用する場合)

ルータ機能のあるADSLモデムの場合

2 ワイヤレスLAN機能をオンにする

このパソコンでワイヤレスLANを使うには、ワイヤレススイッチをオン(ON)にしてください。

- ワイヤレススイッチがオフ(OFF)になっていると接続できません。
- Bluetooth機能を搭載したモデルでは、ワイヤレススイッチのオン(ON)/オフ(OFF)でBluetooth機能のオン/オフも同時に切り換わります。はじめてBluetooth機能を使用する際は、画面右下の通知領域にある(Bluetooth Manager)を右クリックし、「Bluetoothの開始」をクリックして設定をおこなう必要があります。詳しくは、「ソフト&サポートナビゲーター」-「パソコンの各機能」-「Bluetooth機能」-「Bluetooth機能の設定」をご覧ください。

ワイヤレススイッチを右側にスライドします。

ご購入時の状態では、ワイヤレススイッチはオフ(OFF)に設定されています。
- **ワイヤレススイッチがオン(ON)のときにはワイヤレスLANランプが点灯します。**
- **ワイヤレススイッチを左側にスライドすると、ワイヤレスLAN機能がオフ(OFF)になり、ワイヤレスLANランプが消灯します。**

ここからの手順は、接続するワイヤレスLANアクセスポイントの設定によって異なります。

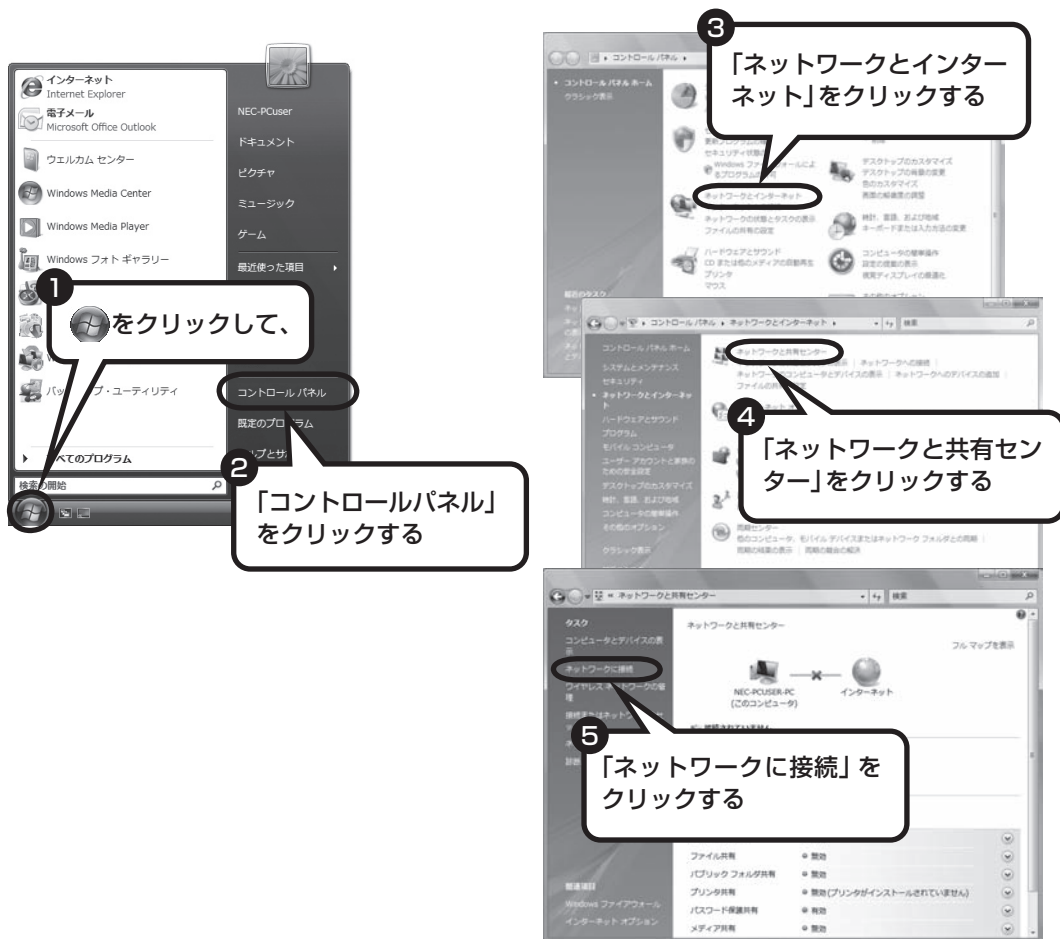
・ネットワーク名(SSID)を通知するワイヤレスLANアクセスポイント

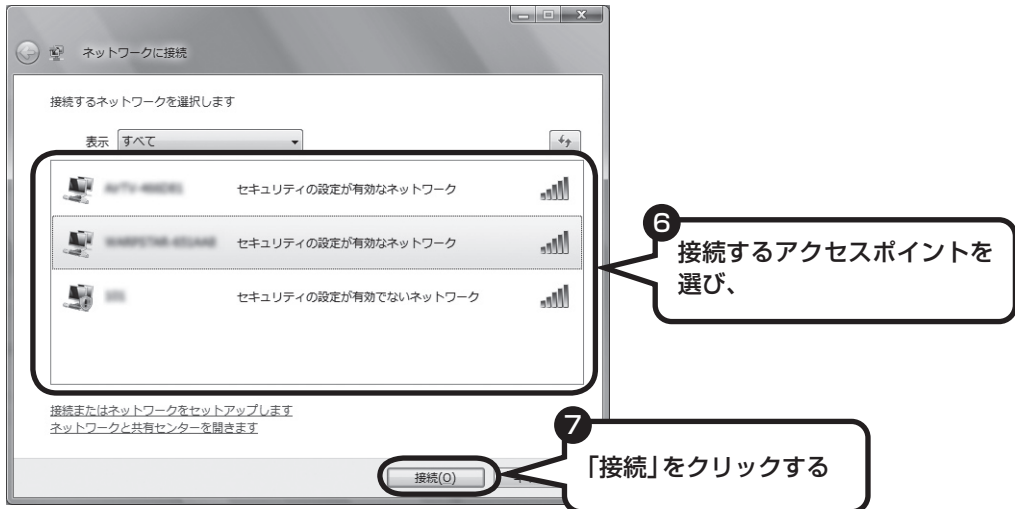
→次ページの「3 ネットワーク名(SSID)を通知するワイヤレスLANアクセスポイントに接続する」へ進んでください。

・ネットワーク名(SSID)を通知しないワイヤレスLANアクセスポイント

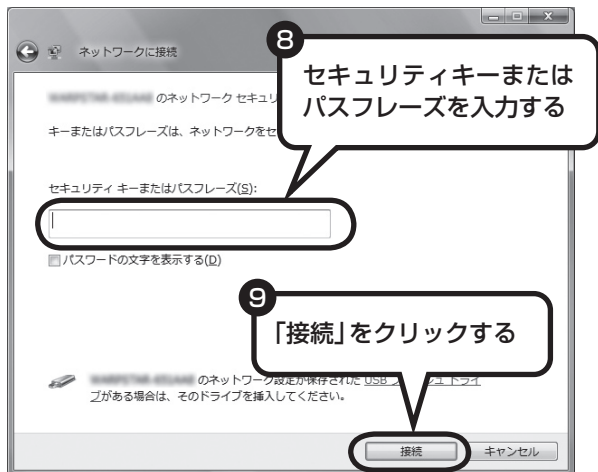
→94ページの「4 ネットワーク名(SSID)を通知しないワイヤレスLANアクセスポイントに接続する」へ進んでください。

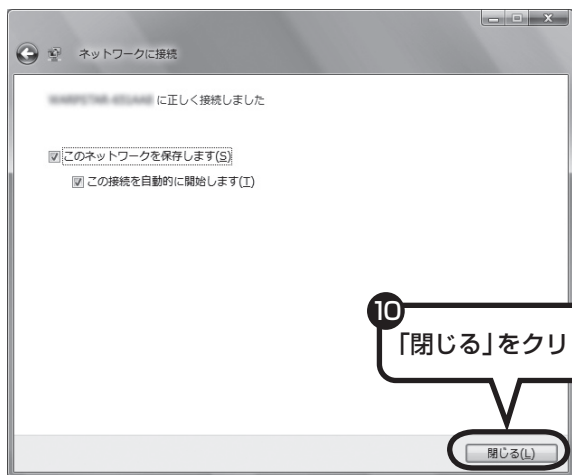
3　ネットワーク名(SSID)を通知するワイヤレスLANアクセスポイントに接続する

手順の途中で「ユーザー アカウント制御」画面が表示されたら、画面の表示を見ながら操作してください。

「ネットワークに接続」が表示されます。

「ネットワークに接続」は、「スタート」-「接続先」をクリックしても表示できます。

接続するネットワーク名が表示されていない場合は、画面右の をクリックしてください。
それでもネットワーク名が表示されない場合は、通知領域のを右クリックし、「診断と修復」を選択してください。

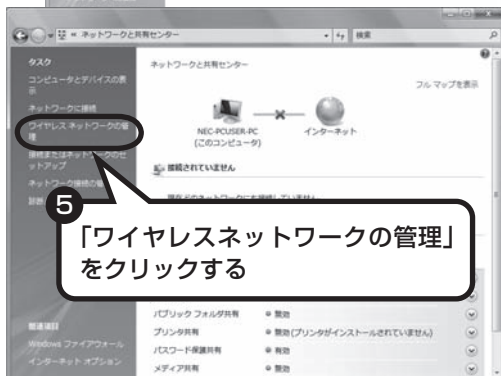
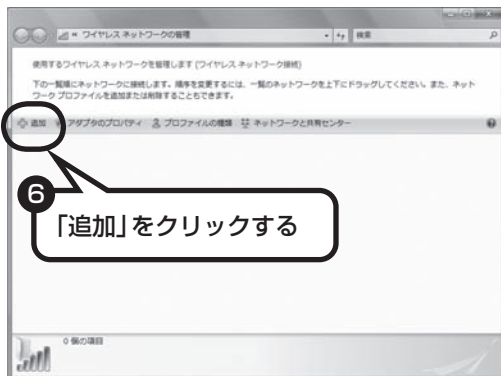
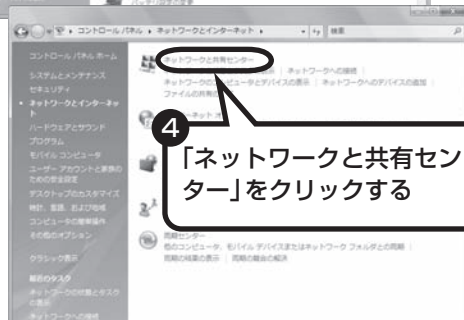
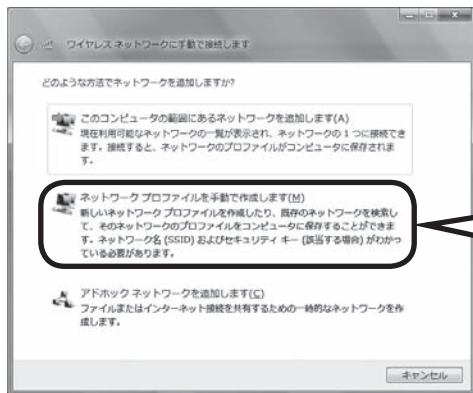
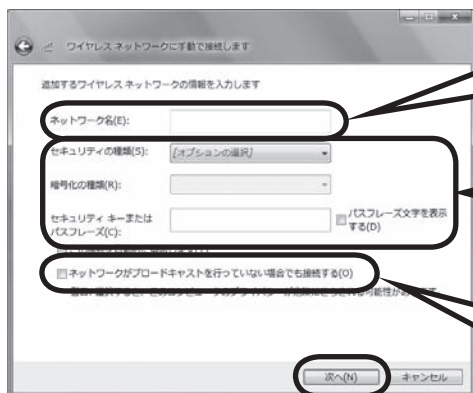
ネットワーク名(SSID)が表示されない場合は、次の理由が考えられます。

- **電波の状態が悪い。**
  電波が確実に届く範囲内に移動して作業してください。
- **ワイヤレスLANアクセスポイントが、ネットワーク名(SSID)を通知しない設定になっている。**
  ワイヤレスLANアクセスポイントのマニュアルなどを見て、設定を確認してください。ネットワーク名(SSID)を通知しない場合の設定については、94ページをご覧ください。

通信をおこなうワイヤレスLANアクセスポイントの設定と同じセキュリティキーまたはパスフレーズ(暗号キーやWEPキーとも呼ばれます)を入力します。

接続相手側機器がセキュリティ機能を無効にしている場合は、警告画面が表示されます。説明をよく読んで、「接続します」をクリックしてください。

接続され、デスクトップ画面右下の通知領域にが表示されます。
「ネットワークの場所の設定」の画面が表示された場合は、画面の説明を読んで設定してください。

画面右下に、が表示されている場合は、セキュリティキーまたはパスフレーズ(暗号キーやWEPキーとも呼ばれます)が正しいか確認してください。

4 ネットワーク名(SSID)を通知しないワイヤレスLANアクセスポイントに接続する

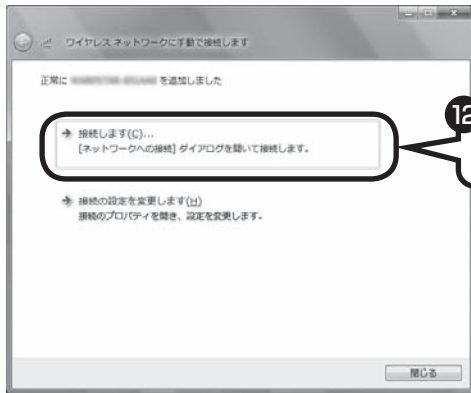
手順の途中で「ユーザー アカウント制御」画面が表示されたら、画面の表示を見ながら操作してください。

7 「ネットワークプロファイルを手動で作成します」をクリックする

8 「ネットワーク名」を入力する

9 セキュリティの設定をする

10 「ネットワークがブロードキャストを行っていない場合でも接続する」をクリックして☑にする

11 「次へ」をクリックする

通信をおこなうワイヤレスLANアクセスポイントの設定と同じに設定します。

接続相手側機器がセキュリティ機能を無効にしている場合は、手順9の「セキュリティの種類」を「認証なし(オープンシステム)」にしてください。その場合、セキュリティキーまたはパスフレーズ(暗号キーやWEPキーとも呼ばれます)を入力する必要はありません。

接続され、デスクトップ画面右下の通知領域にが表示されます。
「ネットワークの場所の設定」の画面が表示された場合は、画面の説明を読んで設定してください。

画面右下に、が表示されている場合は、セキュリティキーまたはパスフレーズ(暗号キーやWEPキーとも呼ばれます)が正しいか確認してください。

設定が完了したら

ワイヤレスLANルータ、ルータタイプのモデム、ルータ(有線)などを使用している場合は、接続情報を設定、登録してください。詳しくは、機器に添付されている説明書、プロバイダから入手した説明書、メーカやプロバイダのホームページなどをご覧ください。

すべての設定が終わったら、「インターネットに接続する」(99ページ)へ進み、インターネットへの接続を試してください。

接続情報を設定、登録しないと、このパソコンでの設定が終わってもインターネットに接続できません。

ブロードバンド接続の設定

ブロードバンドの通信回線が開通したら、パソコンを通信回線に接続して、設定をおこないます。

お使いの機器やプロバイダにより設定は大きく異なります。プロバイダから入手した説明書や、プロバイダのホームページなどで設定を確認してください。

必要なもの

回線事業者やプロバイダから入手した資料

プロバイダの会員証など、ユーザー名やパスワードがわかる資料を用意してください。また、回線事業者から入手した接続設定用マニュアルやCD-ROMなどがある場合、そのマニュアルやCD-ROMにしたがって設定をおこなってください。

LANケーブル

回線終端装置などに添付されていなければ、LAN(ラン)ケーブルをお買い求めください。LANケーブルには「ストレートケーブル」と「クロスケーブル」の2種類があります。パソコンと回線終端装置などのインターネット接続機器をつなぐときは、ストレートケーブルを使用してください。

インターネット接続機器

ブロードバンド回線の種類によって次のような機器が必要です。詳しくは、入会申し込みの時点でプロバイダにご確認ください。

・ FTTH：回線終端装置(回線工事で設置)

・ ADSL：ADSLモデム

・ CATV：ケーブルモデム(CATV開通工事で設置)

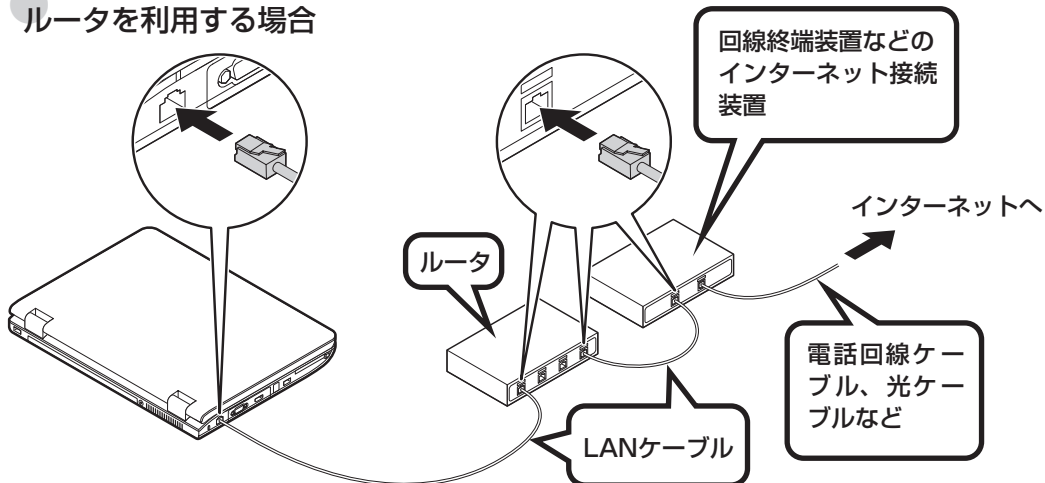
ルータを使う場合

ルータを使う場合は、さらに次の機器や資料が必要になります。

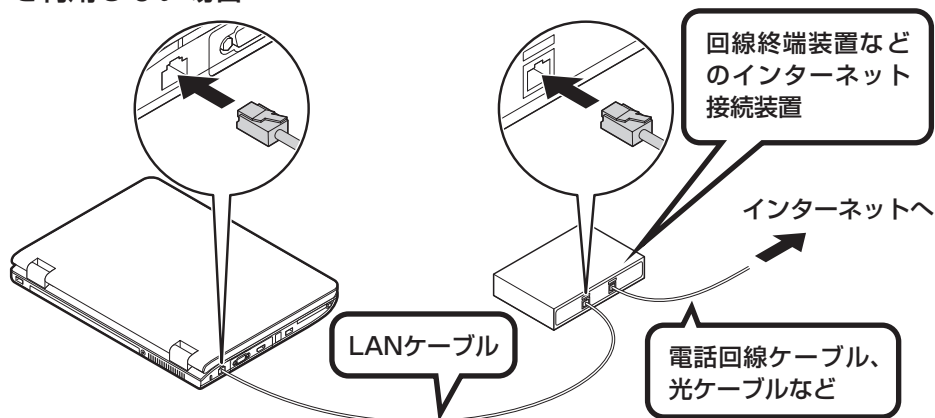
・ ルータ

・ ルータに添付されているマニュアル

図のように接続する

ルータを利用する場合

- ルータタイプのADSLモデムは、パソコンに直接接続します。
- ケーブルは、人の通る場所を避けて配線してください。

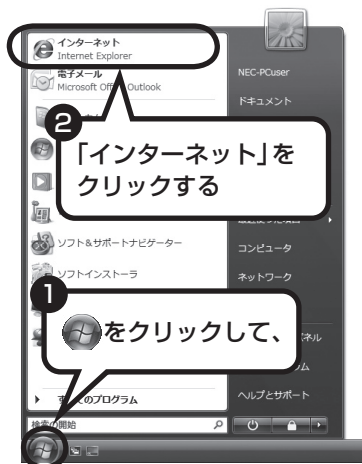
ルータとパソコンを接続したら、ユーザー名やパスワードなどの接続情報をルータに設定、登録してください。詳しくは、ルータのマニュアルやプロバイダから入手した説明書、資料をご覧ください。

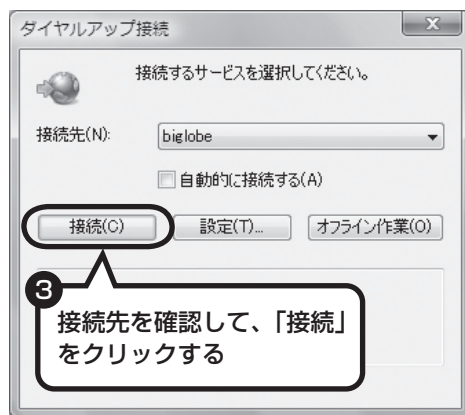
ルータを利用しない場合

ケーブルは、人の通る場所を避けて配線してください。

ケーブルを接続したら、インターネットへの接続設定をおこないます。設定方法について詳しくは、ご加入のプロバイダや回線事業者から入手した資料をご覧ください。

インターネットに接続する

インターネットに接続できるか
確認しましょう。

1 Internet Explorerを起動する

ルータを利用しない場合

次の接続用画面が表示されます。
「接続」をクリックすると、Internet Explorer(インターネットエクスプローラ)が起動して、プロバイダのホームページなどが表示されます(設定によっては、パスワードを入力する画面が表示されます)。

ルータ、ルータタイプのADSLモデム、ワイヤレスLANルータを利用している場合

ルータ、ルータタイプのADSLモデム、ワイヤレスLANルータを利用している場合、接続用の画面は表示されず、直ちにInternet Explorerが起動して、プロバイダのホームページなどが表示されます。これは、パソコンの電源を入れると自動的にインターネットに接続されるためです。

インターネットから切断するときは、次の方法で操作します。

・ルータを利用していない場合
画面右下の通知領域の を右クリックして表示されるメニューから、「切断」を選び、切断する接続をクリックします。

・ルータを利用している場合
利用しているネットワークを無効にします。詳しくは、「ソフト&サポートナビゲーター」-「パソコンの各機能」-「LAN」-「ネットワークの設定」-「ネットワークから切断する」をご覧ください。

・ワイヤレスLANを利用している場合
利用しているワイヤレスLANから切断します。詳しくは、「ソフト&サポートナビゲーター」-「パソコンの各機能」-「ワイヤレスLAN(無線LAN)」-「ワイヤレスLAN機能のオン/オフのしかた」をご覧ください。

これで、インターネット接続の設定は終わりです。
続けて次ページの「メールソフトを設定する」へ進んでください。

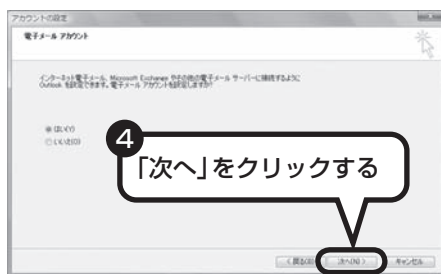
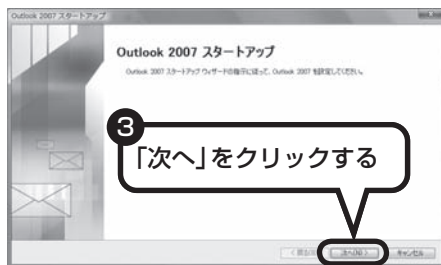
ワイヤレスLANの通信がうまくいかない場合

ワイヤレスLANを利用中に通信がうまくいかなくなった場合は、ワイヤレススイッチがオンになっているか、または画面右下の通知領域のアイコンが表示されているかを確認してください。ワイヤレススイッチがオンになっていて、画面右下の通知領域のアイコンが表示されていない場合は、パソコンを再起動してください。

メールソフトを設定する

このパソコンには、メールを利用したり、スケジュールを管理したりするために、Outlook(アウトルック)というソフトが用意されています。

・FTTHやADSLで接続する場合、使用する機器やプロバイダによっては、ここでの説明とは異なる設定が必要になることがあります。プロバイダの資料やホームページに設定例などが記載されている場合は、そちらもあわせてご覧になり、設定することをおすすめします。
・Outlookが入っていないモデルをお使いのかたは、「Windows® メール」というソフトでメールを利用できます。Windows® メールの設定については、「ソフト&サポートナビゲーター」-「ソフトを探す」-「50音/英数字から選ぶ」-「Windows メール」をご覧ください。
・Outlookのセットアップ、インストールについてのお問い合わせ先(Microsoft)
月～金曜日　午前9時30分～午前12時、午後1時～午後7時
土曜日・日曜日　午前10時～午後5時/指定休業日、年末年始、祝祭日除く
東京:03-5354-4500(4件まで無料、5件目からは有料)/大阪:06-6347-4400(4件まで無料、5件目からは有料)
インターネットでのお問い合わせは
URL:http://support.microsoft.com/select/?target=assistance
その他、基本操作などについてのお問い合わせ先は『パソコンのトラブルを解決する本』の「ソフトのサポート窓口一覧」をご覧ください。

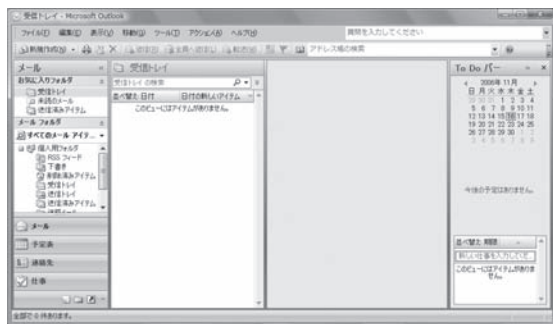
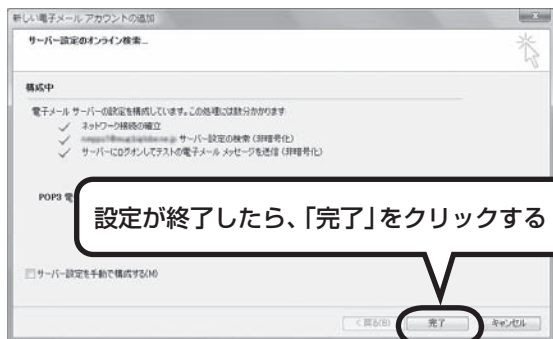
1 Outlookを起動する

この方法で起動できないときは、「ソフト&サポートナビゲーター」-「ソフトを探す」-「50音/英数字から選ぶ」-「Outlook 2007」の「ソフトを起動」をクリックしてください。

2 サーバーのアカウントを自動で設定する

サーバーの自動アカウント設定に失敗したときは、設定内容を確認し、「次へ」をクリックしてください。それでも設定できない場合は、「サーバーの自動アカウント設定に失敗したら」(104ページ)をご覧ください。

■ 次の項目に入力してください。

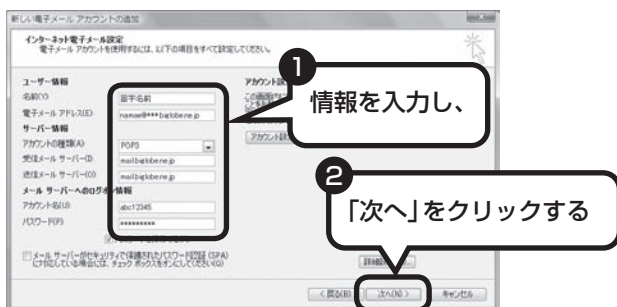
名前	自分の名前を入力します。日本語、アルファベット、どちらで入力してもかまいません。
電子メールアドレス	ご利用の電子メールアドレスを入力します。
パスワード	プロバイダの会員証などを見て、メールパスワードとして記載されているものを入力します。「メールサーバーパスワード」などと呼ばれることもあります。
パスワードの確認入力	確認のため、上記パスワードを再度入力します。

3 メールの設定を完了する

・セットアップが完了すると、「ユーザー名の指定」画面、「マイクロソフトソフトウェアライセンス条項」に同意する画面、プライバシーオプションを設定する画面やMicrosoft Updateを利用するための登録画面などが表示されます。説明をよく読んで、画面の指示にしたがって進めてください。Microsoft Updateについて詳しくは、「ソフト&サポートナビゲーター」-「使う」-「Windowsの更新」-「Microsoft UpdateでWindowsとOfficeを一緒に更新する」をご覧ください。

・手順の途中で「ユーザー アカウント制御」画面が表示されたら、画面の表示を見ながら操作してください。

これで、メールが使えるようになりました。
メールを送ったり受け取ったりする方法については、
『活用ブック』の「パソコン初心者道場」-「メール編」をご覧ください。

サーバーの自動アカウント設定に失敗したら

「メールソフトを設定する」の手順2(102ページ)で設定に失敗した場合は、サーバーの設定を手動でおこなうことができます。
手動でおこなうには、失敗した画面で「サーバー設定を手動で構成する」をクリックして☑にし、「次へ」をクリックします。その後、「電子メールサービスの選択」の画面で「インターネット電子メール」を◉にして「次へ」をクリックします。
次の画面が表示されたら、それぞれの情報を入力し、画面の説明を読んで設定してください。

■ この画面では、次の項目に入力してください。

名前	自分の名前を入力します。日本語、アルファベット、どちらで入力してもかまいません。
電子メールアドレス	ご利用の電子メールアドレスを入力します。
アカウントの種類	ほとんどのプロバイダは「POP3」という種類のサーバーを使っています。プロバイダが「IMAP」という種類のサーバーを使っている場合は「IMAP」を選びます。詳しくはプロバイダに確認してください。
受信メールサーバー	プロバイダの会員証などを見て、アドレスを入力します。プロバイダによっては、「メールサーバー」、「POPサーバー」、「メール受信サーバー」などと呼ばれることもあります。
送信メールサーバー	プロバイダの会員証などを見て、アドレスを入力します。プロバイダによっては、受信メールサーバーと送信メールサーバーのアドレスは同じことがあります。「メールサーバー」、「SMTPサーバー」、「メール送信サーバー」などと呼ばれることもあります。
アカウント名	プロバイダの会員証などを見て、アカウント名として記載されているものを入力します。「メールアカウント」、「メールサーバーログイン名」、「POPアカウント名」、「メールログイン名」などと呼ばれることもあります。
パスワード	プロバイダの会員証などを見て、メールパスワードとして記載されているものを入力します。「メールサーバーパスワード」などと呼ばれることもあります。

パソコンを安全に使うための設定をおこなう

ポイント

- セキュリティ対策をしっかりと
- ウイルス対策ソフトを最新の状態に

パソコンやインターネットを安全に使うために

パソコンの誤動作や内部のデータ破壊を引き起こす、ウイルスなどの不正プログラムの被害が多くなっています。電子メールのやりとり、インターネット経由のソフト入手、他人から受け取ったディスクの使用などが原因になって、知らないうちに不正プログラムがパソコンに侵入することもあります。これらの被害を防ぐには、定期的な対策が必要です。
主なセキュリティ対策には、次のようなものがあります。

Windows Update

このパソコンのWindowsの状態などをチェックして、更新プログラムを無料配布するMicrosoftのホームページです。インターネット経由でWindowsを最新の状態にすることができます。
更新プログラムには、セキュリティの強化や不具合(セキュリティホールと呼ばれるWindowsのセキュリティ上の弱点)を修正するためのプログラムが含まれていることがあるので、定期的にチェックすることをおすすめします。

Windows Updateについて詳しくは、「ソフト&サポートナビゲーター」-「使う」-「Windowsの更新」をご覧ください。

ウイルス対策ソフト

このパソコンには「ウイルスバスター」というウイルス対策ソフトがインストールされています。ウイルスは頻繁に新種が発生するので、常に最新の状態にしておいてください。ウイルスバスターについては、次ページからの「パソコンをウイルスから守るために」で説明しています。
また、あわせて「ソフト&サポートナビゲーター」-「使う」-「ウイルス感染の防止」もご覧ください。

ファイアウォール機能

外部(インターネット)からの不正侵入を防ぎ、情報の流出を防ぐ機能のことです。
このパソコンには、「Windowsファイアウォール」と「ウイルスバスター」の2つのファイアウォール機能があります(同時に複数を使用しないでください)。

ファイアウォール機能について詳しくは、「ソフト&サポートナビゲーター」-「使う」-「不正アクセスの防止」をご覧ください。

『活用ブック』の「しっかりセキュリティであんしんインターネット」では、上記のほかに、個人情報を守るときに注意すべきポイントや、無線LANを使う際に注意すべきセキュリティのポイントについても説明しています。

パソコンをウイルスから守るために(1)

ウイルスとは、パソコンに誤動作やデータの破壊などのトラブルを引き起こす不正プログラムのことです。インターネットやメールからパソコンに入り込んだり、CDやDVD、各種メモリーカードなどのメディアから感染する場合もあります。
ウイルスによる被害は、自分のパソコンのデータが破壊されたり個人情報が流出したりするだけでなく、ほかの人へ大量の電子メールが自動的に送信されることもあります。自覚がないまま加害者になり得る可能性もあるのです。

「ウイルスバスター」を最新の状態に更新する

このパソコンには、ウイルス対策ソフト「ウイルスバスター」が入っていて、パソコンをウイルスから守ることができます。しかし、ウイルスは日々新しいものが出てくるので、新しいウイルスに対応するために、ソフトを常に最新の状態に更新(「アップデート」といいます)してウイルスチェックをしなければなりません。

このパソコンの「ウイルスバスター」では、ユーザ登録後はじめてアップデート機能を利用した日から90日間、無料でアップデートをおこなうことができます。90日間の無料期間を過ぎると、すべての機能が利用できなくなり、セキュリティ対策をおこなうことができません。無料期間終了後も継続してご利用いただくには、ダウンロード販売またはパッケージなどで製品版を購入し、ライセンスキーを入力していただく必要があります。
有料のサービスについて詳しくは、無料サービスの開始時に登録したメールアドレス宛に配信されるメールなどの案内をご確認ください。

アップデートするには、インターネット接続の設定が必要です。インターネット接続の設定方法について、これまでにパソコンを持っていなかったかたは第5章、パソコンを買い替えてインターネット接続をやりなおすかたは第6章をご覧ください。

アップデートのしかた

パソコンをご購入後、アップデートする場合は、まずインターネットに接続をして、90日間無償サポートを受けるため、ユーザ登録をおこなう必要があります。

パソコンをご購入後、はじめてインターネットに接続してから3日間はユーザ登録をしていなくても自動的にアップデートがおこなわれます。

インターネット接続の設定が終わった後、画面右下の を右クリックして、「メイン画面を起動」をクリックし、表示された画面で「オンラインユーザ登録/契約更新」欄の「アップデート機能を利用できません」をクリックします。
ユーザ登録の画面が表示されたら、記載内容をよく読み、必要事項を記入してから「ウイルスバスターを有効にする」をクリックしてください。

ユーザ登録の画面は、デスクトップの (ウイルスバスターの登録)をダブルクリックしても表示されます。

登録のしかたや、アップデートの方法などの詳しい手順については、「ソフト&サポートナビゲーター」-「使う」-「ウイルス感染の防止」-「ウイルス対策ソフトを使い始める」をご覧ください。

パソコンをウイルスから守るために(2)

ウイルスの侵入を常にチェックする

「ウイルスバスター」には、ウイルスの侵入を常に監視する機能があります。その機能を「ウイルス/スパイウェアの監視」といいます。「ウイルス/スパイウェアの監視」を有効にしている間は、ウイルスの侵入が自動的に監視されます。

ご購入時の状態では、ウイルスの侵入を常に監視する(「ウイルス/スパイウェアの監視」が有効)設定になっています。通常はこの状態でお使いください。画面右下のを右クリックして表示されるリストの「ウイルス/スパイウェアの監視」の左側に✓が付いていないときは「ウイルス/スパイウェアの監視」は無効です。✓が付いているときは有効です。

「ウイルス/スパイウェアの監視」を有効にしている間は、ウイルスの検査が頻繁におこなわれるため、ほかのソフトの動作が遅くなることがあります。ウイルスに対して安全な状況であるとわかっている場合、「ウイルス/スパイウェアの監視」を一時的に無効にすることができます。

また、パソコンや周辺機器の設定、インターネット接続の設定をするときなどに、ウイルスチェックを停止するよう指示が表示される場合があります。その場合も、「ウイルス/スパイウェアの監視」を一時的に無効に設定してください。

「ウイルス/スパイウェアの監視」の有効/無効設定について詳しくは、「ソフト&サポートナビゲーター」-「使う」-「ウイルス感染の防止」-「ウイルスを見張る」をご覧ください。

その他のウイルス対策ソフトを使う

「ウイルスバスター」以外のウイルス対策ソフトを使うこともできます。

「ウイルスバスター」以外のウイルス対策ソフトを使用する場合は、必ず「ウイルスバスター」を削除(アンインストール)してください。削除方法については、「ソフト&サポートナビゲーター」-「ソフトを探す」-「50音/英数字から選ぶ」-「ウイルスバスター」の「追加方法と削除方法」をご覧ください。

お子様を有害ホームページから守るために

インターネットにアクセスすると、さまざまなホームページを閲覧できます。しかし、有害な情報や違法情報を含むホームページもあります。
このようなホームページへのアクセスを自動的に遮断してくれるフィルタリング機能を使うことをおすすめします。
フィルタリングには、パソコンにフィルタリングソフトを追加して利用する方法と、インターネットプロバイダのフィルタリングサービスを利用する方法があります。お使いのプロバイダがフィルタリングサービスをおこなっているかは、各プロバイダにお問い合わせください。
利用者それぞれに適した設定ができるため、お子様も安心してインターネットを楽しめるようになります。

詳しくは、「ソフト＆サポートナビゲーター」-「使う」-「安全に使うためのポイント」-「お子様を有害ホームページから守るために」をご覧ください。
BIGLOBEのBIGLOBE光 with フレッツ「フレッツ光」コース、「BIGLOBE光 ひかりone」コース、「ADSL」コースでは、「有害サイトブロック」「メールウイルスチェック」「迷惑メールチェック」の3大セキュリティ機能が利用できます。※
※料金は接続サービス料金に含まれます。

インターネット・メールの楽しみ方を知るには

『活用ブック』では、セキュリティ対策のほかに、インターネットやメールでどんな楽しみ方ができるのか紹介しています。
お気軽に読み進めてください。

外出先でブロードバンドを楽しむには

外出先でブロードバンドを楽しむためのサービスについて紹介しています。

接続サービスについて

公衆ワイヤレスLANサービス

公衆ワイヤレスLANサービスを利用すると、外出先で手軽にインターネットに接続できます。
ファストフード店や駅、空港などに設置されている「無線LANスポット」を利用すると、手軽にワイヤレスLANを使ってインターネットに接続できます。
有料であらかじめ会員登録が必要なものや、フリースポットといって無料で接続できるものもあります。
また、プロバイダによっては、有料のワイヤレスLANサービスを用意している場合もあります。お使いのプロバイダがサービスをおこなっているか、ホームページなどで確認してみましょう。

BIGLOBEの高速モバイル通信

「BIGLOBE高速モバイル」とは、イー･モバイルの通信技術HSDPAを使って、最大通信速度下り最大7.2Mbps、上り最大384Kbpsを実現した高速モバイル通信サービスです。※

※お客様のご利用機器、電波の状態、回線の混雑状況などにより、通信速度が低下します。

「ホットスポット」アクセスを利用する

「ホットスポット」アクセス(有料)は、BIGLOBEの公衆ワイヤレスLANサービスです。ご利用になる場合は、BIGLOBEに入会し、ユーザIDとパスワードを入手してください。

- 設定や注意事項について詳しくは、次のホームページ（BIGLOBEのホームページ）をご覧ください。
  http://mobile.biglobe.ne.jp/wifi/index3.html
- このサービスをご利用いただいた場合、BIGLOBEの月額基本料金とは別に「ホットスポット」アクセス サービス料金がかかります。詳しくは、BIGLOBEのホームページをご覧ください。
- 一部のサービスのユーザID、パスワードでは「ホットスポット」アクセスをご利用いただけない場合があります。詳しくは､BIGLOBEのホームページをご覧ください。
- ログアウトを完了しないで、「無線LANスポット」を離れたりパソコンの電源を切ると、数分後に自動的にログアウトしますが、その間にも「ホットスポット」アクセス サービス料金がかかります。

BIGLOBE高速モバイルを利用する

「BIGLOBE高速モバイル(有料)」は、BIGLOBEの高速モバイル通信サービスです。
ご利用になる場合は、BIGLOBE高速モバイルに申し込み、ユーザIDとパスワード、専用データ端末(レンタル)を入手してください。

- すでにBIGLOBE会員の方は、お持ちのユーザIDとパスワードで申し込みできます。詳しくはBIGLOBEのホームページをご覧ください。

  http://join.biglobe.ne.jp/mobile/hsdpa/

- 専用データ端末（レンタル）の使い方について詳しくは、専用データ端末（レンタル）のマニュアルをご覧ください。
- 設定や注意事項、利用可能なサービスエリアについて詳しくは、BIGLOBEのホームページをご覧ください。
- このサービスをご利用いただいた場合、BIGLOBE高速モバイルのサービス料金がかかります。詳しくは、BIGLOBEのホームページをご覧ください。

第6章

パソコンを買い替えたかたへ

すでにパソコンを使っていたかたが、このパソコンでインターネットを利用できるようにしたり、前のパソコンからデータを移したり、前のパソコンで使っていたデータや周辺機器を使えるようにする方法について説明します。

インターネットを使えるようにする

これまでのパソコンで、インターネットを利用していたかたは、次の手順でインターネットの接続と設定をおこなってください。

今までダイヤルアップ接続を利用されていたかたは

このパソコンでは継続してダイヤルアップ接続を利用することはできません。引き続きインターネットを利用する場合は、ブロードバンド接続などにコースを変更する必要があります。コースの変更について詳しくは、各プロバイダにお問い合わせください。

CATVのかたは、ケーブルテレビ局に確認を

前のパソコンでCATV接続を利用されていたかたは、ご契約のケーブルテレビ局にパソコンを買い替えたときの設定方法についてお問い合わせください。

ブロードバンドの接続、設定をおこなう

ブロードバンド接続でインターネットを使えるようにするには、パソコンと通信回線の接続、インターネットの設定、メールソフトの設定が必要です。ご利用の機器に合わせて、第5章の該当するページをご覧ください。

ワイヤレスLANで接続する

「ワイヤレスLANを利用したブロードバンド接続の設定」(84ページ)をご覧ください。

ブロードバンドの接続設定をおこなう

「ブロードバンド接続の設定」(97ページ) をご覧ください。
設定については、回線事業者やプロバイダから入手した資料にしたがっておこなってください。

インターネットに接続する

「インターネットに接続する」(99ページ) をご覧ください。
設定が終わったら、インターネットへの接続を試してください。

メールソフトを設定する

「メールソフトを設定する」(101ページ) をご覧ください。
インターネットに接続してホームページを見ることができたら、必ず、メールソフトの設定をおこなってください。

上記の設定を済ませてから、次ページの「古いパソコンからデータを移す」へ進み、データや周辺機器、ソフトの移行作業をおこなってください。

古いパソコンからデータを移す

「Windows転送ツール」を利用すると、これまでお使いのパソコンからデータを移行することができます。

「Windows転送ツール」で移行できるデータ

移行できるのは、主に次のデータです。
・フォルダとファイル(音楽、画像、ビデオなど)
・電子メール設定、アドレス帳、メッセージなど
・プログラム設定
・ユーザーアカウントおよび設定
・インターネット設定、お気に入り

移行される内容について詳しくは、「ヘルプとサポート」で、「Windows 転送ツール」を検索して「ファイルと設定を転送する:よく寄せられる質問」をご覧ください。

「Windows転送ツール」の利用条件

使用していたOS(オーエス)が次のいずれかであること

・Windows Vista
・Windows XP
・Windows 2000※

これまでにお使いのパソコンのOSが上記以外の場合、「Windows転送ツール」は利用できません。
※Windows 2000をご利用の場合、プログラムの設定とシステムの設定は移行できません。

1 「Windows転送ツール」を使う準備をする

ご使用の状況によって、次のものが必要になる場合があります。

・書き込み可能なCDまたはDVD

・USBフラッシュメモリまたは外付けハードディスク

・LANケーブル

・転送ツールケーブル

・使用可能なディスクについて詳しくは、「ヘルプとサポート」をご覧ください。

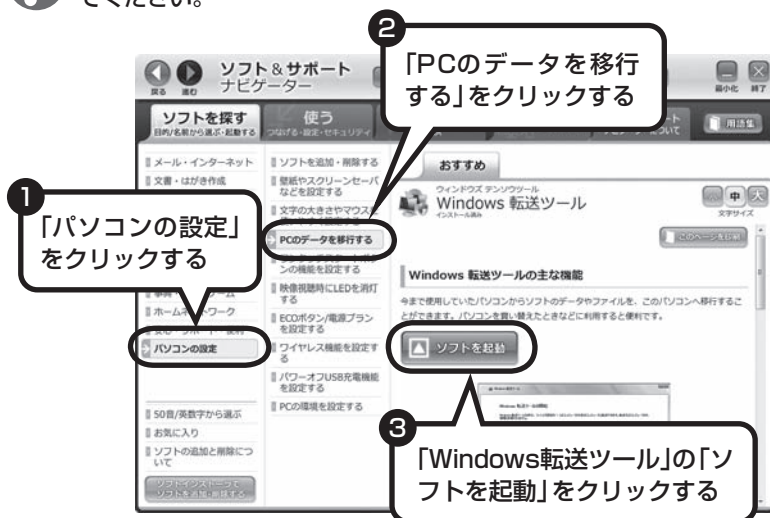
・HUB(ハブ)を使って接続するときは、2台のパソコンをそれぞれストレートケーブルでハブに接続してください(こちらの接続方法をおすすめします)。

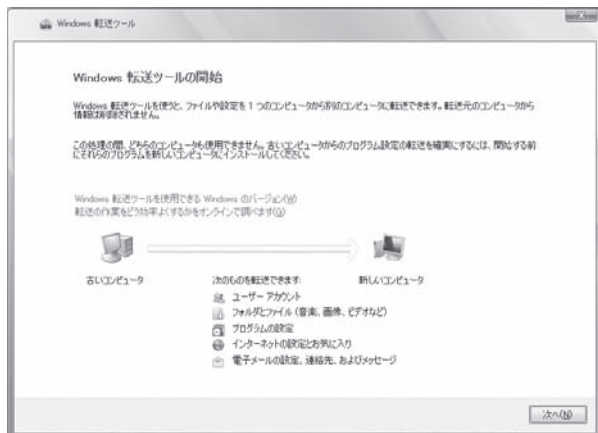
・2台のパソコンをLANケーブルで直接接続するときは、クロスケーブルをお使いください。

・複数のユーザーでパソコンを使用している場合は、管理者権限のあるユーザーでログオンしてください。ほかのユーザーはログオフしてください。

2 「Windows転送ツール」を起動する

デスクトップ画面の (ソフト＆サポートナビゲーター)をダブルクリックし、「ソフトを探す」をクリックします。

手順の途中で「ユーザー アカウント制御」画面が表示されたら、画面の表示を見ながら操作してください。

3 画面の表示にしたがい操作する

画面の説明を読んで、「次へ」をクリックします。

その後は、画面に表示される説明を読みながら、設定を進めてください。

「Windows転送ツール」について詳しくは

デスクトップの(データ引越し方法のご紹介)をダブルクリックして表示される「パソコンデータの引越し方法のご紹介」をご覧ください。

周辺機器を使えるようにする

使用していたパソコンに接続して利用していたプリンタなどの周辺機器は、そのままこのパソコンに接続できるとはかぎりません。

周辺機器を移行する前に確認が必要

Windows Vistaに対応していないソフトやドライバなどをインストールすると、不具合が起こる場合があります。十分な確認をおこなってください。

まずは、周辺機器のマニュアルでチェック

周辺機器に添付のマニュアルで、その機器がWindows Vistaに対応しているか確認してください。対応している場合、このパソコンとの接続方法や設定の手順についての説明をご覧ください。

メーカのホームページもチェック

周辺機器のマニュアルだけでなく、メーカのホームページで、ご利用の製品についてのサポート情報も必ず確認してください。マニュアルよりも新しい情報がホームページで確認できることがあります。Windows Vistaに対応した最新のドライバ(周辺機器を利用できるようにするためのソフト)がダウンロードできるときは、最新のドライバをお使いください。

周辺機器の一般的な移行手順

使用していたパソコンから周辺機器を取り外す

取り外しの手順については、周辺機器に添付のマニュアルや、使用していたパソコンに添付のマニュアルをご覧ください。

このパソコンに周辺機器を取り付け・接続する

USB接続する周辺機器などの場合、このパソコンに取り付け・接続する前に、ドライバなどをインストールしておく必要があることもあります。マニュアルなどで確認してください。

このパソコンで使用できるように設定する

周辺機器によっては、取り付け・接続するだけで使えるようになるものもあります。パソコンでの設定方法についても、マニュアルなどで確認してください。

周辺機器の動作確認をおこなう

周辺機器を移行したら、うまく動作するか確認してください。うまく動作しないときは、ドライバや添付ソフトなどを確認して、周辺機器のメーカにお問い合わせください。

ソフトを移す

使用していたパソコンで利用していたソフトを、このパソコンで利用するときに注意することを説明します。

ソフトを移行する前に

Windows Vistaに対応していないソフトやドライバなどをインストールすると、不具合が起こる場合があります。十分な確認をおこなってください。

このパソコンに最新版が入っていないかチェック

このパソコンには、主要なソフトが入っています。これまで利用していたソフトの最新版や、同じ用途のソフトが見つかるかもしれません。

ソフトのマニュアルをチェック

ソフトに添付のマニュアルで、Windows Vistaに対応しているか確認してください。対応していない場合、このパソコンでは利用できません。

開発元のホームページもチェック

ソフトの開発元のホームページで、ご利用の製品についてのサポート情報も必ず確認してください。Windows Vistaに対応するための方法など、マニュアルよりも新しい情報がホームページで確認できることがあります。

ソフトの一般的な移行手順

必要な情報を確認する

マニュアルなどで、インストールに必要な情報を確認します。ユーザー名やライセンスキーなどが必要な場合は、それらの情報をメモしておきましょう。ソフトによっては設定を移行する機能を持つものがあります。その場合、マニュアルやホームページなどで移行方法を調べてください。

ライセンスとは

ソフトのメーカが購入者に対して許諾する、使用権を「ライセンス」と呼びます。ライセンスの条件にしたがわずにソフトを使用した場合は不正使用になり、著作権を侵害してしまうこともあります。ライセンスの内容を確認して、不正使用にならないようにアンインストールやインストールをおこなってください。

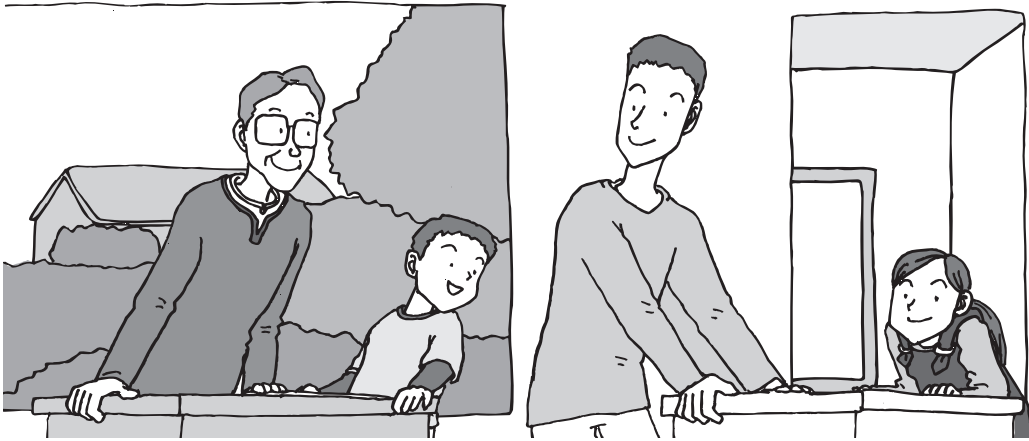
使用していたパソコンからソフトをアンインストールする

アンインストールの方法については、ソフトに添付のマニュアルをご覧ください。

このパソコンにインストールする・必要な設定をおこなう

マニュアルなどをご覧になり、このパソコンにインストールしてください。必要に応じて、インストール後の設定作業をおこなってください。

第7章

前に使っていたパソコンと一緒に使いたいかたへ

複数のパソコンをつなぐ(ホームネットワークを作る)とどんなことができるのかを紹介しています。
また、Windows Media Centerのホームネットワーク機能を使って、映像や音楽を楽しむ方法についても説明しています。

ホームネットワークでできること

複数のパソコンをつなぐことで、もっと便利にパソコンライフが広がります。

複数のパソコンから同時にインターネットを利用できる

FTTHなどでブロードバンド接続を利用している場合、複数のパソコンから同時にインターネットを楽しむことができるようになります。複数のパソコンでインターネットを利用しても、電話機はこれまでどおり使えます。

プリンタを共有して、複数のパソコンから印刷する

ホームネットワークがあれば、どのパソコンからも1台のプリンタで印刷できるようになります。そのたびにプリンタをつなぎ替えたり、プリンタが接続されたパソコンに移動したりする必要がありません。

パソコン同士で簡単にデータを受け渡しできる

デジタルカメラの画像やパソコンで作成した文書などを、家庭内のパソコン同士で受け渡せるようになります。フロッピーディスクやメモリーカードなどを使う必要はありません。ファイルサイズの大きなデータでも、手軽にやりとりできます。

ほかのパソコンの共有フォルダにデータをバックアップ

ホームネットワークがあれば、「バックアップ･ユーティリティ」というソフトを使ってこのパソコンのデータをネットワーク上にあるほかのパソコンの共有フォルダにバックアップを取ることができます。大切なデータを間違って削除してしまったときなどに、ほかのパソコンにバックアップを取っておいたデータを使ってもとに戻すことができます。

1日1回、週に1回などバックアップを取るスケジュールを設定できるので、定期的にバックアップを取ることができます。

DLNAに対応した、ほかの機器の映像や音楽を楽しむ

パソコンに保存された音楽を書斎のオーディオで聴いたり、リビングのハードディスクレコーダーに録画されたテレビ番組をパソコンで楽しんだり。ホームネットワークを使えば、こんなふうに音楽や動画をもっと楽しむことができます。

この後のページで、DLNAを使ったホームネットワークについて説明しています。

DLNAとは

Digital Living Network Allianceの略称です。

ホームネットワークを使ってパソコンやAV機器などをつなぎ、コンテンツを相互に活用するための仕様を決める団体、そしてその仕様そのものの名前です。

DLNAに対応した製品同士は、ネットワークを通じて音楽・画像・動画といったコンテンツをやりとりすることができます。DLNAへの対応については、各製品のマニュアルでご確認ください。

NEC製パソコン(VALUESTAR、LaVie)では、2007年1月以降に発表された製品にインストールされている「DiXiM Media Client for Media Center」および、2006年4月発表の製品から2006年8月発表の製品にインストールされている「MediaGarage」がDLNAに準拠しています。また、それ以前に発売された製品でも、2005年9月以降に発表された製品であれば、http://121ware.com/から「MediaGarage」のアップデートモジュールを入手し、適用すればDLNAに対応します。

以降、このマニュアルでは、DLNAに対応したパソコンやAV機器を「DLNA製品」と表記します。

ホームネットワークも、LANのひとつ

会社や学校で、複数のパソコンをつないでいる環境があるかたは、「LAN(ラン)」という言葉を耳にしたことがあるかもしれません。「LAN」とは「ローカル・エリア・ネットワーク」の略で、同じ建物に置かれたパソコンやプリンタなどの周辺機器をつないで情報をやりとりできるようにしたものです。ホームネットワークも、LANのひとつです。

ホームネットワークを構成するのに必要な機器

3台以上のパソコンをつなぐには、ルータまたはHUB(ハブ)という中継機器が必要になります。2股や3股のLANケーブルを使うのではありません。ホームネットワークとインターネットとの中継に利用する場合にはルータを使用するとよいでしょう。そのほか、接続できる台数によっても種類があります。目的に合わせて別途ご購入ください。

ホームネットワークの設定をするには

設定方法や必要な機器は、お使いのプロバイダやサービスにより異なります。
詳しくはプロバイダの説明書やルータの説明書をご覧ください。

ワイヤレスLANのセキュリティについて

ワイヤレスLANを使ってホームネットワークを構成することもできます。ワイヤレスLANは便利ですが、セキュリティ設定をしなければ外部のネットワークから不正にアクセスされたり、ウイルスなどに侵入されたりする危険があります。トラブルの防止のためにもセキュリティ対策をしっかりおこなってください。
使用できるワイヤレスLANのセキュリティと設定方法は、お使いのワイヤレスLANアクセスポイントまたはワイヤレスLANルータによって異なります。詳しくは、ワイヤレスLANアクセスポイントまたはワイヤレスLANルータに添付のマニュアルをご覧ください。

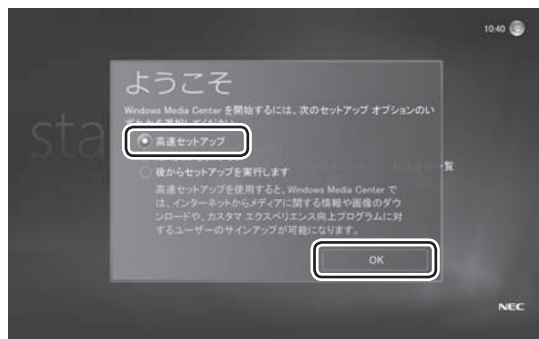
ホームネットワークで映像や音楽を楽しむ

Windows Media Centerのホームネットワーク機能でできること

Windows Media Centerのホームネットワーク機能は、DLNAに対応しています。ホームネットワークに、DLNAに対応したほかのパソコン、オーディオ、ハードディスクレコーダーなどを接続すれば、これらの機器に保存されている音楽・画像・動画などのコンテンツを、このパソコンで楽しむことができます。逆に、このパソコンに保存されたコンテンツを、それらの機器で視聴することもできます。
また、AVCHD形式のビデオ映像が編集可能な「DVD MovieWriter® for NEC」がインストールされているパソコン(インテル® Celeron® プロセッサーのCPUを搭載したモデルを除く)では、AVCHD形式で撮影されたビデオカメラの映像も楽しむことができます。

Windows Media Centerをセットアップしていないときは

Windows Media Centerをはじめて使うときは、セットアップが必要です。
セットアップとは、お使いになっているパソコンやインターネットの環境などに合わせてWindows Media Centerを設定することです。

1. 「スタート」-「すべてのプログラム」-「Windows Media Center」をクリックする
2. 「高速セットアップ」が選ばれていることを確認し、「OK」をクリックする

DLNAの設定をする

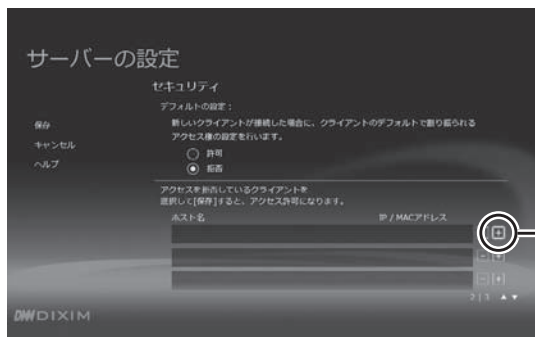
パソコンを含むネットワーク上の機器のデータは、基本的にほかの機器からは利用できないよう保護されています。DLNA製品を活用するためには、それぞれの機器のコンテンツがほかの機器から利用できるように設定する必要があります。ここでは、このパソコンのコンテンツをほかのDLNA製品から利用できるようにする方法について説明します。

- あらかじめホームネットワークを作っておいてください。
- ホームネットワークを作るときは、「スタート」-「ネットワーク」-「ネットワークと共有センター」-「カスタマイズ」をクリックして表示される画面でネットワークの場所の設定を「プライベート」にしてください。手順の途中で「ユーザー アカウント制御」が表示されたら、画面の表示を見ながら操作してください。

1 「スタート」-「すべてのプログラム」-「Windows Media Center」をクリックして起動し、「ホームネットワーク」の「音楽」をクリックする

2 画面を右クリックして表示される「設定」をクリックする

3 「サーバーの設定」-「セキュリティ」をクリックする

4 「アクセスを拒否しているクライアントを選択して[保存]すると、アクセス許可になります。」の ＋ − でアクセスを許可したいクライアントを選ぶ

クリックするとホームネットワーク上のクライアントが追加されます。

＋ をクリックするとホームネットワーク上のクライアントが表示されます。公開しないクライアントは − をクリックして非表示にしてください。

前に使っていたパソコンと一緒に使いたいかたへ

- 一度許可したクライアントは表示されません。
- 新たに設定できるのは一度に5台までです。
- クライアントによっては「ホスト名」が表示されないことがあります。

5 「保存」をクリックする

これでコンテンツを公開する設定は完了です。

一度アクセス許可したパソコンをアクセス拒否にするときは、同じ画面の「アクセスを許可しているクライアントを選択して[保存]すると、アクセス拒否になります。」の ＋ をクリックして、アクセス拒否にするパソコンを選んで「保存」をクリックしてください。

「サーバーの設定」の「Server Toolを起動する」をクリックして表示される画面の「公開フォルダ」から、公開するフォルダなど、より細かな設定をおこなうこともできます。

ご購入時の状態では「パブリックのミュージック」、「パブリックのピクチャ」、「パブリックのビデオ」、「Uploaded Files」(「パブリック」フォルダ内)の4つのフォルダが公開されます。必要に応じて、ユーザーの「ミュージック」、「ピクチャ」などのフォルダを公開してください。

- ほかのDLNA機器の設定については、それぞれの製品のマニュアルをご覧ください。
- 公開されたコンテンツは、このパソコンから視聴できるようになります。
- 「DVD MovieWriter® for NEC」で作成したAVCHDの映像を、Windows Media Centerのホームネットワーク機能で楽しむには、「DVD MovieWriter® for NEC」の書き込み設定で、「AVCHD フォルダの作成」にチェックを入れ、ここで指定したフォルダを公開してください。「DVD MovieWriter® for NEC」の使い方について詳しくは、「DVD MovieWriter® for NEC」の「ユーザーガイド」をご覧ください。
- 「DVD MovieWriter® for NEC」を使って作成したメニュー画面がビデオ一覧に表示される場合がありますが、メニューを操作することはできません。

コンテンツを視聴する

ホームネットワークに公開されたコンテンツ(音楽･画像･ビデオ(動画))は、ほかのDLNA製品で視聴することができます。
ここでは、ホームネットワークに公開された曲を聴く手順を例に、このパソコンのWindows Media Centerを使ってほかのDLNA製品のコンテンツを視聴する操作について説明します。

- あらかじめ、対象となるDLNA製品へアクセスできるように設定しておいてください。
- DLNA製品の設定方法については、それぞれの製品のマニュアルをご覧ください。
- このパソコン以外のDLNA製品でコンテンツを視聴するときの操作については、それぞれの製品のマニュアルをご覧ください。

1 **「スタート」-「すべてのプログラム」-「Windows Media Center」をクリックして起動し、「ホームネットワーク」の「音楽」をクリックする**

ホームネットワークに公開された曲の一覧が表示されます。

コンテンツを公開しているにもかかわらず、目的の曲(コンテンツ)が表示されないときは、「接続した機器を選んでコンテンツを視聴する」(131ページ)をご覧ください。

2 **「アルバム」をクリックして、アルバムの一覧から再生したい曲が含まれたアルバムをクリックする**

「アルバムの詳細」が表示されます。

ここでは例として「アルバム」を選んでいますが、「アーティスト」や「ジャンル」などを選んで、その項目に分類された曲を再生することもできます。また、「検索」を選んでキーワードで曲やアルバムを検索することもできます。詳しくは「コンテンツを探す」(130ページ)をご覧ください。

3 **曲名(トラック名)をクリックする**

「曲の詳細」が表示されます。

「アルバムの詳細」で「アルバムを再生」をクリックすると、アルバム全体の再生が始まります。

4 **「曲を再生」をクリックする**

曲の再生が始まります。
再生中は、Windows Media Centerの「ミュージック」で、このパソコンに保存された曲を再生しているときと同様に、停止・スキップ(次の曲あるいは前の曲に移動)・一時停止などの操作ができます。

- コンテンツの種類や、コンテンツが保存されているDLNA製品の性能などによって、再生できなかったり、早送りや巻き戻し、スキップなどの操作ができないことがあります。
- このパソコンで視聴/配信できるコンテンツについて詳しくは、http://121ware.com/catalog/dlna/ をご覧ください。

・「ピクチャ・ビデオ」で写真を再生しながら「ホームネットワーク」の「音楽」で曲を再生したり、「ホームネットワーク」の「画像」で写真を再生しながら「ミュージック」で曲を再生することはできません。

ホームネットワークに公開された画像やビデオ(動画)を視聴するときは、手順1で「スタート」-「すべてのプログラム」-「Windows Media Center」をクリックして起動し、「ホームネットワーク」の「画像」または「ビデオ」をクリックしてください。

コンテンツを探す

キーワードを入力して、ホームネットワークに公開されたコンテンツを検索できます。
ここでは曲を探す手順を例に、コンテンツを検索する操作について説明します。

それぞれのコンテンツに登録された情報に基づいて検索されます。情報が登録されていないコンテンツは検索の対象になりません。

1 **「スタート」-「すべてのプログラム」-「Windows Media Center」をクリックして起動し、「ホームネットワーク」の「音楽」をクリックする**

2 **「検索」をクリックし、下に表示された検索文字列の入力欄をクリックする**

3 **検索用のキーワードを入力する**

最初の文字を入力すると検索が始まり、検索の結果が右側に表示されます。

曲名などコンテンツそのものの名前のほか、アルバム名やアーティスト名なども検索の対象となります。

4 **検索結果をクリックする**

「曲の詳細」や「アルバムの詳細」などが表示されます。
この後の操作については、「コンテンツを視聴する」の手順3以降(129ページ)をご覧ください。

コンテンツによっては、検索結果をクリックすると、すぐ再生が始まるものもあります。

DLNA製品によっては、キーワードによる検索をおこなうことができません。
その場合は、次の「接続した機器を選んでコンテンツを視聴する」をご覧ください。

接続した機器を選んでコンテンツを視聴する

コンテンツが保存されているDLNA製品によっては、公開されたコンテンツが「ホームネットワーク」の「音楽」、「画像」、「ビデオ」に表示されないことがあります。「コンテンツを視聴する」の操作で目的のコンテンツが見つからないときは、DLNA製品の名前を選んでコンテンツを探すことができます。

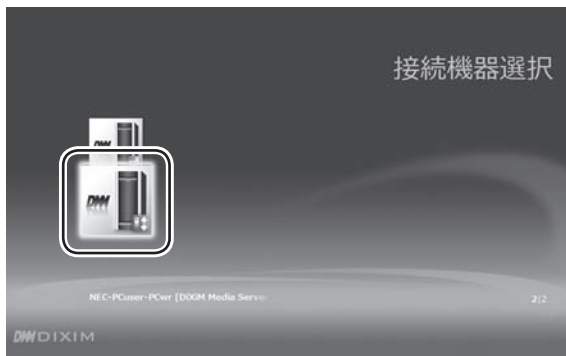
ここでは、あるDLNA製品に保存された曲を聴く手順を例に、DLNA製品を選んで目的のコンテンツを視聴する操作について説明します。

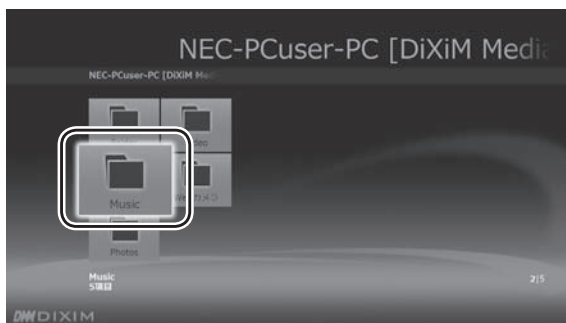
1 **「スタート」-「すべてのプログラム」-「Windows Media Center」をクリックして起動し、「ホームネットワーク」の「接続機器選択」をクリックする**

ホームネットワークにつながっているDLNA製品の一覧が表示されます。

前に使っていたパソコンと一緒に使いたいかたへ

DLNA製品が表示されないときは、「ソフト＆サポートナビゲーター」-「パソコンの各機能」-「LAN」をご覧になり、DLNA製品の接続とホームネットワークの設定を確認してください。

2 **再生したい曲が保存されているDLNA製品をクリックする**

選んだDLNA製品のフォルダ（公開されているフォルダ）が表示されます。

3 **再生したい曲が保存されているフォルダをクリックする**

曲の一覧（そのフォルダに保存されているコンテンツの一覧）が表示されます。

さらにフォルダや「アルバム」などの項目が表示されたときは、手順3の操作を繰り返し、曲を表示させます。

4 **再生したい曲をクリックする**

曲の再生が始まります。

ホームネットワークに公開された画像やビデオ（動画）を視聴するときは、手順3で画像やビデオ（動画）が保存されているフォルダをクリックしてください。視聴中の操作は、Windows Media Centerの「ピクチャ・ビデオ」で、このパソコンに保存された写真や動画を再生しているときと同様です。

コンテンツの種類や、コンテンツが保存されているDLNA製品の性能などによって、再生できなかったり、早送りや巻き戻し、スキップなどの操作ができないことがあります。

コンテンツをダウンロード／アップロードする

公開されているほかの機器のコンテンツを本機にダウンロードしたり、本機で公開しているコンテンツをほかの機器にアップロードしたりできます。
ここでは曲をダウンロードする手順を例に説明します。

※ダウンロード、アップロードは、対応しているDLNA機器間でのみ利用できます。

1 「スタート」-「すべてのプログラム」-「Windows Media Center」をクリックして起動し、「ホームネットワーク」の「音楽」をクリックする

SmartVisionで録画した地上アナログ放送番組をダウンロード/アップロードする場合は、あらかじめSmartVisionのファイル出力機能を使って、ファイルを公開フォルダ(パブリックのビデオ)に移動させておいてください。

2 「サーバー」をクリックし、表示されたサーバーの中から または が表示されているサーバーをクリックする
そのサーバーで公開されているアルバムが表示されます。

 または が表示されていても、コンテンツによってはダウンロードできない場合があります。

3 ダウンロードしたいアルバムを右クリックし、表示されるメニューから「ダウンロードする」を選ぶ
確認のメッセージが表示された場合は、「コピー」または「ムーブ」をクリックします。ダウンロードが開始されます。

・ダウンロード中も、Windows Media Centerの機能を使うことができます。
・ダウンロードが終わると、「ダウンロードが完了しました」のメッセージが表示されます。
・曲を1曲だけ選んでダウンロードすることもできます。

・ダウンロードの状態を確認したり、中止したりする場合は、ダウンロード中のアルバムを右クリックし、表示されるメニューから「ダウンロードを確認する」、「ダウンロードを中止する」をクリックしてください。

・ホームネットワークに公開された画像やビデオ(動画)をダウンロードするときは、手順1で「画像」や「ビデオ」を選んでください。

・ダウンロードしたコンテンツは、ログオンしているユーザーの「ピクチャ」、「ミュージック」、「ビデオ」のフォルダにそれぞれ保存されます。各フォルダは、「スタート」-「(ユーザー名)」から開くことができます。

・ダウンロード/アップロード中にWindows Media Centerを終了した場合、ダウンロード/アップロードも中止されます。

・「ムーブ」は、対応している機器以外では表示されません。

・「ムーブ」を選択すると、ダウンロード元のコンテンツは削除されます。

アップロードの準備

本機からほかの機器にコンテンツをアップロードする場合は、あらかじめ次の準備をしてください。

1 「スタート」-「すべてのプログラム」-「Windows Media Center」をクリックして起動し、「ホームネットワーク」の「接続機器選択」画面を表示する

2 青色の または緑色の が表示されている機器の中からアップロードしたい機器を右クリックし、表示されるメニューから「アップロード先として登録」をクリックする

オレンジ色の または が付きます。

・コンテンツをアップロードする場合は、「ホームネットワーク」でアップロードするコンテンツの種類(「音楽」など)を選び、「サーバー」から が表示されている機器をクリックしてください。アップロードしたいコンテンツを右クリックし、表示されるメニューから「アップロードする」をクリックし、「コピー」または「ムーブ」をクリックすると手順2で選んだ機器にコンテンツがアップロードされます。

・アップロードされたコンテンツは「パブリック」の「Uploaded Files」に保存されます。

・コンテンツによっては、アップロードできない場合があります。

Webカメラの映像を配信する

Webカメラが接続された機器が配信している映像を、本機で視聴することができます。
Webカメラが搭載されているモデルでは、Webカメラの映像を配信できます。

1 「スタート」-「すべてのプログラム」-「Windows Media Center」をクリックして起動し、「ホームネットワーク」の「ビデオ」をクリックする

- 接続先の機器によっては、Webカメラの映像が視聴できない、あるいは視聴までに時間がかかる場合があります。
- ほかの機器での操作については、それぞれの機器のマニュアルをご覧ください。

2 「Webカメラ低画質」「Webカメラ標準画質」「Webカメラ高画質」のいずれかをクリックする

Webカメラの映像が表示されます。
それぞれの画質は、次のようになっています。

画質	解像度	ビットレート
Webカメラ高画質	640 × 480ドット	4Mbps
Webカメラ標準画質	320 × 240ドット	1Mbps
Webカメラ低画質	160 ×120ドット	250Kbps

- 「拡大／縮小」をクリックすると、画面のサイズを変更できます。
- Webカメラの映像を複数の機器に同時に配信することはできません。

コンテンツを印刷する

ホームネットワークに公開されているコンテンツ(画像)を印刷することができます。

印刷の設定をする

印刷する前に、使用するプリンタを選びます。

- あらかじめDLNAに対応したプリンタをホームネットワークに接続しておいてください。
- DLNAに対応したプリンタが1台しか接続されていない場合は、自動的にそのプリンタが設定されます。

1 「スタート」-「すべてのプログラム」-「Windows Media Center」をクリックして起動し、「ホームネットワーク」の「画像」をクリックする

ホームネットワークに公開された画像の一覧が表示されます。

2 画像を右クリックして、表示されるメニューから「設定」を選ぶ

「設定」画面が表示されます。

3 「印刷の設定」をクリックする

「印刷の設定」画面が表示されます。

4 「プリンタの選択」の「+」または「−」をクリックしてプリンタを選ぶ

5 「保存」をクリックする

これで印刷の設定は完了です。

- 一度設定を保存すれば、次に印刷するときにはプリンタを選ぶ必要はありません。
- 使用するプリンタを複数設定しておくことはできません。異なるプリンタから印刷したいときは、「プリンタの選択」で選びなおしてください。

印刷する

1 「スタート」-「すべてのプログラム」-「Windows Media Center」をクリックして起動し、「ホームネットワーク」の「画像」をクリックする

ホームネットワークに公開された画像の一覧が表示されます。

2 印刷したい画像を右クリックし、表示されるメニューから「印刷」を選ぶ

画像の印刷が始まります。

- 1枚ずつ印刷してください。印刷中に、連続して印刷の操作をすることはできません。
- 撮影日やアルバムなどのフォルダを選んでいるときは、印刷できません。
- 印刷中に右クリックし、表示されるメニューから「印刷状況を確認する」を選べば、印刷中の画像を確認できます。
- 印刷を中止するときは、右クリックして表示されるメニューから「印刷を中止する」を選んでください。また、印刷中にWindows Media Centerを終了すると、印刷が中止されます。なお、プリンタによっては印刷が中止されないことがあります。
- ご使用のサーバーによっては、プリンタにコンテンツを公開する操作が必要になることがあります。このパソコンでの設定について詳しくは、「スタート」-「すべてのプログラム」-「DiXiM Media Server for NEC」-「DiXiM Media Server Toolのヘルプ」をご覧ください。
- 印刷用紙は、用紙サイズで「L版」または「A4」を選択している場合は写真紙、「ハガキ」を選択している場合はインクジェットハガキのご使用をおすすめします。

ホームネットワークを使って、録画したデジタル放送番組を楽しむ

次の条件を満たすモデルは、DTCP-IP規格を使って、ホームネットワーク内のほかの機器で録画されたデジタル放送番組を視聴することができます。
また、2009年4月に発売されたVALUESTARでSmartVisionが搭載されたモデルとの組み合わせでは、録画中の番組も視聴することができます。

デジタル録画番組をネットワーク経由で視聴できるモデルについて

デジタル録画番組を視聴できるモデルには視聴用のソフトがあらかじめインストールされています。

◆視聴できるモデル

必要条件
視聴用ソフト「Digital Video Network Player※」インストール済み
※Windows Media Centerの「ホームネットワーク」に「デジタル録画番組」という項目が表示される。

- **ネットワークの速度が50Mbpsを下回ると、映像が乱れたり(コマ落ちしたり)、音声が途切れることがあります。特に、ワイヤレスLAN(無線LAN)をお使いの場合はご注意ください。**
- **デジタル録画番組をネットワーク経由で視聴するには、ライセンスの取得時にインターネット接続が必要となります。**
- **デジタル録画番組を視聴する場合は、他のソフトを終了させて、フルスクリーンで視聴することをおすすめします。他のソフトのウィンドウが表示されていると映像が乱れたり(コマ落ちしたり)、音声が途切れることがあります。**
- **再生するデジタル録画番組によっては、映像が乱れたり(コマ落ちしたり)、音声が途切れることがあります。**
- **再生中にAV操作ボタンやサブメニューを表示していると、映像が乱れたり(コマ落ちしたり)、音声が途切れることがあります。**
- **視聴できるデジタル録画番組は、デジタル放送の標準フォーマットであるMPEG2-TSで録画した番組、または長時間録画などに用いられるMPEG4-AVC/H.264で録画されたコンテンツです(音声フォーマットがMPEG2-AACであるもののみ)。**
- **録画中の番組については、2分間以上録画されている番組を再生することができます。2分間以上録画されていない番組は、一覧に表示されません。**
- **さかのぼり録画で録画している番組は、録画が完了するまで再生することができません。**

なお、録画したデジタル放送番組をネットワークを使って視聴するときは、著作権保護のためのライセンスの取得が必要です。

視聴時のライセンス取得の操作については、「デジタル放送番組を視聴する」（139ページ）をご覧ください。
ホームネットワークについては、「Windows Media Centerのホームネットワーク機能でできること」（126ページ）をご覧ください。

DTCP-IPとは

デジタル放送など、著作権で保護されているコンテンツを、家庭内のネットワークを使って伝送するための技術規格です（著作権保護技術「DTCP(Digital Transmission Content Protection)」をIPネットワークに適用したもの）。
ネットワークに送り出すコンテンツを暗号化したり、コンテンツがホームネットワークからインターネットなど外部のネットワークへ流出することを防いだりすることで、コンテンツの著作権を保護します。

デジタル放送番組を視聴する

ライセンスを取得する

ホームネットワークを使って録画されたデジタル放送番組を視聴するときは、著作権保護のためのライセンスを取得する必要があります。
ここでは、そのライセンスの取得の操作について説明します。

- **ライセンスを取得するときは、インターネットに接続する必要があります。**
- **あらかじめ、視聴したいデジタル放送番組が録画された製品で、配信するための設定をおこなってください。設定方法については各製品のマニュアルをご覧ください。**
- **ライセンスの取得は、はじめて視聴するときに1度だけおこないます。ただし、パソコンを再セットアップしたときは、ライセンスを取得しなおす必要があります。**

1 「スタート」-「すべてのプログラム」-「Windows Media Center」をクリックして起動し、「ホームネットワーク」の「デジタル録画番組」をクリックする

ホームネットワークに配信されている録画されたデジタル放送番組の一覧が表示されます。

フォルダが表示されたときは、フォルダを選んでクリックし、デジタル放送番組の一覧を表示させます。

2 視聴したいデジタル放送番組をクリックする

著作権保護のためのライセンスを取得するかどうか確認する画面が表示されます。

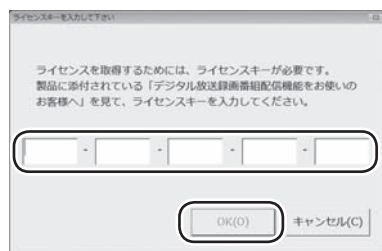
すでにライセンスを取得しているときは、そのまま選んだデジタル放送番組の再生が始まります。

3 「はい」をクリックする

「使用許諾」画面が表示されます。

4 表示された内容を確認して「同意する」をクリックする

ライセンスキーを入力する画面が表示されます。

5 添付の『デジタル放送録画番組配信機能をお使いのお客様へ』に記載されたライセンスキーを入力し、「OK」をクリックする

インターネット経由でライセンスを取得するかどうか確認する画面が表示されます。

6 「はい」をクリックする

ライセンスの取得が始まります。
完了すると、ライセンスの取得完了を告げるメッセージが表示され、選んだデジタル放送番組の再生が始まります。
これで、録画されたデジタル放送番組を視聴するためのライセンスの取得は完了です。

デジタル放送番組を視聴する

ここでは、ホームネットワークを使って、録画されたデジタル放送番組を視聴する操作について説明します。

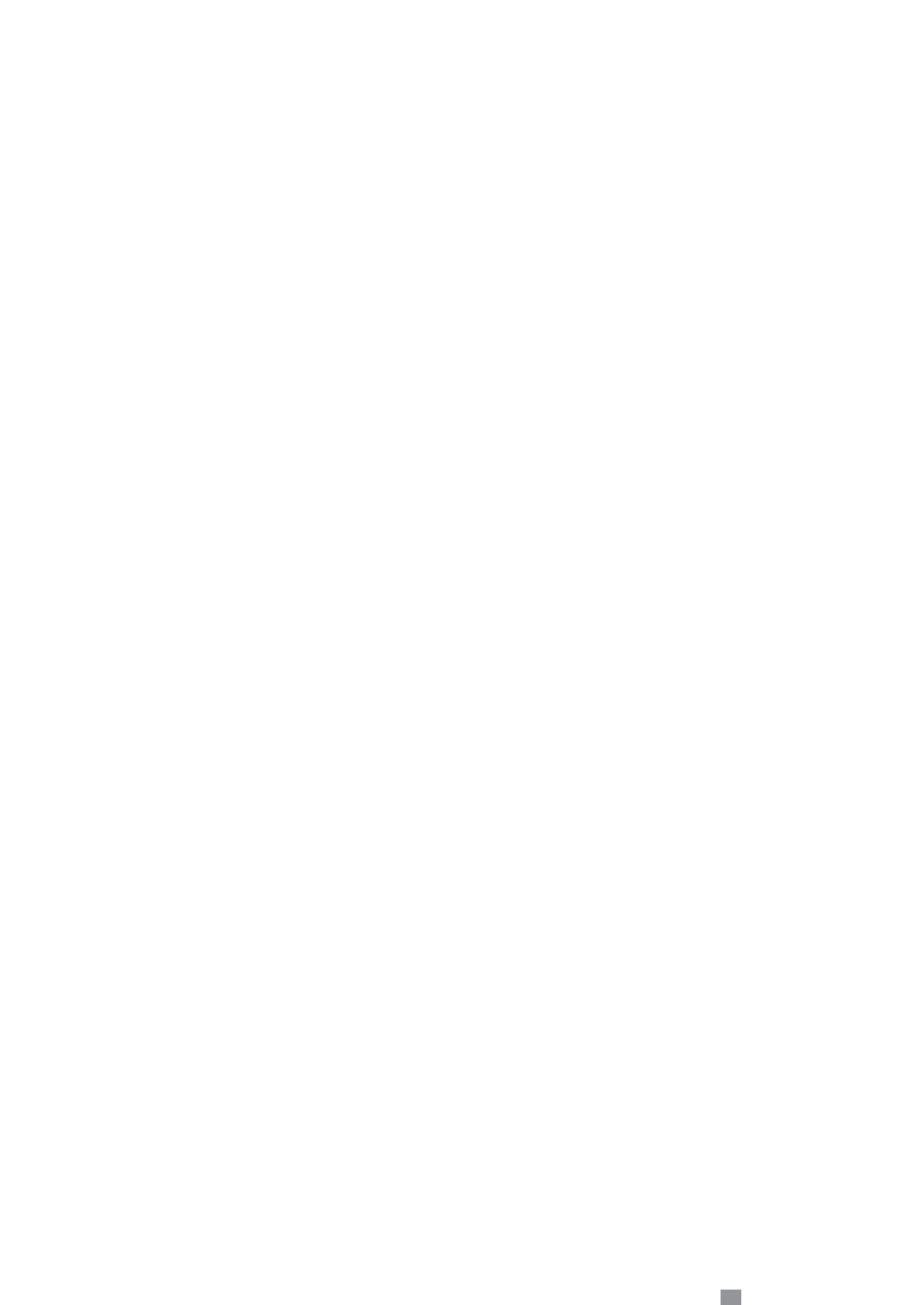
- あらかじめ、視聴したいデジタル放送番組が録画された製品で、配信するための設定をおこなってください。設定方法については各製品のマニュアルをご覧ください。
- コンテンツの種類や、コンテンツが保存されているDTCP-IP対応製品によっては、再生できなかったり、早送りや早戻し、スキップなどの操作ができないことがあります。

1 「スタート」-「すべてのプログラム」-「Windows Media Center」をクリックして起動し、「ホームネットワーク」の「デジタル録画番組」をクリックする

ホームネットワークに配信されている録画されたデジタル放送番組の一覧が表示されます。

フォルダが表示されたときは、フォルダをクリックして、デジタル放送番組の一覧を表示させます。

2 視聴したい番組をクリックする

録画されたデジタル放送番組の再生が始まります。Windows Media Center の「ピクチャ・ビデオ」で、このパソコンに保存された動画を再生しているときと同様に、停止・早送り・早戻し・一時停止・スキップなどの操作ができます。

第8章

パソコン内部に取り付ける

メモリを増設して、パソコンをパワーアップすることができます。パソコン内部のほかの部品を傷つけたりしないよう、手順の説明をよく読んでから作業してください。

メモリ

メモリを増やすことで、より多くのソフトを同時に起動したり、大きなデータをより高速に扱うことができるようになります。このパソコンでメモリを増やすときには、別売の増設RAM(ラム)ボードをメモリスロットに取り付けます。

メモリを増やすには

どのくらいメモリを増やすかを決める
このパソコンでは、最大4Gバイトまで増やせます。

▼

必要なものを準備する
必要な増設RAMボードなどを準備します。

▼

増設RAMボードを取り付ける
本体底面のメモリスロットのカバーを取り外し、用意した増設RAMボードを専用のスロットに取り付けます。取り付けたらカバーをもとに戻します。

▼

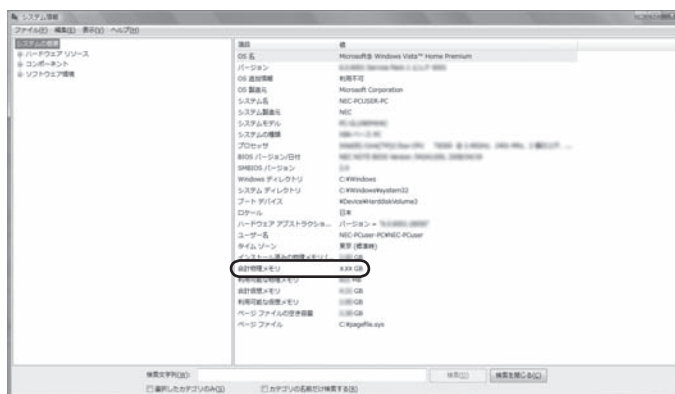
メモリが増えたかどうか確認する
本体の電源を入れて、増やしたメモリがこのパソコンで使えるようになっているかどうか確認します。

このパソコンでは最大4Gバイトのメモリを搭載可能ですが、PCIデバイス等のメモリ領域を確保するために、すべての領域を使用することはできません。また、装置構成によってご利用可能なメモリ容量は異なります。

メモリを確認する

お使いのモデルのメモリ容量は次の方法で確認できます。

1 **「スタート」-「すべてのプログラム」-「アクセサリ」-「システムツール」-「システム情報」をクリックする**

「システム情報」が表示されます。

メモリ容量は実際より少なく表示される場合がありますが、故障ではありません。

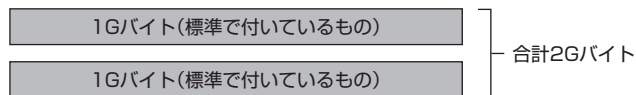
メモリの増やし方の例

このパソコンには、増設RAMボード(SO-DIMM:エスオーディム)を差し込むスロット(コネクタ)が、2つ用意されています。
このパソコンはデュアルチャネルに対応しています。

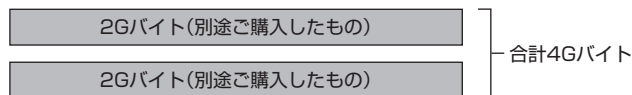
デュアルチャネルとは、同容量の2枚のメモリに同時にアクセスすることで、メモリのデータ転送性能を高速化する技術のことです。

2つのメモリスロットに異なる容量のメモリを搭載するメモリ構成はサポートしておりません。

ここでは、標準で1GバイトのRAMボードが2枚付いている場合を例にメモリの増やし方を説明します。

1Gバイト(標準で付いているもの)	合計2Gバイト
1Gバイト(標準で付いているもの)	

標準で付いているRAMボードを取り外して、より大きな容量の増設RAMボードを追加することで、メモリを増やします。メモリは、最大で4Gバイト(2Gバイトの増設RAMボード×2枚)まで増やすことができます。

● 4Gバイト(最大)にする場合
標準で付いているRAMボードを取り外し、2Gバイトの増設RAMボードを2枚追加します。この場合、2Gバイトずつのデュアルチャネルで動作します。

2Gバイト(別途ご購入したもの)	合計4Gバイト
2Gバイト(別途ご購入したもの)	

- 実際に利用できるメモリ容量は、取り付けたメモリの総容量より少ない値になります。
- デュアルチャネルメモリの性能を最大限に引き出すために、2つのスロットに同容量のメモリを搭載しています。1Gバイト+2Gバイトでも動作しますが、一部のソフトにおいて、十分な性能が出ない場合があるため、動作保証しておりません。増設時は、2つのスロットが同容量になるように、2Gバイト×2への増設をおすすめします。

このパソコンで使える増設RAMボード

パソコンのメモリを増やすときには、「増設RAMボード」というボードを使います。
このパソコンでは、次の増設RAMボードを使うことをおすすめします。

型名	メモリ容量
PC-AC-ME043C	2Gバイト

(DDR3 SDRAM/SO-DIMM、PC3-8500タイプ)

- 上記のタイプ以外の増設RAMボードには、このパソコンで使えないものがあるため、ご購入前に確認してください。
- 市販の増設RAMボードに関する動作保証やサポートはNECではおこなっていません。販売元にお問い合わせください。

増設RAMボードを取り扱うときの注意

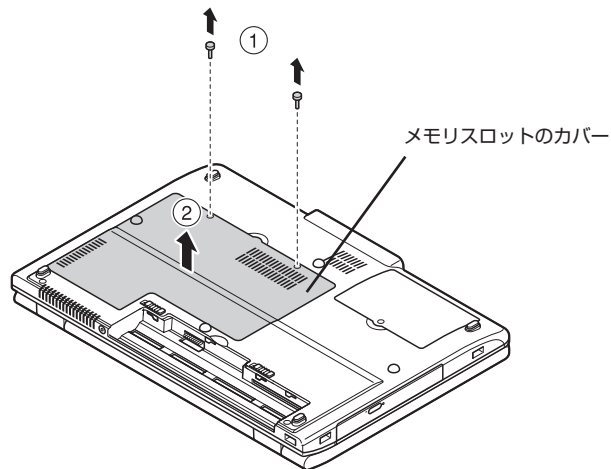
- 増設RAMボードは静電気に大変弱い部品です。身体に静電気を帯びた状態で増設RAMボードを扱うと破損する原因になります。増設RAMボードに触れる前に、アルミサッシやドアのノブなど身近な金属に手を触れて、静電気を取り除いてください。
- 増設RAMボードの金属端子部分には手を触れないでください。接触不良など、故障の原因になります。
- メモリスロットのカバーを取り外したボード上の部品やハンダ付け面には触れないよう注意してください。
- パソコンの電源を切った後30分以上経ってから、必ずACアダプタおよびバッテリパックをパソコンから取り外した後、メモリスロットのカバーを取り外してください。

増設RAMボードの取り付けと取り外し

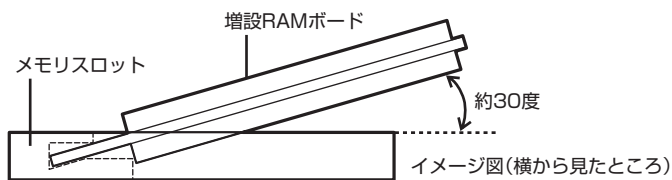
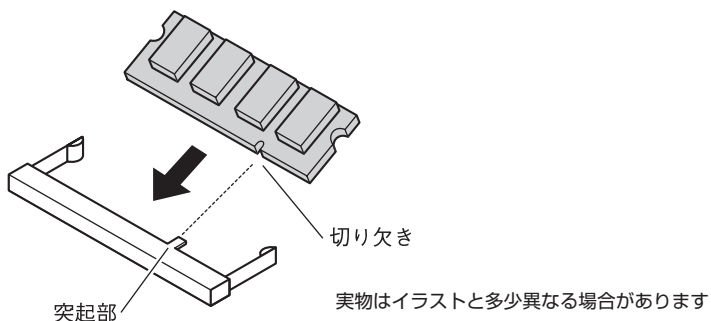
増設RAMボードの取り付け方

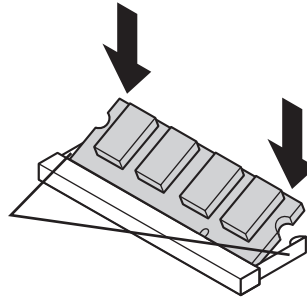
増設RAMボードは静電気に大変弱い部品です。身体に静電気を帯びた状態で扱うと破損する原因になりますので、アルミサッシやドアのノブなど身近な金属に触れて静電気を取り除いてください。

1 「バッテリパックの取り外し方」(7ページ)の手順でバッテリパックを取り外す

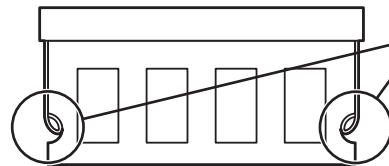
2 図のネジをプラスドライバーでゆるめて外し、メモリスロットのカバーを取り外す

3 **増設RAMボードの切り欠き部分とメモリスロットにある突起部を合わせ、スロットに対して約30度の角度で、増設RAMボードの端子が当たるまで差し込む**

増設RAMボードが奥まで入っている場合は、端子部分(金色)のほとんどが、メモリスロットに差し込まれた状態になります。

増設RAMボードの表と裏が間違っている場合、増設RAMボードの切り欠きとメモリスロットの突起部の位置が合わず、差し込むことができません。間違った向きのままで無理に取り付けようとすると、メモリスロットや増設RAMボードが破損する原因になりますので注意してください。

差し込むときに、メモリスロットが固いことがありますが、奥までしっかり押し込んでください。しっかり押し込まずに次の手順をおこなうと、コネクタを破損するおそれがあります。

4 カチッと音がする位置まで増設RAMボードをメモリスロットに強く倒し込む

5 増設RAMボードがメモリスロットにしっかりロックされたことを確認する

正しくロックされている場合は、増設RAMボードが水平で、端子の金色の部分が少し(1mm程度)見える状態です。

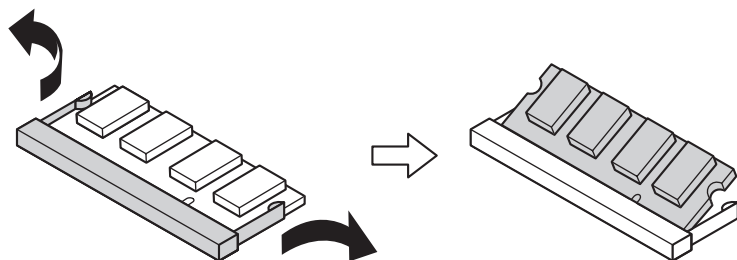
確実にロックされていないと、メモリスロットや増設RAMボードの故障の原因になります。また、パソコンが正しくメモリを認識できないこともあります。

6 メモリスロットのカバーをもとに戻し、ネジでカバーを本体底面に取り付ける

7 バッテリパックとACアダプタを取り付ける

増設RAMボードの取り外し方

1 「増設RAMボードの取り付け方」の手順1 ～ 2をおこない、メモリスロットのカバーを取り外す

2 メモリスロットの両端部分を左右に押し広げる

増設RAMボードが図のように起き上がります。

メモリスロットの両端を開きすぎて破損してしまわないように気を付けてください。

3 起き上がった増設RAMボードをそのまま斜めに引き抜く

・メモリは、大変壊れやすい部品です。取り外した増設RAMボードおよび標準で付いているRAMボードは、大切に保管してください。再セットアップをおこなうときに必要となる場合があります。

・メモリスロットの周りの部品を傷つけないよう気を付けてください。

4 メモリスロットのカバーをもとに戻し、外したネジでカバーを本体底面に取り付ける

5 バッテリパックとACアダプタを取り付ける

増やしたメモリ容量を確認する

パソコンの電源を入れ、「メモリを確認する」(145ページ)の手順で増やしたメモリが本当に使えるようになったかどうかを確認します。

メモリを増設した場合、初期化のため、電源を入れてからディスプレイの画面が表示されるまで時間がかかることがあります。

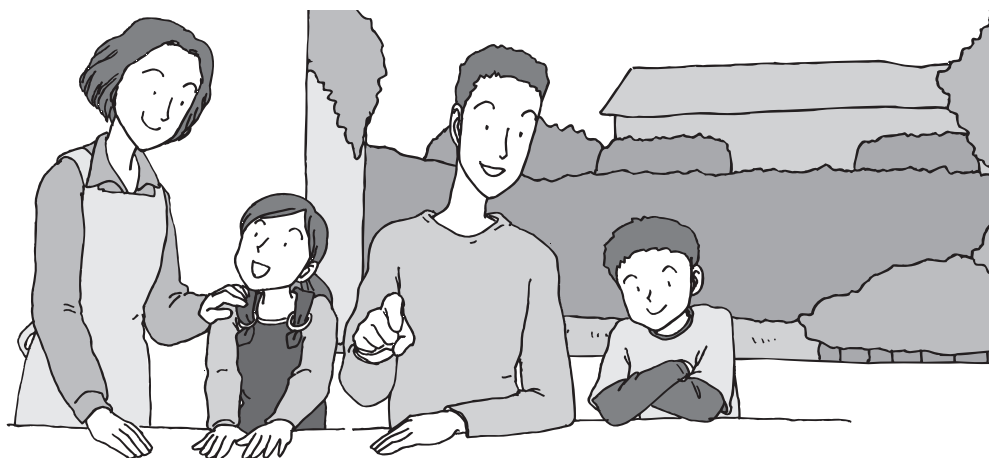
メモリが増えていなかったら

表示されたメモリの大きさが増えていなかった場合には、次のことを確認してください。

・メモリが正しく取り付けられているか？

・このパソコンで使える増設RAMボードを取り付けているか？

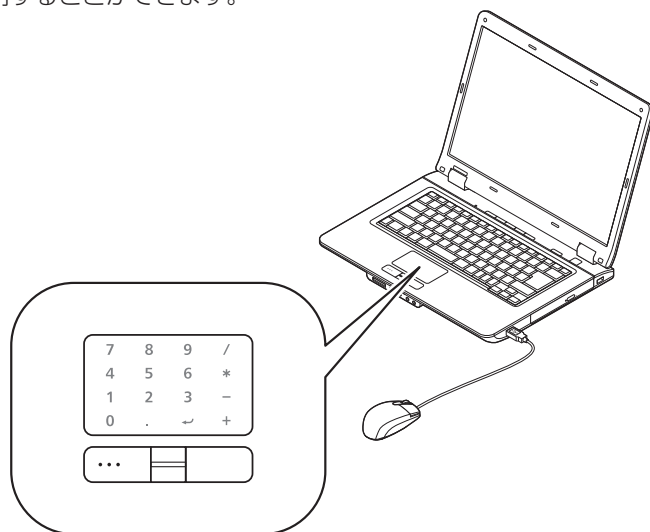
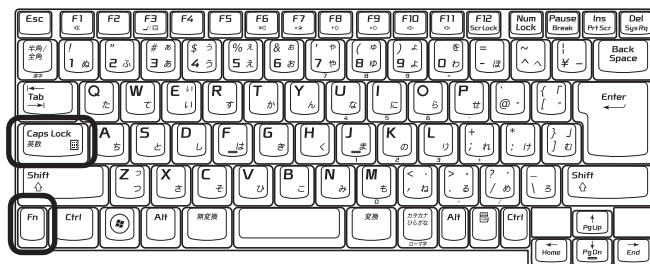
第9章

このパソコンのおすすめ機能

ここでは、このパソコン特有の機能について説明しています。パソコンの設定が終わったら、この章の説明を読んで、このパソコンを使いこなしてください。

NXパッドについて

パッド部分をテンキーとして使用することができます。

「光るテンキーパッド」の機能について

このパソコンのNXパッドは、「光るテンキーパッド」の機能が内蔵されています。【Fn】を押しながら【CapsLock】を押すと、パッド部分が光って、テンキーとして使用することができます。

ご購入時の設定では、【Fn】を押しながら【CapsLock】を押すと「光るテンキーパッド」の有効/無効が切り換わります。

「光るテンキーパッド」の設定について詳しくは、「ソフト&サポートナビゲーター」-「パソコンの各機能」-「NXパッド」をご覧ください。

- 「光るテンキーパッド」はWindowsの起動が完了した(デスクトップの画面が表示された)時点で点灯するようになっています(パソコンの起動中は点灯しません)。
- ワンタッチスタートボタンを無効にしている場合は、【Fn】を押しながら【CapsLock】を押しても「光るテンキーパッド」の有効/無効の切り換えはできません。

FeliCaポートを使う

FeliCa対応モデルには、FeliCaを利用した非接触ICカードを読み書きできる「FeliCaポート」が内蔵されています。

FeliCaプラットフォームマークは、本製品がFeliCaを利用したマルチアプリケーションプラットフォームに対応していることを表しています。

FeliCaとは

非接触ICカード技術方式“FeliCa”とは、電子マネー、交通機関のプリペイドカード、各社のポイントカードなどに採用されているICカード規格のひとつです。非接触型なのでこのパソコンの「FeliCaポート」やお店の読取装置、改札機にかざすだけで使えます。
このパソコンで使えるのは「FeliCa対応カード」と「FeliCa対応携帯電話」です。

- このマニュアルでは、「FeliCa対応カード」と「FeliCa対応携帯電話」をあわせて「FeliCa対応カード」と呼びます。
- このパソコンに内蔵されている「FeliCaポート」でご利用できるFeliCa対応カードについては、(http://www.justsystems.com/jp/atlife/kazasu/card/)をご覧ください。
- 「FeliCaポート」は、無線機器の一種です。取り扱いの注意事項について、『安全にお使いいただくために』もご覧ください。
- 本機に搭載するFeliCaカード認証は、完全なセキュリティを保証するものではありません。

「FeliCaポート」利用上の注意

- 本製品は、日本国内での電波法に基づく型式指定を受けた誘導式読み書き通信設備です。
- 本製品を分解、改造したり、型式番号を消したりすると法律により罰せられることがあります。
- 心臓ペースメーカ装着部位から30センチ以上離して使用してください。
電波によりペースメーカの作動に影響をあたえる場合があります。
- 医療機関側が本製品の使用を禁止した区域では、本製品のポーリングをオフにしてください。ポーリングをオフにする設定については、「ソフト&サポートナビゲーター」-「パソコンの各機能」-「FeliCaポートを使う」をご覧ください。

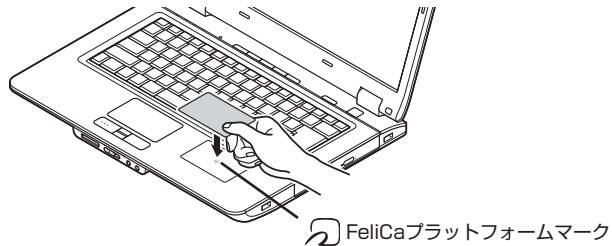
● **パスワードの扱いにご注意ください**

FeliCa対応カードやおサイフケータイは、現金やクレジットカードなどと同等の価値を持っています。サービスをご利用の際に必要となる暗証番号は、他人に知られないように十分ご注意ください。

暗証番号の不正使用により生じた損害については弊社では補償いたしかねます。

FeliCa対応カードを使う

1 FeliCa対応カードのかざし方

FeliCa対応カードの中心を「FeliCaポート」の「FeliCaプラットフォームマーク」に合わせて置きます。カードの裏表は問いませんが、携帯電話の場合は電話側のFeliCaプラットフォームマークが付いている面と合わせて置いてください。

※イラストは、モデルによって異なります。

FeliCa対応カードを「FeliCaポート」にかざすと、FeliCa対応ソフト「かざしてナビ」が表示されます。

- **カードは必ず1枚のみセットしてください。複数枚のカードをかざすと、正しく読み取れません。**
- **「FeliCaポート」からはみ出したり、傾けたりしてカードをかざすと、正しく認識できないことがあります。**

2 「かざしてナビ」を使う

FeliCa対応カードやFeliCa対応携帯電話をかざすと、FeliCa対応カードをパソコンで活用するためのソフト「かざしてナビ」が自動的に表示されます。

この画面から対応するソフトを選んでください。

- 各ソフトについて詳しくは、「ソフト＆サポートナビゲーター」-「ソフトを探す」-「50音／英数字から選ぶ」または、各ソフトのヘルプをご覧ください。
- FeliCa対応カードをかざすタイミングは、各ソフトにより異なります。各ソフトの画面表示を見ながら操作してください。

「スクリーンセーバーロック2」について

スクリーンセーバーロック2を登録したが、登録したFeliCa対応カードや携帯電話、またはパスワードを両方なくしてしまったときは、次の方法でスクリーンセーバーを解除してください。

【Ctrl】と【Alt】を押しながら【Del】を1回押してください。Windowsのログオン画面が表示された場合は、ログオン中のアカウントをクリックしてログオンしてください。ロックが解除されます。

- Windowsのログオンパスワードを要求された場合は、パスワードを入力します。
- メニュー画面が表示された場合は、「ユーザーの切り替え」をクリックすると、Windowsのログオン画面が表示されます。

ロックが解除されたら、スクリーンセーバーロック2に、別のFeliCa対応カードや携帯電話と、新しいパスワードを登録してください。

- **この方法でのスクリーンセーバーロック2の解除はFeliCa対応カードや携帯電話、パスワードを必要としません。より安全にお使いいただくためには、次の手順でWindowsログオンパスワードを設定し、ロック解除時にパスワードを入力するように設定することをおすすめします。**
- **手順の途中で「ユーザー アカウント制御」画面が表示されたら、画面の表示を見ながら操作してください。**

1. 「スタート」-「コントロールパネル」-「ユーザーアカウントと家族のための安全設定」-「ユーザーアカウントの追加または削除」をクリックする
2. 「変更するアカウントを選択してください」欄で、パスワードを設定するアカウントをクリックする
3. 「パスワードの作成」をクリックする
4. 「新しいパスワード」欄と「新しいパスワードの確認」欄に新しく設定するパスワードを入力し、必要に応じて「パスワードのヒントの入力」を入力する
5. 「パスワードの作成」をクリックする
6. 画面右上のをクリックする
7. 「スタート」-「コントロールパネル」-「デスクトップのカスタマイズ」-「スクリーンセーバーの変更」をクリックする
8. 「再開時にログオン画面に戻る」のをクリックしてにする
9. 「OK」をクリックする

この設定をおこなうと、スクリーンセーバーのロックを解除するときだけでなく、パソコンを起動するときや省電力状態から復帰するときにもWindowsのログオンパスワードの入力が必要になります。
また、パスワード入力の手間を省くためには、FeliCa対応ソフト「シンプルログオン」の併用をおすすめします。
登録したFeliCa対応カードをかざすことで、Windowsにログオンできるようになります。
詳しい操作方法については、シンプルログオンのヘルプを参照してください。

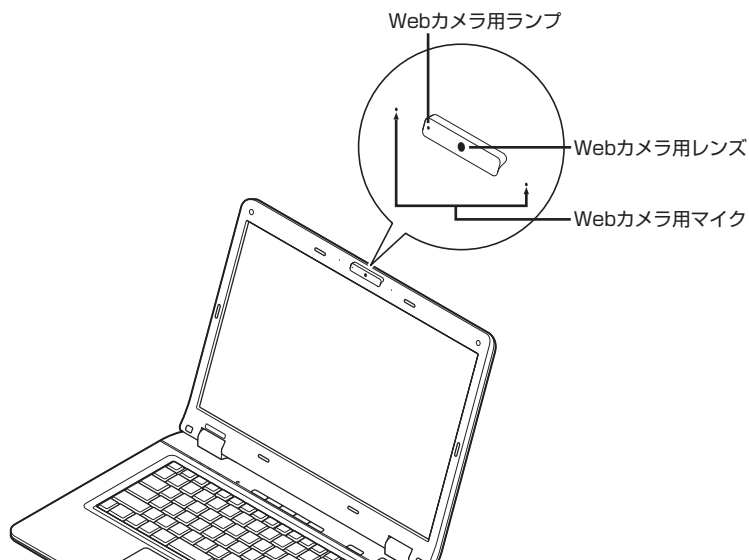
Webカメラを使う

ここでは、Webカメラの使い方について説明します。

Webカメラとは

Webカメラを搭載したモデルでは、インスタントメッセンジャーを利用してテレビ電話(ビデオチャット)を楽しんだり、ビデオや写真を撮影してメールで送ることができます。Webカメラに顔を映してパソコンにログオンする顔認証として利用することもできます。

インスタントメッセンジャーとは、インターネットを通じてリアルタイムコミュニケーションを実現するアプリケーションのことです。ここでは、「Windows Live Messenger」というソフトを使用します。

Webカメラは、ディスプレイ上部中央に搭載されており、レンズ、マイク、およびランプで構成されています。レンズで対象を撮影し、マイクで音声を収集します。ランプはWebカメラを使用しているときに点灯します。

※イラストは、モデルによって異なります。

ご購入時には、レンズとランプ部に破損防止のための保護用シールが貼られています。Webカメラをご使用になる前に取り外してください。

Webカメラでできること

- **テレビ電話(ビデオチャット)**
  「Windows Live Messenger」というソフトを使用します。

- **写真やビデオの撮影**
  「Qcam for NEC」というソフトを使用します。「Qcam for NEC」については、「ソフト＆サポートナビゲーター」-「ソフトを探す」-「50音／英数字から選ぶ」-「Qcam for NEC」をご覧ください。

- **顔認証でパソコンにログオン**
  「シンプルログオン」というソフトを使用します。

詳しい内容については、『活用ブック』の「おすすめの機能」-「③Webカメラ「Webカメラ」で気軽なコミュニケーション」をご覧ください。

テレビ電話をかける準備をする

- **テレビ電話を利用するには、インターネットに接続できる環境が必要です。あらかじめインターネットの設定を済ませておいてください。送受信するデータ容量が大きくなるため、FTTHやADSLなどのブロードバンド接続をおすすめします。**
- **テレビ電話は、相手側にもWebカメラやマイクロフォンなどの周辺機器が必要になります。**
- **手順の途中で「ユーザー アカウント制御」画面が表示されたら、画面の表示を見ながら操作してください。**

ご購入時の状態では、「Windows Live Messenger」はインストールされていません。はじめてテレビ電話をかけるときは、次の手順をおこなってください。

1 「ソフト＆サポートナビゲーター」-「ソフトを探す」-「50音／英数字から選ぶ」-「Windows Live Messenger」の「ソフトを起動」をクリックする

画面の指示にしたがい、「Windows Live Messenger」をインストールしてください。インストール終了後、自動的にサインイン画面が表示されます。

「Windows Live Messenger」のインストールについて詳しくは、「ソフト＆サポートナビゲーター」-「ソフトを探す」-「50音／英数字から選ぶ」-「Windows Live Messenger」の「追加方法と削除方法」をご覧ください。

2 サインイン画面の「新規登録を行います。」をクリックして、IDを登録する

IDの登録は無料です。

3 メールアドレスとパスワードを入力し、「サインイン」をクリックする

次回からは、取得したメールアドレスとパスワードを入力すると、すぐに始められます。

- 「メールアドレスと状態の保存」や「パスワードの保存」の左の□をクリックして☑にしておくと、次回から入力の手間を省くことができます。ただし、これらのチェックを入れた場合は、セキュリティをしっかり設定してください。
- メールアドレスとパスワードについて詳しくは、Windows Live Messengerのヘルプをご覧ください。

テレビ電話を開始する場合は、次の手順に進んでください。

4 画面右上のをクリックし、表示されたメニューから「操作」-「映像通話」-「映像通話の開始」をクリックする

通話可能なメンバーが表示されます。

5 **通話するメンバーを選択し、「OK」をクリックする**

以降の操作は、画面に表示される説明を読みながら進めてください。

「オーディオとビデオのセットアップ」では、Webcamのセットアップで「NECWebCam」を選択してください。

詳しい操作方法については、Windows Live Messengerのヘルプをご覧ください。

音声が聞き取りにくい場合

「Windows Live Messenger」でテレビ電話などを使用しているとき、ノイズやエコーが入ったり音声が聞き取りにくい場合は、以下の方法でクリアな音質での通話ができるようになります。

- **音量調節をおこなう**
  音量が大きすぎるとノイズやエコーなどが発生しやすくなります。通話が可能な範囲で音量を少しずつ下げてください。音量の調節方法については、第4章の「音量を調節する」(51ページ)をご覧ください。
- **ヘッドフォン(イヤフォン)やヘッドセットを使用する**
  ヘッドセットを使用する場合は、以下の手順でマイクの設定を変更してください。

1 **あらかじめヘッドセットを取り付けてから、「Windows Live Messenger」を起動する**

「Windows Live Messenger」を終了するまでヘッドセットを取り外さないでください。終了前にヘッドセットを取り外した場合は、「Windows Live Messenger」を再起動してください。

2 **画面右上の をクリックし、表示されたメニューから「ツール」-「オーディオとビデオのセットアップ」をクリックする**

「オーディオとビデオの設定-スピーカー /マイクまたはスピーカーフォン」画面が表示されます。

3 **「スピーカー /マイクまたはスピーカーフォン」のプルダウンメニューで「ユーザー設定」を選択する**

4 **使用するスピーカとマイクをそれぞれ選択し、音量のテストをおこなって適切な値に調整する**

5 **「完了」をクリックする**

顔認証でパソコンにログオンする

「シンプルログオン」に顔写真を登録しておくと、Webカメラに顔を映すだけでWindowsにログオンできるようになります。顔写真を撮影するには、あらかじめ「Qcam for NEC」をインストールする必要があります。

手順の途中で「ユーザー アカウント制御」画面が表示されたら、画面の表示を見ながら操作してください。

「Qcam for NEC」をインストールする

1 「ソフト＆サポートナビゲーター」-「ソフトを探す」-「50音／英数字から選ぶ」-「Qcam for NEC」の「ソフトを起動」をクリックする

2 確認画面で「はい」をクリックする

3 パソコンの再起動をうながす画面で「はい」をクリックする

パソコンが再起動します。

顔写真を登録する

1 「ソフト＆サポートナビゲーター」-「ソフトを探す」-「50音／英数字から選ぶ」-「シンプルログオン」の「ソフトを起動」をクリックする

シンプルログオン画面が表示されます。

2 「次へ」をクリックする

3 「Webカメラで顔を撮影してログオンします」のをクリックしてにし、「次へ」をクリックする

4 認証用の顔写真を3枚撮影し、「次へ」をクリックする

5 「OK」をクリックする

6 撮影した顔写真で認証のテストをおこない、正しく認証できることを確認したら「登録」をクリックする

7 Windowsにログオンするときの表示名を入力し、「完了」をクリックする

ログオン画面で「シンプルログオン」が選択されていないときは、「ユーザーの切り替え」で「シンプルログオン」に切り換えます。詳しい操作方法については、シンプルログオンのヘルプを参照してください。

顔認証機能利用時のご注意

顔認証機能を利用するには、WebカメラとFeliCa対応ソフトの一部機能を利用して、「シンプルログオン」という認証機能※を使用します。
※NEC独自の顔認証技術「NeoFace®」で実現しています。

利用する場合は、次のことに注意してください。

- 顔認証技術は本人の認証、照合を保証するものではありません。
登録者が髪型や眼鏡など、顔の一部を変えると認識率が低下する可能性があります。また、登録者に似ているかたを誤認識する場合もあります。より強固なセキュリティを設定したいときは、パスワード入力方式またはFeliCa認証をご使用ください。
- 登録後に「Qcam for NEC」でカメラ設定を変更すると、ログオンできなくなる場合があります。顔認証機能を利用する際は、「Qcam for NEC」の設定を変更せずにご使用ください。
- 表情や室内環境(照明など)によっては、登録者本人であっても正しく認識、照合できないことがあります。そのときは一時的にWindowsパスワードを利用してログオンしてください。照合に連続して失敗するような場合は、再登録をおこなってください。詳しくは、シンプルログオンのヘルプ「撮影時の注意」を参照してください。

Qcam for NECを設定する

はじめて「Qcam for NEC」を使用する場合は、次の設定をおこなってください。

はじめて「Qcam for NEC」を起動する場合は、「顔認証でパソコンにログオンする」(163ページ)をご覧になり、「Qcam for NEC」をインストールしてください。

アンチフリッカ(ちらつき軽減)

蛍光灯照明で撮影するときのちらつきを低減します。

1. 「ソフト&サポートナビゲーター」-「ソフトを探す」-「50音／英数字から選ぶ」-「Qcam for NEC」の「ソフトを起動」をクリックする
2. 表示されたメニューバーのをクリックする
3. 表示された画面のタブをクリックする
4. 「アンチフリッカ(ちらつき軽減)」から適切な値を選択する

ご購入時には「60Hz(西日本)」に設定されていますが、地域によって「50Hz(東日本)」に設定変更が必要です。また、蛍光灯照明の部屋で使用しない場合は、「オフ」に設定してください。

イメージの向き

録画する画像の向きを設定します。

1. 「ソフト&サポートナビゲーター」-「ソフトを探す」-「50音／英数字から選ぶ」-「Qcam for NEC」の「ソフトを起動」をクリックする
2. 表示されたメニューバーのをクリックする
3. 表示された画面のタブをクリックする
4. 「イメージの向き」で必要な設定項目の□をクリックして☑にする

マクロ フォーカス

カメラから約10cm前後の近距離にピントを合わせて撮影したいときに使う機能です。

1. 「ソフト&サポートナビゲーター」-「ソフトを探す」-「50音／英数字から選ぶ」-「Qcam for NEC」の「ソフトを起動」をクリックする

2 表示されたメニューバーのをクリックする

3 「マクロ フォーカス」でオン、またはオフを選択する

- テレビ電話中やビデオ録画中でも切り換えることができます。
- テレビ電話中やビデオ録画中に、マクロ フォーカスのオン/オフの切り換えをおこなったり、カメラが自動ピント補正をおこなったときは、カメラの機械音が入る場合があります。
- マクロ フォーカスについて詳しくは、「Qcam for NEC」のヘルプを参照してください。

付　録

CPRMの アップデート

ここでは、「WinDVD for NEC」、「WinDVD AVC for NEC」、「WinDVD BD for NEC」でCPRMコンテンツを再生するためのアップデート手順を説明します。

CPRM Packを無償ダウンロードする

- CPRMのアップデートには、インターネットに接続できる環境が必要です。
- 手順の途中で「ユーザー アカウント制御」画面が表示されたら、画面の表示を見ながら操作してください。

1 「ソフト＆サポートナビゲーター」-「ソフトを探す」-「50音／英数字から選ぶ」-「WinDVD for NEC」、「WinDVD AVC for NEC」または「WinDVD BD for NEC」の「ソフトを起動」をクリックする

「WinDVD for NEC」、「WinDVD AVC for NEC」または「WinDVD BD for NEC」が起動します。

2 メイン画面で右クリックし、表示されたメニューから「CPRM Packをダウンロード」をクリックする

自動的にInternet Explorerが起動し、登録画面が表示されます。

Corelオンライン登録ページにユーザー登録をおこなった電子メールアドレスとパスワードを入力して「サインイン」をクリックします。

- Corelオンライン登録ページにユーザー登録をおこなっていない場合は、「登録」をクリックし登録をおこなってください。
- DVD/CDドライブにCPRMコンテンツの含まれるディスクをセットして表示された画面で「OK」をクリックしても、登録画面が表示されます。

3 「DownloadNow」をクリックして、CPRM Packをダウンロードする

4 「WinDVD for NEC」、「WinDVD AVC for NEC」または「WinDVD BD for NEC」を終了する

5 ダウンロードしたCPRM.exeを起動する

インストールが開始されます。画面の指示にしたがい操作してください。

6 「Pack is successfully installed」と表示されたら、「OK」をクリックする

7 「WinDVD for NEC」、「WinDVD AVC for NEC」または「WinDVD BD for NEC」を起動し、CPRMコンテンツを含むディスクをセットする

8 「ユーザー アカウント制御」画面が表示されたら、画面の表示を見ながら操作する

「WinDVD for NEC」、「WinDVD AVC for NEC」または「WinDVD BD for NEC」が再起動され、再生が始まります。

パソコンのお手入れ

パソコンが汚れたときなど、日常のお手入れのしかたを説明します。

水やぬるま湯は、絶対にパソコン本体やキーボードに直接かけないでください。故障の原因になります。

準備するもの

シンナーやベンジンなど、揮発性の有機溶剤は使わないでください。これらの有機溶剤を含む化学ぞうきんも使わないでください。キーボードなどを傷め、故障の原因になります。

パソコンの電源を切って、電源コードを抜いてから

お手入れの前には、必ずパソコン本体や周辺機器の電源を切ってください。通常、パソコンを使っていないときも、パソコンはスリープ状態になっています。一度、Windowsを起動してから、「電源を切る(シャットダウンする)」(42ページ)の手順で電源を切ってください。電源コードはコンセントから抜いてください。また、バッテリパックも取り外してください。電源を切らずにお手入れを始めると、感電することがあります。

パソコン各部の清掃のしかた

液晶ディスプレイ
やわらかい素材の乾いた布でふいてください。
化学ぞうきんやぬらした布は使わないでください。
ディスプレイの画面は傷などが付かないように軽くふいてください。

パソコン本体
やわらかい布でふいてください。汚れがひどいときは、水かぬるま湯を布に含ませ、よくしぼってから、ふき取ってください。

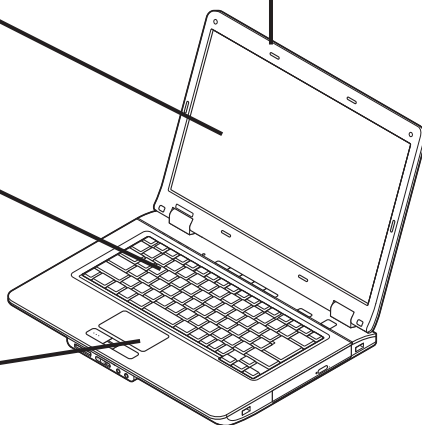
キーボード
やわらかい布でふいてください。
汚れがひどいときは、水かぬるま湯を布に含ませ、よくしぼってから、ふき取ってください。

NXパッド
やわらかい布でふいてください。
汚れがひどいときは、水かぬるま湯を布に含ませ、よくしぼってから、ふき取ってください。

電源コード／ACアダプタ
電源コードのプラグを長期間コンセントに接続したままにすると、プラグにホコリがたまることがあります。
定期的にやわらかい布でふいて、清掃してください。

水やぬるま湯を含ませ、よくしぼった布でパソコン本体、キーボード、マウスの汚れをふき取る際、水が入らないよう十分注意してください。

マウス
やわらかい布でふいてください。
汚れがひどいときは、水かぬるま湯を布に含ませ、よくしぼってから、ふき取ってください。

付録

バッテリリフレッシュについて

バッテリの機能を回復するバッテリリフレッシュについて説明します。バッテリについて詳しくは、「ソフト&サポートナビゲーター」-「パソコンの各機能」-「バッテリ」をご覧ください。

バッテリは、使い続けていくうちに、フル充電してもバッテリの電源のみでパソコンを使用できる時間が以前よりも短くなっていきます。このようなときは、バッテリリフレッシュをおこなうことでバッテリの性能を回復できます。
バッテリリフレッシュをおこなうのは、次のようなときです。
・バッテリの電源のみでパソコンを使用できる時間が、以前よりも短くなったとき
・ご購入直後や長期間放置した後で、バッテリの性能が一時的に低下しているとき
・バッテリの残量表示に誤差が生じているとき

- バッテリリフレッシュは数時間かかります。時間に余裕のあるときにおこなってください。
- バッテリ診断の精度を高めるため、バッテリリフレッシュ中は消費電力の大きいソフトの使用は控えることをおすすめします。
- ニッケル水素バッテリをバッテリリフレッシュするには、定期的にBIOSセットアップユーティリティを使ってバッテリリフレッシュすることをおすすめします。

バッテリリフレッシュをおこなう

バッテリ・リフレッシュ&診断ツールを使う場合

バッテリ・リフレッシュ&診断ツールを使って、バッテリ性能の低下を抑えるためのリフレッシュと現状の性能診断をおこなうことができます。

1. **パソコンにACアダプタを接続し、電源コードをコンセントに差し込む**

2. **「スタート」-「すべてのプログラム」-「バッテリ・リフレッシュ &診断ツール」-「バッテリ・リフレッシュ&診断ツール」をクリックする**
   「バッテリ・リフレッシュ&診断ツール」についての説明の画面が表示されます。バッテリのリフレッシュおよび診断を開始する前に注意事項を確認してください。

3. **「次へ」をクリックする**

4. **「今すぐ開始」をクリックする**

5. **「はい」をクリックする**
   バッテリのリフレッシュおよび診断が開始されます。中止するには「中止」をクリックしてください。

- バッテリリフレッシュ中は、液晶ディスプレイを開いたままにしてください。
- バッテリリフレッシュおよび診断中にACアダプタやバッテリパックを取り外すと、バッテリのリフレッシュが中止されます。

6 **診断結果を確認する**

「バッテリ状態」が「劣化」、「注意」と表示されたときにはバッテリを交換してください。

BIOSセットアップユーティリティを使う場合

1 **パソコンの電源を切る**

通常、パソコンを使っていないときも、パソコンはスリープ状態になっています。一度、Windowsを起動してから、「電源を切る(シャットダウンする)」(42ページ)の手順で電源を切ってください。

2 **バッテリリフレッシュをおこないたいバッテリパックをパソコンに取り付ける**

取り付けられているバッテリをバッテリリフレッシュする場合は、そのまま手順3に進みます。バッテリパックの取り付け方については「バッテリパックを取り付ける」(6ページ)をご覧ください。

3 **パソコンにACアダプタを接続し、電源コードをコンセントに差し込む**

バッテリ充電ランプ( )が点滅している場合は、一度ACアダプタを取り外し、バッテリパックを取り付けなおしてください。

4 **バッテリをフル充電する**

バッテリがフル充電されると、バッテリ充電ランプが消灯します。

5 **パソコンの電源を入れ、「NEC」のロゴが表示されたら【F2】を数回押す**

BIOSセットアップユーティリティのメイン画面が表示されます。

BIOSセットアップユーティリティが表示されないときは、電源を入れなおして、【F2】を押す間隔を変えてください。

6 **電源コードのプラグをコンセントから抜き、ACアダプタをパソコンから取り外す**

7 **【→】を押して「終了」を選び、【↓】を押して「バッテリリフレッシュ」を選んでから【Enter】を押す**

バッテリリフレッシュが始まります。

バッテリリフレッシュ中は、液晶ディスプレイを開いたままにしてください。また、バッテリリフレッシュ中はACアダプタを接続しないでください。

バッテリリフレッシュが完了すると、自動的にパソコンの電源が切れます。
電源が切れたら、ACアダプタと電源コードを接続してバッテリをフル充電してください。

●バッテリリフレッシュを中断する

バッテリリフレッシュ中に電源スイッチを押すと、バッテリリフレッシュが中断されて、パソコンの電源が切れます。

バッテリリフレッシュ中に、【Esc】を押したり、ACアダプタを接続したりすると、バッテリリフレッシュの中断を確認するメッセージが表示されます。このとき、ACアダプタを接続している場合はACアダプタを取り外した後、【↑】または【↓】を押して「Continue Battery Refresh」を選んで【Enter】を押してください。バッテリリフレッシュが続行されます。

DVD/CDドライブからディスクが取り出せなくなったときは

DVD/CDドライブからディスクが取り出せなくなったときの取り出し方を説明します。

パソコンの電源が入っていないと、DVD/CDドライブのイジェクトボタンを押してもディスクは出てきません。
パソコンの電源が入っているにもかかわらず、ディスクトレイが出てこなくなった場合は、ソフトの異常な操作などでディスクが取り出せなくなっていることが考えられます。次の操作でディスクを取り出してください。

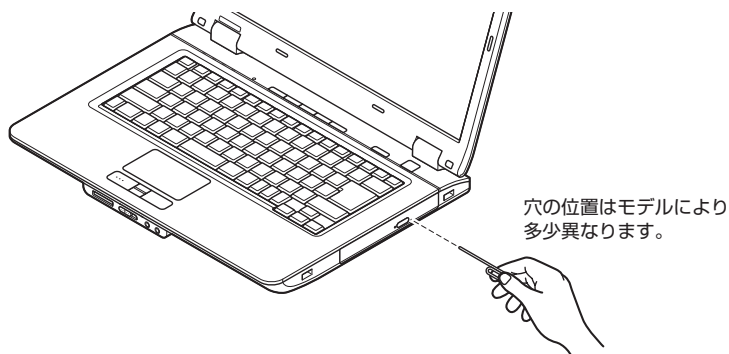
- **この方法でディスクを取り出す前に、『パソコンのトラブルを解決する本』の「その他のトラブルがおきたとき」-「DVD/CDドライブからディスクを取り出せなくなった」をご覧になり、ディスクが取り出せないか試してください。**
- **この方法でディスクを取り出すときは、ディスクにアクセスしていない(CD/ハードディスクアクセスランプが点灯、点滅していない)ことを確認してください。アクセス中に取り出そうとすると、データが失われたり、ディスクが使えなくなる場合があります。**

⚠注意

ペーパークリップを使うときは、ペーパークリップのとがった部分で指を切ったりしないように、注意して作業してください。

1 太さが1.3mm程度、まっすぐな部分の長さが45mm程度(指でつまむ部分を除く)の針金を用意する

大きめのペーパークリップを伸ばして作ることができます。

2 非常時ディスク取り出し穴に、手順1で作った針金を差し込み、強く押し込む

ディスクトレイが少し飛び出します。

3 ディスクトレイを手前に引き出し、ディスクを取り出す

付録

アフターケアについて

このパソコンに対する保守サービスや、消耗品・有寿命部品の内容について説明します。

保守サービスについて

保守サービスについては、NEC 121コンタクトセンターにお問い合わせください。詳しくは、添付の『121wareガイドブック』をご覧ください。

NEC 121コンタクトセンターなどにこのパソコンの修理を依頼する場合は、設定したパスワードを解除しておいてください。

消耗品と有寿命部品について

このパソコンには、消耗品と有寿命部品が含まれています。安定してご使用いただくためには、定期的な保守による部品交換が必要になります。特に長期間連続して使用する場合には、安全などの観点から早期の部品交換が必要です。

種類	内容説明	該当品または部品(代表例)
消耗品	使用頻度や使用量により消耗の進行が異なります。お客様ご自身でご購入いただき、交換していただくものです。本体の保証期間内であっても有償になります。	フロッピーディスク、CD-ROMディスク、DVD-ROMディスク、バッテリ、乾電池など
有寿命部品	使用頻度や経過時間、使用環境によって摩耗、劣化の進行に大きな差が生じ、修理による再生ができなくなる部品です。本体の保証期間内であっても部品代は有償になる場合があります。詳しくは、NEC 121コンタクトセンターの修理受付窓口にご相談ください。	液晶ディスプレイ、ハードディスクドライブ、DVD/CDドライブ、キーボード、マウス、ファン、NXパッド

- **記載部品は代表例です。機種により構成部品が異なります。詳しくは、『本製品の仕様について』または『LaVie Gシリーズをご購入いただいたお客様へ』の「仕様一覧」をご覧ください。**
- **有寿命部品の交換時期の目安は、1日8時間のご使用で1年365日として約5年です。上記期間はあくまでも目安であり、上記期間中に故障しないことや無償修理をお約束するものではありません。**
  また、長時間連続使用等のご使用状態や、温湿度条件等のご使用環境によっては早期に部品交換が必要となり、製品の保証期間内であっても有償となることがあります。
- **本製品の補修用性能部品の最低保有期間は、PC本体、オプション製品については製造打切後6年です。**

パソコンの譲渡、廃棄、改造について

パソコンを他人に譲るとき、廃棄するときの注意事項を説明します。また、パソコンの改造はおこなわないでください。

このパソコンを譲渡するには

パソコン内のハードディスクには個人的に作成した情報が多く含まれています。第三者に情報が漏れないように、譲渡の際にはこれらの情報を削除することをおすすめします。このパソコンのハードディスクのデータを消去する方法については、『パソコンのトラブルを解決する本』の「再セットアップディスクを使って再セットアップする」-「ハードディスクのデータ消去」をご覧ください。

譲渡するお客様へ

このパソコンを第三者に譲渡(売却)する場合は、次の条件を満たす必要があります。

1. 本体に添付されているすべてのものを譲渡し、複製物を一切保持しないこと。
2. 各ソフトウェアに添付されている「ソフトウェアのご使用条件」の譲渡、移転に関する条件を満たすこと。
3. 譲渡、移転が認められていないソフトウェアについては、削除した後譲渡すること(本体に添付されている「ソフトウェア使用条件適用一覧」をご覧ください)。

※ 第三者に譲渡(売却)する製品をお客様登録している場合は、121ware.comのマイページ(http://121ware.com/my/)の保有商品情報で削除いただくか、または Eメールアドレス webmaster@121ware.com宛にご連絡ください。

譲渡を受けたお客様へ

NECパーソナル商品総合情報サイト「121ware.com」での登録をお願いします。

http://121ware.com/my/　にアクセス

- はじめて登録するかた

  「新規取得」をクリックして登録
- 以前ハガキ、オンライン、FAXなどで登録されたかた

  「インターネット以外の方法でご登録済みの方はこちら」をクリックして登録
- すでにログインIDをお持ちのかた

  「ログイン」をクリックして、ログイン後、保有商品情報の「新規・追加登録」で登録

インターネットに接続できないかたは、お客様登録に必要な次の事項を記入し、郵送してください。

1. 本体型番、型名のいずれかと保証書番号
（本体背面／底部または保証書に記載の型番／型名のいずれかと製造番号）
2. 氏名、住所、電話番号、Eメールアドレス、中古購入された場合はそのご購入先、ご購入日
3. 121wareお客様登録番号
（以前登録されてすでに「121wareお客様登録番号」をお持ちのかたは、記入をお願いします。）

宛先
〒143-8691　郵便事業株式会社　大森支店私書箱5号
NEC121ware登録センター係

このパソコンを廃棄するには

本製品は「資源有効利用促進法」に基づく回収再資源化対応製品です。PCリサイクルマークが銘板（パソコン本体の底面にある型番、製造番号が記載されたラベル）に表示されている、またはPCリサイクルマークのシールが貼り付けられている弊社製品は、弊社が責任を持って回収、再資源化いたします。希少資源の再利用のため、不要になったパソコンのリサイクルにご協力ください。

当該製品をご家庭から排出する際、弊社規約に基づく回収･再資源化にご協力いただける場合は、別途回収再資源化料金をご負担いただく必要はありません。

廃棄時の詳細については、NECパーソナル商品総合情報サイト
「121ware.com」（URL：http://121ware.com/support/recyclesel/）
をご覧ください。

なお、下記の窓口でも廃棄についてお問い合わせいただけます。

NEC 121コンタクトセンター
回収リサイクルのお問い合わせ　受付時間：9:00 ～ 17:00（年中無休）
フリーコール 0120-977-121

※電話番号をよくお確かめになり、おかけください。
※システムメンテナンスのため、サービスを休止させていただく場合があります。

携帯電話やPHS、もしくはIP電話など、フリーコールをご利用いただけないお客様は下記電話番号へおかけください。

03-6670-6000(東京)(通話料金はお客様負担になります)

※電話番号をよくお確かめになり、おかけください。

当該製品が事業者から排出される場合(産業廃棄物として廃棄される場合)、当社は資源有効利用促進法に基づき、当社の回収・リサイクルシステムにしたがって積極的に資源の有効利用につとめています。廃棄時の詳細については、下記のホームページで紹介している窓口にお問い合わせください。

URL:http://www.nec.co.jp/eco/ja/business/recycle/it/

※本文に記載された電話番号や受付時間などは、将来予告なしに変更することがあります。

ハードディスク、メモリーカード上のデータ消去に関するご注意

本内容は「パソコンの廃棄・譲渡時のハードディスク上のデータ消去に関するご注意」の趣旨に添った内容で記載しています。詳細は以下のホームページをご覧ください。
http://it.jeita.or.jp/perinfo/release/020411.html

パソコンのハードディスクやメモリーカードには、お客様が作成、使用した重要なデータが記録されています。このパソコンを譲渡または廃棄するときに、これらの重要なデータ内容を消去することが必要になります。「データやファイルの消去」、「ハードディスクの初期化(フォーマット)」、「メモリーカードの初期化(フォーマット)」、「パソコンの再セットアップ」などの操作をおこなうと、記録されたデータの管理情報が変更されるためにWindowsでデータを探すことはできなくなりますが、ハードディスクやメモリーカードに磁気的に記録された内容が完全に消えるわけではありません。
このため、データ回復用の特殊なソフトウェアを利用すると、ハードディスクやメモリーカードから消去されたはずのデータを読み取ることが可能な場合があり、悪意のある人によって予期しない用途に利用されるおそれがあります。

お客様が廃棄・譲渡などをおこなう際、ハードディスクおよびメモリーカード上の重要なデータの流出トラブルを回避するために、記録された全データをお客様の責任において完全に消去することが非常に重要です。データを消去するためには、専用ソフトウェアまたはサービス(ともに有償)を利用するか、ハードディスク上のデータを金槌や強磁気により物理的・磁気的に破壊(メモリーカードの場合は、金槌による物理的破壊のみ)して、読めなくすることを推奨します。

このパソコンでは、再セットアップディスクを作成して、ハードディスクのデータ消去ができます。詳しくは『パソコンのトラブルを解決する本』の「再セットアップディスクを使って再セットアップする」-「ハードディスクのデータ消去」をご覧ください。

また、ハードディスクやメモリーカード上のソフトウェア(OS、アプリケーションソフトなど)を削除することなく譲渡すると、ソフトウェアライセンス使用許諾契約に抵触する場合があります。十分な確認をおこなってください。

パソコンの改造はおこなわない

添付されているマニュアルに記載されている以外の方法で、このパソコンを改造・修理しないでください。記載されている以外の方法で改造・修理された製品は、当社の保証や保守サービスの対象外になることがあります。

仕様一覧

本体仕様一覧

本体の仕様一覧について詳しくは、添付の『本製品の仕様について』の「仕様一覧」をご覧ください。

LAN仕様一覧

項　目	規　格
準拠規格	ISO 8802-3、IEEE802.3、IEEE802.3u、IEEE802.3ab
ネットワーク形態	スター型ネットワーク
伝送速度	1000BASE-T使用時：1,000Mbps 100BASE-TX使用時：100Mbps 10BASE-T使用時：10Mbps
伝送路	1000BASE-T使用時：UTPカテゴリ5e以上 100BASE-TX使用時：UTPカテゴリ5 10BASE-T使用時 ：UTPカテゴリ3または5
信号伝送方式	ベースバンド伝送方式
メディアアクセス制御方式	CSMA/CD方式
ステーション台数	最大1,024台/ネットワーク
ステーション間距離/ ネットワーク経路長※	1000BASE-T：最大約200m/ステーション間 100BASE-TX：最大約200m/ステーション間 10BASE-T：最大約500m/ステーション間 最大100m/セグメント

※リピータの台数など、条件によって異なります。

ワイヤレスLAN仕様一覧

本機能はDraft 11n対応ワイヤレスLAN(bgn)モデルのみの機能です。

●IEEE802.11b/g

項　目	規　格
準拠規格	IEEE802.11g、IEEE802.11b、ARIB STD-T66※3
通信モード	IEEE802.11gモード:54/48/36/24/18/12/9/6 (Mbpsモード)※1 IEEE802.11bモード:11/5.5/2/1(Mbpsモード)※1
変調方式	OFDM方式(54/48/36/24/18/12/9/6Mbpsモード時) DS-SS方式(11/5.5/2/1Mbpsモード時)
無線チャンネル	1～13ch(アクティブスキャン)
周波数帯域	2.4GHz帯域(2.4～2.4835GHz)
セキュリティ	WPA-PSK(TKIP/AES)、WPA2-PSK(AES) WEP(鍵長64bit/128bit※2)

※ 1：各規格による理論的な通信速度をもとにした通信モード表記であり、実効速度とは異なります。接続対象機器、電波環境、周囲の障害物、設置環境、使用状況、ご使用のOS、アプリケーション、ソフトウェアなどによっても、通信速度、通信距離に影響する場合があります。
※ 2：ユーザーが設定可能な鍵長は、それぞれ40bit、104bitです。
※ 3：ARIBについての表記の説明は「ソフト&サポートナビゲーター」-「パソコンの各機能」-「ワイヤレスLAN(無線LAN)」-「ワイヤレスLAN(無線LAN)使用上の注意」をご覧ください。

●IEEE802.11n Draft 2.0

項　目	規　格
準拠規格	IEEE802.11n Draft 2.0※1、ARIB STD-T66※3
通信モード (送信時)	20MHz時:65/58.5/52/39/26/19.5/13/6.5(Mbpsモード) 40MHz時:150/135/120/90/60/45/30/15(Mbpsモード)※2
通信モード (受信時)	20MHz時:130/117/104/78/52/39/26/13(Mbpsモード) 40MHz時:300/270/240/180/120/90/60/30(Mbpsモード)※2
変調方式	OFDM方式、MIMO方式
無線チャンネル	1～13ch(アクティブスキャン)
周波数帯域	2.4GHz帯域(2.4～2.4835GHz)
セキュリティ	WPA-PSK(AES)、WPA2-PSK(AES)

※ 1：「IEEE802.11n Draft 2.0準拠」の表記は、他のIEEE802.11n Draft対応製品との接続性を保証するものではありません。
※ 2：各規格による理論的な通信速度をもとにした通信モード表記であり、実効速度とは異なります。接続対象機器、電波環境、周囲の障害物、設置環境、使用状況、ご使用のOS、アプリケーション、ソフトウェアなどによっても、通信速度、通信距離に影響する場合があります。
※ 3：ARIBについての表記の説明は「ソフト&サポートナビゲーター」-「パソコンの各機能」-「ワイヤレスLAN(無線LAN)」-「ワイヤレスLAN(無線LAN)使用上の注意」をご覧ください。

Bluetooth仕様一覧

本機能はBluetooth機能を搭載したモデルのみの機能です。

項　目	規　格
準拠規格	Bluetooth Specification Ver.2.1+EDR※1準拠 －EDR(Enhanced Data Rate)対応※2 －AFH(Advanced Frequency Hopping)対応※2 －FC(Fast Connection)対応※2 －Simple Pairing 対応※2
周波数帯域	2.4GHz帯(2.400-2.4835GHz)
変調方式	周波数ホッピングスペクトラム拡散(FH-SS)方式
通信速度	最大約2.1Mbps※3
送信出力	Power Class2(最大4dBm)※4
対応Bluetoothプロファイル	Generic Access Profile Service Discovery Application Profile Serial Port Profile Dial-up Networking Profile FAX Profile Generic Object Exchange Profile Object Push Profile LAN Access Profile Personal Area Network Profile File Transfer Profile Basic Imaging Profile Human Interface Device Profile Hardcopy Cable Replacement Profile Headset Profile Advanced Audio Distribution Profile Audio/Video Remote Control Profile Generic Audio/Video Distribution Profile

※ 1：Bluetooth® V1.1/1.2/2.0規格との上位互換がありますが、機器により正常に動作しない場合がありますのでご購入前に必ず接続性をご確認願います。Ver.1.0bとは互換性がありません。

※ 2：接続先のBluetooth機器も同機能に対応している必要があります。また、AFH機能は回避可能な周波数帯域が確保できない場合は効果が得られない場合があります。

※ 3：通信速度はBluetooth® V2.1+EDR対応機器同士の規格による速度(理論値)です。接続対象機器、電波環境、周囲の障害物、設置環境、使用状況、ご使用のアプリケーション、ソフトウェア、OSなどによっても通信速度、通信距離に影響する場合があります。

※ 4：規格上の電波出力の最大値であり実際の電波出力(アンテナ効率含む)ではありません。

「ソフト＆サポートナビゲーター」詳細目次

「ソフト＆サポートナビゲーター」詳細目次

●ソフトを探す

目的からソフトを３ステップで選びます。使いたいソフトが決まっているときは50音から探すこともできます。

- 50音／英数字から選ぶ
- お気に入り
- ソフトの追加と削除について
- ソフトインストーラでソフトを追加･削除する

●使う

周辺機器をつなげたりするだけでなく、パソコンを安全に利用するときや設定の変更など、パソコンを「使う」ときに便利な情報について説明しています。

- パソコンにつなげる
- 安全に使うためのポイント
- ウイルス感染の防止
- 不正アクセスの防止
- Windowsの更新
- 使いやすい設定に変更
- Windowsの操作

●困った

Q&A情報とNECのサービス＆サポートについて説明しています。

- 困ったときには
- 突然、画面が表示された
- 電源と起動
- キーボード･マウス
- Windows操作･設定
- インターネット･ネットワーク
- 音･画像･映像
- 印刷･プリンタ
- ハードウェア･システム設定
- セキュリティ
- ソフト（アプリケーション）
- 知っておくと便利
- NECのサービス＆サポート

●パソコンの各機能

各部の名称と役割のほか、キーボードや省電力機能など、パソコンの機能について説明しています。
説明する内容は、機種により異なります。

●ソフト＆サポートナビゲーターについて

「ソフト＆サポートナビゲーター」の使い方や表記のルールなどについて説明しています。

- 本ソフトの使い方
- 本ソフトでの表記

●用語集

索引

各部の名称（1）

● 本体前面/右側面 ●

Webカメラ用レンズ※1
Webカメラ用ランプ※1
Webカメラ用マイク※1

液晶ディスプレイ

電源ランプ　バッテリ充電ランプ

スピーカ
トリプルメモリースロットアクセスランプ
トリプルメモリースロット（xD SD PRO）
ワイヤレススイッチ（ ）※2
ワイヤレスLANランプ（LAN）※2
外部マイク入力端子（ ）
ヘッドフォン/オーディオ出力端子（ ）

電源スイッチ（ ）
キーボード
USBコネクタ（ ）
DVD/CDドライブ
FeliCaポート※3
USBコネクタ（ ）
NXパッド
スピーカ

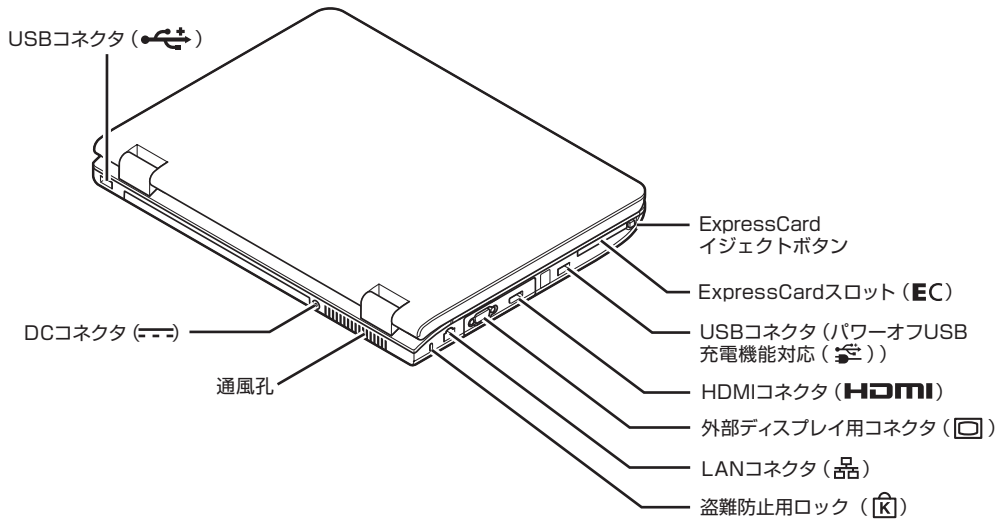
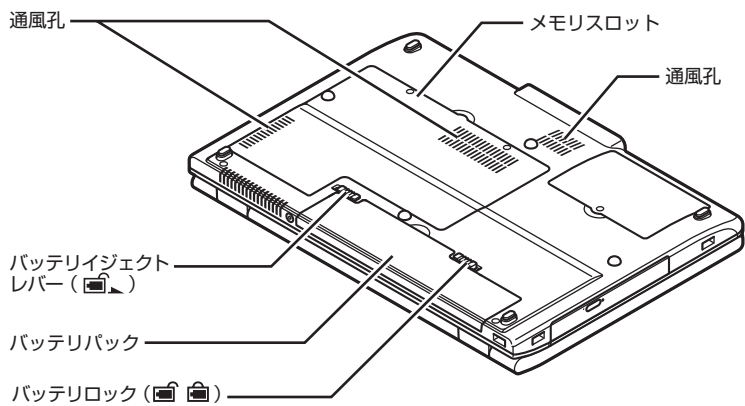
※1：Webカメラを搭載したモデルのみ
※2：ワイヤレスLAN機能を搭載したモデルのみ
※3：FeliCa対応モデルのみ

● キーボード上部 ●

①CD/ハードディスクアクセスランプ	⑤自動輝度センサ
②キャップスロックキーランプ	⑥ズームボタン
③スクロールロックキーランプ	⑦ワンタッチスタートボタン
④ニューメリックロックキーランプ	⑧ECOボタン/ランプ

詳しくは、「ソフト＆サポートナビゲーター」-「パソコンの各機能」をご覧ください。

各部の名称（2）

● 本体背面/左側面 ●

● 本体底面 ●

詳しくは、「ソフト&サポートナビゲーター」-「パソコンの各機能」をご覧ください。

各ランプの状態

電源ランプ（⏻）と電源の状態

電源ランプの状態	ACアダプタを接続しているとき	ACアダプタを外しているとき
青色に点灯	電源が入っている	電源が入っている
青色に点滅	スリープ状態	スリープ状態
オレンジ色に点灯	ー	電源が入っていて、バッテリ残量が少ない
オレンジ色に点滅	ー	次のいずれか 1：電源が入っていて、バッテリ残量があとわずか 2：スリープ状態で、バッテリ残量が少ない、またはあとわずか
消灯	電源が切れている、または休止状態	電源が切れている、または休止状態※1

バッテリ充電ランプ（▭）とバッテリの充電状態

バッテリ充電ランプの状態	バッテリの充電状態
オレンジ色に点灯	バッテリ充電中
オレンジ色に点滅	バッテリのエラー※2
消灯	ACアダプタが接続されていない、または充電完了

ワイヤレスLANランプ（LAN）とワイヤレスLAN機能の状態

ワイヤレスLANランプの状態	ワイヤレスLAN機能の状態
数秒に1回青色に点灯	オン（ワイヤレスLANアクセスポイントなどをスキャン中）
青色に点灯	オン（ワイヤレス通信が可能な状態）
青色に点滅	オン（データの送信または受信中）※3
消灯	オフ（ワイヤレスLAN機能が使用不可）

※1：バッテリ残量が少ないままバッテリの電源のみでパソコンを使い続けると、バッテリ残量が少ないというメッセージが表示されます。その後しばらくすると自動的に休止状態になり、電源ランプが消灯します。
※2：バッテリ充電時のエラー、バッテリの寿命、または劣化時にエラーとなります。
※3：ワイヤレス通信が可能な状態で、インターネットやメールなどのデータ通信をおこなっていない場合でも、ワイヤレス通信を維持するためのデータが自動的に送受信されるため、ワイヤレスLANランプが点滅する場合があります。

詳しくは、「ソフト＆サポートナビゲーター」-「パソコンの各機能」をご覧ください。

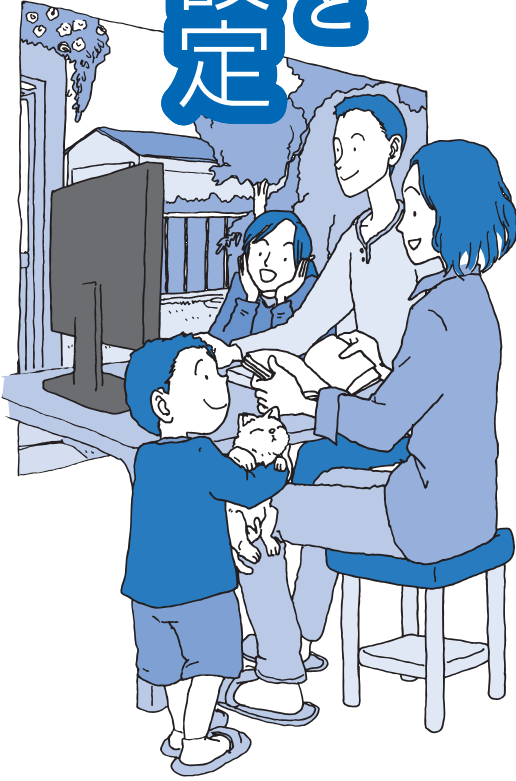
パソコンの中にもマニュアルがある

● ソフト＆サポートナビゲーターで調べてみよう ●

このパソコンには、使いたいソフトを探したり、パソコンの機能についての説明を見ることができる「ソフト＆サポートナビゲーター」が入っています。

デスクトップにある をダブルクリックすれば、いつでも利用できます。

目的に合わせて、次の4種類の説明をご覧ください。

▶ ソフトを探す	このパソコンに入っているソフトを探して、起動することができます。ソフトについての説明もあります。
▶ 使う	パソコンに周辺機器を取り付ける方法やWindowsの操作、セキュリティの設定などについて説明しています。
▶ 困った	うまくいかないとき、故障かな？と思ったときにご覧ください。NECのサポート窓口についての情報もこちらです。
▶ パソコンの各機能	このパソコンの各機能や名称についての詳しい情報を記載しています。

LaVie

初版 **2009年4月**
NEC
853-810601-825-A
Printed in Japan

NECパーソナルプロダクツ株式会社
〒141-0032 東京都品川区大崎一丁目11-1（ゲートシティ大崎 ウエストタワー）

このマニュアルは、再生紙を使用しています。